



彩の国
埼玉県

令和6年度(2024)

業 務 報 告



埼玉県マスコット
「コバトン」&「さいたまっち」

埼玉県農業技術研究センター

令和6年度（2024）業務報告 目次

I	事業概況	1
II	沿革・組織	3
III	試験研究の実施状況	
	1 各研究分野における試験研究実施の概要	6
	2 試験研究課題一覧	11
	3 試験研究課題の取組概要	16
IV	試験研究成果の公表、技術指導等	
	1 研究報告等	37
	2 学会発表・著書・刊行物	40
	3 マスコミ関連	44
	4 成果発表会	48
	5 知的財産権の出願・登録状況	50
	6 技術研修員の受入れ	53
	7 研修会等の開催	54
	8 講師派遣	56
	9 視察受入れ	72
V	研究員の研修等	
	1 研究員の派遣研修	74
	2 客員研究員の招へいによる研修会の開催	86
VI	運営会議・委員会等	
	1 委員会の開催等	87
	2 研究等評価委員会	88
VII	農業革新支援担当	
	1 活動方針・活動内容・体制	89
	2 活動実績	92
VIII	病虫害防除所業務	
	活動内容・体制・実績（埼玉県病虫害防除所業務年報）	107
IX	令和6年度決算	108

I 事業概況

農業技術研究センターは、県内農業者の収益性向上・産地の競争力強化のための埼玉ブランドとなる新品種の育成や、環境変化に対応した省力・低コスト・高品質生産技術の開発・普及に取り組む埼玉県の公設試験研究機関である。

県内に4つの研究拠点を持ち、本所（熊谷市須賀広）は園芸・畜産・生産環境・病虫害研究分野、玉井試験場（熊谷市玉井）は主穀作分野、久喜試験場（久喜市）は果樹・次世代施設園芸分野、秩父農林振興センター駐在（秩父市）は鳥獣害対策分野の職員が常駐し、各分野の試験研究に従事している。

また、先進的な農業者への技術支援、開発した技術の普及を推進する農業革新支援担当、病虫害の発生子察と農薬安全使用の推進及び肥料の品質確保や飼料の安全性確保・品質改善に係る業務及び肥飼料の生産・流通量等の調査を行う病虫害防除所が本所に設置され、それぞれ担当分野の活動に従事している。

（1）研究活動分野

埼玉県農林水産試験研究推進方針（令和2年改訂）に沿って、本県農業を支え豊かな県民生活を実現するために、安全・安心な農産物生産、本県オリジナル品種の育成、低コスト・省力生産技術の開発などの試験研究に取り組んでいる。

近年の特徴としては、農業においてもSDGsやカーボンニュートラルの実現に寄与する技術開発が強く求められていることから、これらに関する研究に力を入れている。

本年度は、温室効果ガスの排出削減、化石燃料の使用量削減、農地による炭素貯留（バイオ炭）や水田からのメタン発生量削減等を図るため、9課題を実施した。

近年の気候変動に対応した技術開発も要望が強く、前年からの水稻、小麦、乳牛の高温対策技術の開発、高温と低温の両方に強い水稻の育種課題の継続3課題に加え、過乾燥の影響が大きい露地野菜における効率的なかん水技術の開発に係る1課題を実施している。

また、農業就業人口が減少する中、農業生産を維持・発展させていくためにアグリテック（スマート農業）の推進も強く要望されており、トマトの環境制御、酪農や養豚の効率的な管理方法の開発に係る継続4課題に加え、ネギ栽培における自走式除草ロボットの効率的な利用、キュウリの環境制御に係る2課題を実施した。

その他、上記課題も含め、推進方針の分類による大柱Ⅰ（環境変化に対応した技術の開発）として15課題、大柱Ⅱ（埼玉ブランドとなる品種の育成と普及）として8課題、大柱Ⅲ（省力・低コスト・高品質生産技術の開発）として27課題、調査研究として34課題を実施した。

これらの研究で得られた成果や技術情報は、研究報告や新技術情報等として取りまとめ公表するとともに、ホームページに掲載する等多様な方法で広報した。また、農業指導者や生産者、一般消費者を対象とした成果発表会や研修会、講習会を開催するとともに、ホームページを積極的に活用し迅速・広範な伝達に努めた。

また、研究員の資質の向上を図るため、国の研修制度等を活用した派遣研修を実施するとともに、学会やシンポジウム、専門分野の会議等に研究員を派遣した。

（2）普及活動分野

「埼玉県5か年計画～日本一暮らしやすい埼玉へ～（令和4年度～令和8年度）」及び「埼玉県農林水産業振興基本計画（令和3年度～7年度）」の実現を図るため、関係機関との緊密な連携による専門性の高度化や政策課題への対応、先進的な農業者等への技術・経営支援及び広域的な普及活動を推進した。

活動内容としては、試験研究・教育・行政機関等との連携及び新たな技術の現地実証・普及に関すること、広域的な普及活動に関する企画・調整支援に関すること、農林振興センターの普及活動支援に

関すること、先進的な農業者等からの高度かつ専門的な技術・経営相談に関すること、普及指導員の育成に係る研修の企画・実施に関することを行った。

具体的には、重点プロジェクトとして主穀作における気候変動に対応した栽培技術の確立支援、新技術・新品種の導入による施設野菜経営の発展支援、改植・新植と優良品種導入によるナン生産基盤の強化、気候変動等に対応した花きの生産新技術の実証普及、新たな取組による飼料生産の拡大、経営ビジョン策定とネットワーク構築による経営強化と収益力向上、農業経営法人化の推進、狭山茶DX推進研究事業の現地活用支援に取り組んだ。

(3) 病虫害防除分野（病虫害防除所）

病虫害防除所は、植物防疫法第32条に基づき設置され、県全域を管轄区域としている。当所は、農業技術研究センター病虫害防除対策担当が兼務しており、農作物に被害を及ぼすおそれがある病虫害の発生状況の調査、発生予報や注意報などの情報提供、市町村並びに農業協同組合及び生産者に対する防除指導を通して、高品質で安全な農産物の安定的な生産確保に努めた。また、農薬取締法に基づく農薬販売者の届出受理や立入検査、生産者に対する農薬の適正使用指導、さらに肥料の品質の確保等に関する法律及び飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づく肥料の生産・販売に関する登録・届出の受理や、肥料・飼料の取扱事業所等に対する立入検査を実施した。

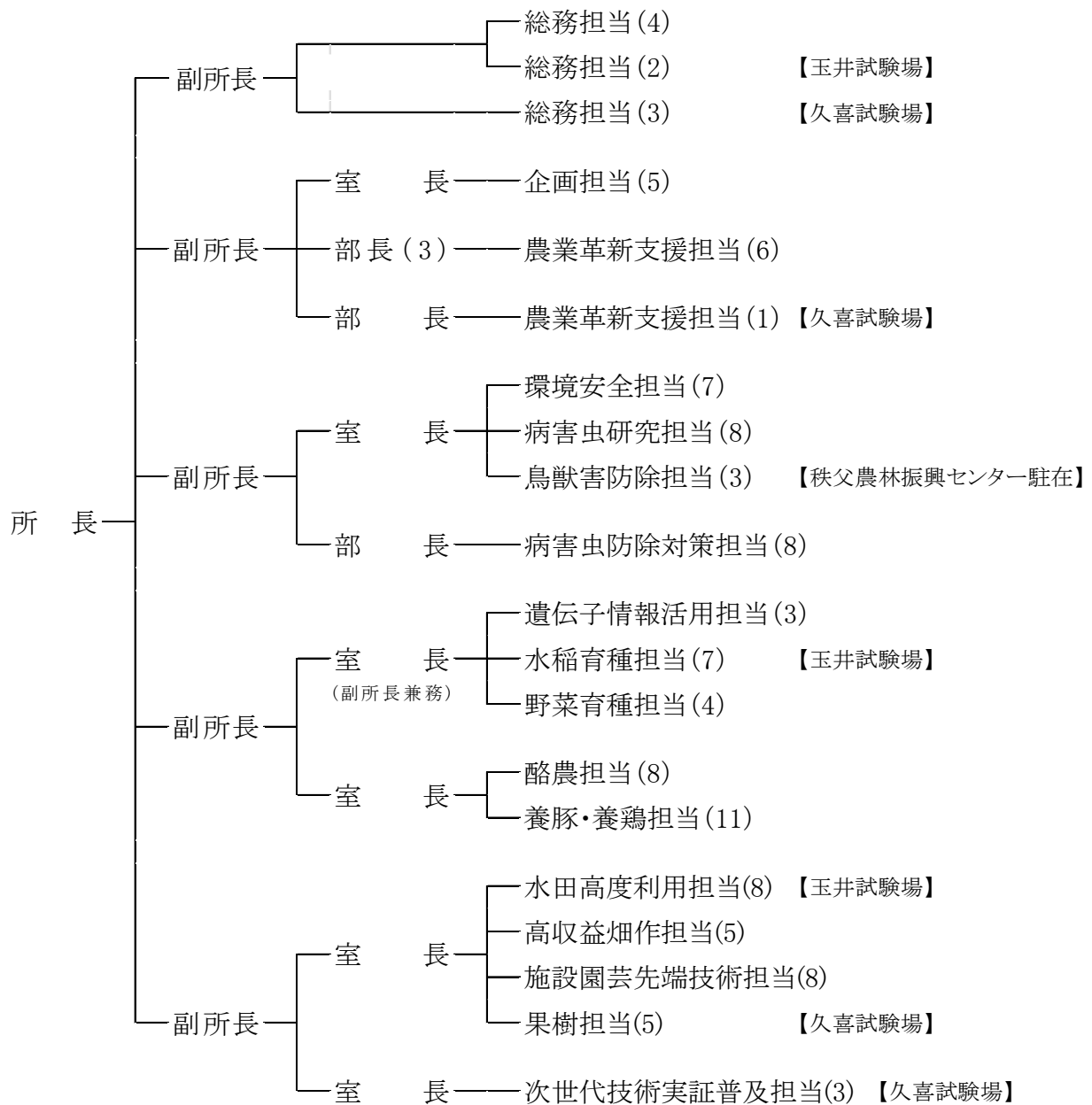
具体的には「令和6年度埼玉県病虫害防除所業務年報」（別冊）を参照。

II 沿革・組織

1 埼玉県農業技術研究センターまでの沿革

- 明治33年 埼玉県立農事試験場を玉井村（現熊谷市）に創設
- 大正 2年 養蚕部門を分離独立し、原蚕種製造所を設置
- 10年 本場を浦和町（現さいたま市）に移転し、農事試験場を玉井種芸部と改称
越谷園芸部を南埼玉郡越谷町（現越谷市）に設置
- 11年 原蚕種製造所を埼玉県蚕業試験場と改称
- 昭和 3年 茶業研究所を入間郡豊岡町（現入間市）に創設
埼玉県種畜場を大宮町（現さいたま市）に創設
- 5年 入間川園芸部を入間郡入間川町（現狭山市）に設置
- 8年 農事試験場本場を上尾市に移転
- 23年 種畜場を大里郡小原村（現熊谷市）に移転し、跡地に埼玉県家禽普及指導所を設置
農事試験場秩父試験地を秩父郡秩父町（現秩父市）に設置
- 25年 農事試験場を埼玉県農業試験場と改称
茶業研究所を合併して農業試験場茶業支場と改称
- 26年 埼玉県水産指導所を加須市に創設
- 29年 茶業支場を茶業研究所として独立
- 32年 埼玉県林業試験場を寄居町に創設
水産指導所を埼玉県水産試験場と改称
埼玉県水産試験場熊谷養鱒試験地を熊谷市に創設
- 34年 家禽普及指導所を埼玉県種鶏場と改称
- 36年 種畜場を埼玉県畜産試験場と改称
農業試験場経営部を入間郡鶴ヶ島町（現鶴ヶ島市）に設置
- 38年 種鶏場を廃止し、埼玉県養鶏試験場を日高町（現日高市）に設置
- 40年 農業試験場を熊谷市に移転
園芸部を分離独立して埼玉県園芸試験場を設置
- 46年 茶業研究所を埼玉県茶業試験場と改称
- 48年 経営部を農業試験場に統合、鶴ヶ島試験地として改称
- 49年 埼玉県花植木センターを深谷市に創設
- 51年 水産試験場熊谷養鱒試験地を水産試験場熊谷支場と改称
- 平成 9年 畜産試験場に養鶏試験場を統合し、埼玉県畜産センターと改称
- 10年 埼玉県蚕業試験場を廃止
- 12年 試験研究機関を統合し、埼玉県農林総合研究センターとして発足
（農業試験場を農林総合研究センター（本所）とし、他の試験場を支所に変更）
- 15年 支所を研究所に名称変更、植木支所を園芸研究所植木担当に統合
- 16年 農林総合研究センター熊谷試験地（旧水産試験場熊谷支場）を廃止
- 18年 本所機能（熊谷市久保島）、森林研究所（寄居町）、園芸研究所植木担当（深谷市）を
江南町須賀広（現熊谷市）に移転
森林研究所と植木担当を統合し、森林・緑化研究所長（職制）を設置
畜産研究所長（職制）を設置
水田農業研究所を熊谷市久保島に設置
- 20年 旧深谷試験地（園芸研究所植木担当）跡地を深谷市へ貸与
- 27年 本所に水田農業研究所、園芸研究所を統合し、埼玉県農業技術研究センターとして発足
併せて、玉井試験場、久喜試験場と改称。農業革新支援担当を新設。鶴ヶ島試験地を廃止。
森林・緑化研究所は寄居林業事務所内へ移転。茶業研究所、水産研究所は単独研究所として発足
- 29年 久喜試験場内に次世代技術実証・普及センターを設置
- 30年 病虫害防除対策担当を設置

2 埼玉県農業技術研究センターの組織図（令和7年3月31日）



3 職員数（令和7年3月31日）

担 当	人 数	内 訳				会計年度 任用職員
		研究職	行政職・技術職			
			うち再任用	うち再任用		
所長、副所長、室長	11	10	0	1	0	0
総務	9	0	0	9	2	1
企画	5	5	1	0	0	0
農業革新支援	11	0	0	11	3	0
環境安全	7	5	0	2	1	1
病虫害研究	8	6	1	2	0	1
鳥獣害防除	3	3	0	0	0	0
病虫害防除対策	9	0	0	9	2	2
遺伝子情報活用	3	3	0	0	0	0
水稻育種	7	4	0	3	1	0
野菜育種	4	3	0	1	1	2
酪農	8	3	0	5	0	3
養豚・養鶏	11	4	0	7	1	2
水田高度利用	8	4	0	4	0	1
高収益畑作	5	4	0	1	1	1
施設園芸先端技術	8	6	0	2	1	2
果樹	5	4	0	1	0	0
次世代技術実証普及	3	3	1	0	0	2
計	125	67	3	58	13	18

会計年度任用職員は短時間勤務の職員を含まない

III 試験研究の実施状況

1 各研究分野における試験研究の実施概要

(1) 企画担当

農業技術研究センターの効率的な管理・運営を行った。運営会議の事務、広報委員会、編集委員会、施設・圃場調整委員会、玉井施設・圃場調整委員会、化学物質安全管理委員会、遺伝子組換え生物利用安全委員会、動物実験委員会の運営にあたった。

試験研究等の企画・調整業務として県民、農業者等の研究ニーズの把握と対応、研究課題の進行管理と評価及び研究成果の公表と情報発信を行った。

特許等知的財産の管理、産学官の共同研究及び交流等の推進、玉井試験場圃場整備、久喜試験場施設整備、温室等施設整備に関する業務を行った。

(2) 農業革新支援担当

VIII 農業革新支援担当 2 活動実績 参照

(3) 環境安全担当

土壌環境の改善や施肥技術に関する研究として、県内農耕地土壌の実態調査や土壌が持つ炭素固定能力を解明する試験を実施した。また、緑肥導入による化学肥料削減と土壌への炭素貯留技術の開発、彩の国資源循環工場等で製造される汚泥肥料の安全施用技術、バイオ炭利用による二酸化炭素貯留・作物生産性向上技術の開発に取り組んだ。

残留農薬に係る試験研究として、マイナー作物の農薬残留確認調査や河川中農薬モニタリング調査を実施した。

化学物質等の農産物への影響回避技術開発研究として、水田におけるマイクロプラスチック流出低減対策技術の検討、茶生産現場における農薬残留実態調査、葉菜類における化学肥料削減技術の検討を行った。

以上の成果は、成果発表会や農林振興センターを通じて情報提供を行い、生産現場等への技術の普及・定着を図った。さらに、試験研究のほか、施肥指導に係る研修、農業大学校において講義等を実施した。

(4) 病虫害研究担当

ダイズ栽培において、ミナミアオカメムシの生息数と吸害粒率に相関性がみられたことから、本種の要防除水準を策定することが可能と考えられた。また、圃場における病原菌のDNAを用いた病害リスク評価手法の開発について研究を行った。

野菜においては、ナスについて、農研機構が育成した青枯病抵抗性系統の評価を行ない、高度の抵抗性を有することを確認した。また、ニンニク栽培における病虫害の発生実態調査を行った。

薬剤感受性の現状について、灰色かび病とシロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ及びオオタバコガを対象に調査を行った。

共通事項として、新規開発及び既登録の殺菌、殺虫、生物農薬の登録・実用化に向けた試験を実施した。また、病虫害防除所と協力して発生予察調査を実施し、病虫害発生予察情報を作成・提供（年12回）するとともに、水稻及びダイズでのカメムシ類の発生消長と被害の増加が新たなフェーズにあることを明らかにした。さらに、普及指導員などからの病虫害診断（依頼）（約20件）に対応した。

(5) 鳥獣害防除担当

農業者の生産意欲維持と持続性のある農業を展開するため、野生鳥獣による農作物被害を回避する技術の研究に取り組んだ。

多獣種による複合的な被害を回避するため、多獣種に対応した侵入防止柵の設置指導に取り組み、特に被害の著しいニホンジカとニホンザルについては、行動調査や生息調査等により最適な設置場所を選定し、ICT技術を活用した効率的な管理技術の開発と実証を行った。

カラスなどの鳥類に対して既存資材の組合せで被害回避効果を高める技術の実証を行った。

アライグマについてはGPSデータ解析による雌成獣の行動調査やフィールド調査による環境調査を行い、雌成獣の行動解析を行った。

また、くくりわな及び箱わなでの捕獲を対象としたAI搭載クラウドシステムによる画像解析の検証を行った。

(6) 病害虫防除対策担当

VIII 病害虫防除所業務参照

(7) 遺伝子情報活用担当

環境DNAを指標とした病害のリスク評価、DNAマーカー選抜による新品種開発の加速化支援、遺伝子情報を活用した品種判別技術の開発、遺伝子解析による品種特性の比較、環境DNAを利用した豚熱対策の手法開発を行った。「環境DNAを指標とした水稻及び麦類重要病害の発病リスク評価」では、コムギなまぐさ黒穂病について、土壤中の環境DNA量と発病程度に一定の相関が見られた。「遺伝子情報を活用した水稻早生系統育成の効率的手法の開発」では、県内における出穂期と、出穂期に関連する遺伝子多型を比較し、早生の形質が多く現れるような交配母本を選定した。「イチゴ県オリジナル品種の開発(育種課題)」では、「彩6号(べにたま)」「埼園い1号(かおりん)」「埼園い3号(あまりん)」について、国内の主要品種とDNAによる識別が可能となった。「ニホンナシ育種新系統の高品質安定生産技術の確立と遺伝的特性の評価」では、今年度出願公表となった「彩姫」「彩彦」の2品種の自家不和合遺伝子を特定した。「豚熱対策への活用に向けたイノシシ環境DNA検出手法の開発」では、野生イノシシの特異的な検出に有効と考えられるプライマーセット及びプローブを開発した。

(8) 水稻育種担当

水稻等の新品種育成・定着化研究では、病害虫抵抗性を持ち、気候変動に対応できる良質・良食味品種及び特殊用途用として酒米の育成を行うとともに、水稻奨励品種決定調査として有望系統・品種の本県での適応性を調査した。また、今後のさらなる気候変動に対応すべく、高温耐性と耐冷性を合わせ持つ品種育成に向けた交配・選抜、資材高騰に対応するため肥料の低投入に対応可能な品種選定試験を実施した。水稻・麦類・ダイズの現地支援及び累年調査事業では、範型を隔離栽培し、選抜・淘汰により種子純度を維持した。

令達事業では、新品種「えみほころ」の大規模現地実証の技術支援に取り組んだ。また、主要農作物採種事業において奨励品種の原原種の増殖を行い、水田フル活用支援事業では、沖縄県での暖地二期作を利用した世代促進栽培を実施した。

受託試験事業は、品質評価に関する試験、高温耐性特性検定、民間育成品種評価を行った。

(9) 野菜育種担当

県内イチゴ生産の活性化を図るため、イチゴの品種育成及び栽培技術開発について試験・研究を行った。

品種育成では、観光・直売向け品種及び市場出荷向け品種の育成のため、優良品種・系統間の交雑で得られた実生を供試し、食味を中心として早生性、果実外観等の形質を基に有望系統を選抜した。栽培技術開発では、本圃における低夜温（最低気温 5℃）栽培において慣行（最低気温 8℃）栽培と同等程度の収量が確保できる気温・地温条件について検討した。また、茎頂点培養によって増殖された「あまりん」及び「べにたま」のセル苗を用いて、育苗期間中に発生するランナーを採苗する短期増殖法と本圃直接定植による収量等への影響について検討した。

丸系八つ頭原種 2 系統について出芽日・地上部生育・収穫・一芽率を調査し、形質維持のため選抜を実施した。

(10) 酪農担当

乳牛の生産性向上、飼料自給率の向上、伝染病予防、畜産の環境負荷低減を目的とし 5 課題を実施した。

乳牛では、プロバイオティクスを活用した乳房炎対策、ICT 技術を牛の飼養管理向上につなげる技術として電池レスビーコンの分娩検知等への応用について検討を行った。

飼料では、本県に適応性の高い飼料用トウモロコシの品種を選定するための生育・収穫調査を行った。

環境では、伝染病予防対策としてサシバエ防除、環境負荷低減として温室効果ガスの発生源となる排泄物に由来する窒素排泄量を低減できる泌乳前期飼料の開発に取り組んだ。

(11) 養豚・養鶏担当

養豚関係では、8 課題を実施した。養豚振興対策事業として、ブランド豚の受精卵凍結保存事業及び豚凍結人工授精技術を活用した埼玉養豚競争力アップ事業を実施し、英国系バークシャー種及び高コレステロール・動脈硬化症ミニブタの受精卵 108 個をガラス化保存し、優良種豚の凍結精液を 820 本作製した。豚の受精卵移植確立試験において、初期胚の新規ガラス化保存方法及び新規耐凍剤を検討した。豚熱感染リスクを回避する新たな豚繁殖管理システムの開発において、IoT 技術を活用し、陰唇長の計測データ、小型加速度センサーによる行動量計測データ、環境データを用いた分娩予測方法について検討した。IoT 技術を活用した子豚損耗低減化試験においては、豚の分娩検知を 16 頭の分娩豚を用いて検討した。さらに、早期産子数予測診断技術の開発において妊娠雌豚から腹部超音波画像を取得し解析し、また、妊娠豚生体試料からホルモン測定を実施した。高オレイン酸豚の生産技術に関する研究では飼料用米と米ぬかを用いた混合飼料の設計と給与を行った。豚の非外科的採卵方法の開発では子宮灌流用多孔性カテーテルを開発し、と体及び生体で子宮灌流試験を行った。

養鶏関係では、2 課題を実施した。タマシャモ生産体制整備事業では、高品質肉用鶏「タマシャモ」の維持・増殖のため、種鶏を 1 回、原種を 1 回更新した。また、肥育用素雛 21,550 羽を農家に配布した。卵肉いいとこどり開発研究事業では、採卵用雌について産卵能力等の詳細な調査、さらに肥育用雄について増体性調査を実施した。また、原種鶏の危機管理対策として県内の 3 農業高校での分散飼育を実施した。

(12) 水田高度利用担当

「水稻等の新品種育成・定着化研究（麦類奨励品種決定調査）」では小麦 13 系統、大麦 10 系統（ビール麦 3 系統、六条皮麦 5 系統、はだか麦 2 系統）の本県における適応性について調査した。「省力で環境負荷の低いレンゲ稲作体系の確立」では、レンゲの空撮による植生指標値と生育量との関係を解析するとともに、レンゲすきこみ後の乾田直播水稻の生育、収量について検討した。「水稻・麦類・ダイズの現地支援及び累年調査事業」では、水稻、麦類の累年調査を実施し現地への技術支援を行った。「受託試験事業（植物調節剤実用化試験）」では、新規水稻除草剤の実用性について検討した。咲いた米・みらいプロジェクト「異常気象に対応できる水稻の品種育成及び生産技術の開発」では、高温耐性をもつ中晩生品種「えみほころ」

の高品質・安定生産技術を検討した。「異常気象に対応できる麦・ダイズ生産技術の開発」では、温暖化に対応した小麦の播種適期と栽培法、ダイズの作期別の栽培法を検討した。「水稲乾田直播栽培の冬期播種技術の開発」では、播種期の前進化において懸念される苗立ちの低下や雑草害に対応するための技術を検討した。「二条大麦「ニューサチホゴールデン」の高品質安定栽培技術の確立」では、ビール麦新品種の高品質・安定生産技術を検討した。「水稲及びハウレンソウ栽培におけるもみ殻高機能バイオ炭によるCO₂固定効果の実証・評価」では、水稲移植栽培において、もみ殻バイオ炭を施用した栽培技術体系を検討した。

また、新規課題として、「農繁期を平準化するための新たな主穀輪作体系の評価」に取り組んだ。

(13) 高収益畑作担当

露地野菜7課題及び保有する雑穀等遺伝資源(在来種)の更新と保存を行った。

「ネギの省力安定生産技術の開発」では、省力的な除草作業手法と灌漑処理方法、湿害回避対策を検討した。「加工業務用タマネギの直播栽培体系の開発」では、播種時期や播種条件(播種深度、鎮圧程度等)、灌水管理技術、施肥技術、除草剤体系等について検討した。「ニンニク安定生産技術の開発」では、本県における品種別生育特性を調査し、栽培方法(植付深度、栽植密度)を検討した。「露地野菜における過乾燥に対応した節水灌漑技術の確立」では、ナスとアスパラガスにおける生育ステージ別の乾燥が生育に及ぼす影響の把握と、利用効率の高い灌水・追肥技術の確立に向け試験を実施した。「青パパイヤ増収技術の開発」では、初期生育促進及び減肥技術について検討した。「機械収穫に適したキャベツの栽培技術の開発」では、一斉収穫に適した育苗技術や株間と球形サイズの関係について検討した。「水稲及びハウレンソウ栽培におけるもみ殻高機能バイオ炭によるCO₂固定効果の実証・評価」では、ハウレンソウにおけるバイオ炭施用の影響調査を行った。「雑穀等の遺伝資源保存」では、種子更新のほか、生育特性や保存種子の発芽能力を調査した。

(14) 施設園芸先端技術担当

野菜4課題、花3課題、及び特性調査と品種系統維持に取り組んだ。「トッリーフカット適用拡大に向けたトマト摘葉管理技術の開発」では、トッリーフカットの栽培方法における収量への影響と中玉、ミニトマトに対応した増収技術について検討した。「環境制御の効果を発揮できるキュウリ養液土耕栽培管理方法の確立」では、環境制御下の養液栽培において、葉柄汁液及び培養液中の硝酸態窒素濃度推移と生育を調査した。「キュウリ増収のための環境制御下の土耕栽培における最適な灌水管理技術の開発」では、養液土耕栽培時の炭酸ガス施用下における灌水量の増加が生育、収量に及ぼす影響を調査した。また、抑制栽培と半促成栽培において時期別の最適灌水量を検討した。「施設栽培果菜類における効率的冷暖房制御の開発・実証」では、波長選択型積層フィルムをカーテンに利用した際のキュウリへの影響調査と、ヒートポンプによる効率的な冷暖房技術を検討した。「ユリ施設栽培における局所温度管理技術の開発」では、局所冷暖房による生育、開花と切り花品質に及ぼす影響を調査した。「低温庫を活用したプリムラの高品質苗生産技術の確立」では、低温感応による開花促進効果を得られる限界葉齢の調査、低温下において品質の低下しない光強度の検討及び低温処理後の苗順化方法について検討した。ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業「輸送期間延長に対応可能なアジサイ鮮度保持方法の検討」では、延命剤による日持ち向上効果を調査した。

「園芸作物の新品種等導入支援研究」では、ミニトマトの促成栽培における生育・収量・果実品質等栽培特性の調査及び、芳香シクラメンの品種系統維持と種子の長期保存方法について検討した。

(15) 果樹担当

埼玉県に適した果樹品種の育成・選抜、収量向上、省力化、安定生産、高品質果実生産等について、研

究を実施した。

戦略的スマート農業技術等の開発・改良事業「花粉採取と受粉作業の省力化を可能にするスマート農業技術の開発」では、自走式花蕾採取機におけるニホンナシ、オウトウでの性能評価及び、ニホンナシにおける機械走行に適した樹形、品種別の採取適期の検討、ドローン受粉機の実用性評価試験を行った。国庫委託プロ「機械化樹形に対応した短果枝着生性に優れるナシ品種候補の開発」では、自家和合性を有するニホンナシ新品種「ゆつみ」について、側枝の仰角と花芽形成の関係、JV樹形による作業性への影響を調査した。育種課題「ニホンナシの交雑育種」では、耐病性、早生良形質品種等の選抜を目的とし、初結実が得られた系統の評価選抜を行った。果樹産地再生支援事業「埼玉果樹における新たな省力化技術の実証」では、ニホンナシ JV 樹形樹において、結実した果実の品質調査、省力性調査を行った。また、自走式防除機、無人自動自走式草刈機、静電風圧式受粉機等についての省力化実証試験、非破壊検査機能付き選果機について、精度向上作業と導入効果の検証を行った。「ニホンナシ育種新系統の高品質安定生産技術の確立と遺伝的特性の評価」では、開花後日数別の受粉時期、果台の着生位置、花序、葉果比が結実率、果実品質に及ぼす影響を調査した。ブドウ「シャインマスカット」の未熟粒混入症の発生要因解析と軽減技術の開発」では、着果負担、花穂成型方法、摘粒時期、摘心強度、植調剤処理と未熟粒発生との関係性を調査した。果樹の新品目特性調査では、農研機構育成系統の本県での適応性を評価した。ナシの作況調査では、当該年度の生育・品質状況を調査し、講習会等を通じ生産者、関係機関職員に情報提供を行った。受託試験「静電風圧式受粉機のニホンナシ受粉における省花粉効果及びキウイフルーツ受粉への適用性の評価」では、静電風圧式受粉機のナシでの省花粉効果を確認するとともに、キウイフルーツ生産者圃場で現地試験を行い、キウイフルーツへの適用性を検討した。受託試験、「新規農薬・植物調節剤実用化試験」では、2剤の除草剤（ナシ対象）の実用性を評価した。

(16) 次世代技術実証普及担当

久喜試験場内に整備された「次世代施設園芸埼玉拠点」（以下、「埼玉拠点」）に導入されている先進的な技術を、土耕ハウスで実証研究するとともに、「埼玉拠点」で得られた各種データの解析を行った。

土耕ハウスでは、トマト長期多段どり栽培（年1作）における高温期の品質向上等に関する実証を行うとともに、環境安全担当と連携して細霧冷房装置による薬剤散布の実証を行った。

「埼玉拠点」に関しては、トマト低段密植栽培（養液栽培）による周年栽培のうち、高温期及び低温期の炭酸ガス施用効果について調査を行った。

研究スタートアップ支援事業では、低段密植栽培の残渣処理に関して堆肥化技術の検討を行った。

得られた成果を広く県内の施設園芸農家に普及するため、定例研修会（11回、原則毎月第4火曜日）の開催等を行った。

令和6年度農業技術研究センター試験研究課題一覧

大柱Ⅰ 環境変化に対応した技術の開発

	課題番号	課題名	担当	開始年	終了年
(1)	003151	安心安全農産物確保対策事業 安全安心農産物確保のための調査研究 ①水田におけるマイクロプラスチック流出低減対策 ②葉菜類における化学肥料削減技術の検討 ③茶生産現場での安全性確認調査	環境安全	H13	-
(2)	003171	農薬残留対策総合調査 ①農薬残留確認調査事業（マイナー作物の農薬残留確認調査） ②河川中農薬モニタリング調査	環境安全	H26	-
(3)	220011	彩の国資源循環工場等で製造される汚泥肥料の安全施用技術	環境安全	R4	R6
(4)	230011	緑肥導入による化学肥料削減と土壌への炭素貯留技術の確立	環境安全	R5	R7
(5)	235011	【気候変動に対応した農業技術開発事業】 バイオ炭利用による二酸化炭素貯留・作物生産性向上技術の開発	環境安全	R5	R9
(6)	003161	病害虫防除所費 ①病害虫発生予察、新病害虫発生警戒 ②病害虫防除薬剤農薬環境リスク低減技術確立 ③総合的病害虫管理（IPM）推進	病害虫研究	H21	-
(7)	230021 230022	環境DNAを指標とした水稻および麦類重要病害の発病リスク評価	遺伝子情報活用 病害虫研究	R5	R7
(8)	003071	有害動植物防除等体制整備促進事業 野生動物の農作物被害防止総合対策の推進	鳥獣害防除	H21	-
(9)	003121	中山間地域活性化対策事業 野生獣の農作物被害防止総合対策の推進	鳥獣害防除	H21	-
(10)	200021	アライグマ雌成獣の行動解明による効果的な捕獲技術の開発	鳥獣害防除	R2	R6
(11)	235021	【気候変動に対応した農業技術開発事業】 高温登熟耐性と障害型冷害耐性を両立したイネの育成	水稻育種	R5	R9
(12)	225011	【埼玉スマート農業研究開発事業】 省力で環境負荷の低いレンゲ稲作体系の確立	水田高度利用、環境安全	R4	R6
(13)	235031	【気候変動に対応した農業技術開発事業】 水稻乾田直播栽培の冬期播種技術の開発	水田高度利用、農業革新支援	R5	R9
(14)	235041	【気候変動に対応した農業技術開発事業】 ユリ施設栽培における局所温度管理技術の開発	施設園芸先端技術	R5	R9
(15)	240101	吸血害虫サシバエの防除技術の確立	酪農	R6	R9

大柱Ⅱ 埼玉ブランドとなる新品種の育成と普及普及

	課題番号	課題名	担当	開始年	終了年
(16)	220021	遺伝子情報を活用した水稻早生系統育成の効率的手法の開発	遺伝子情報活用	R4	R6
(17)	220031 220032	イチゴ県オリジナル品種の開発（育種課題）	野菜育種 遺伝子情報活用	R4	R8 R6

	課題番号	課題名	担当	開始年	終了年
(18)	000011	水稲等の新品種育成・定着化研究（育種課題）	水稲育種、遺伝子情報活用、水田高度利用	S27	-
(19)	230031	低投入施肥型品種育成のための母本の探索	水稲育種	R5	R7
(20)	230041	小麦穂発芽粒判別方法の確立と発芽率維持のための手法組立て	水稲育種	R5	R7
(21)	000031	ナシの交雑育種（育種課題）	果樹	S59	-
(22)	203021	養豚振興対策事業 ブランド豚の受精卵凍結保存	養豚・養鶏	R2	-
(23)	213021	スタートアップ！卵肉いいとこどり開発事業 卵肉いいとこどり開発研究事業	養豚・養鶏	R3	R7

大柱Ⅲ 省力、低コスト、高品質生産技術の開発

	課題番号	課題名	担当	開始年	終了年
(24)	215011 215012 215013 215014	【主穀作における気候変動への対応技術の確立】 異常気象に対応できる麦・大豆生産技術の開発	水田高度利用 高収益畑作 病害虫研究 農業革新支援	R3	R7
(25)	240041 240042	ニンニク安定生産技術の開発	高収益畑作 病害虫研究	R6	R8
(26)	240011 240012	ニホンナシ育種新系統の高品質安定生産技術の確立と遺伝的 特性の評価	果樹 遺伝子情報活用	R6	R8
(27)	220041	イチゴ新品種「べにたま」の低温伸長性を生かした低温管 理栽培技術の開発	野菜育種	R4	R6
(28)	243011	あまかおべにべに倍増作戦展開事業 イチゴセル苗を活用した簡易・省力的育苗方法の確立	野菜育種	R6	R8
(29)	213011 213012	咲いた米・みらいプロジェクト推進事業 異常気象に対応できる水稲の品種育成及び生産技術の開発	水稲育種、遺伝子情報活 用、農業革新支援 水田高度利用、環境安全	R3	R6
(30)	230071	二条大麦「ニューサチホゴールデン」の高品質安定栽培技 術の確立	水田高度利用 農業革新支援	R5	R7
(31)	240061	農繁期を平準化するための新たな主穀輪作体系の評価	水田高度利用	R6	R8
(32)	230081	青パパイヤ増収技術の開発	高収益畑作	R5	R7
(33)	240021	ネギの省力安定生産技術の開発	高収益畑作	R6	R8
(34)	240031	加工業務用タマネギの直播栽培体系の開発	高収益畑作	R6	R8
(35)	240051	露地野菜における過乾燥に対応した節水灌漑技術の確立	高収益畑作	R6	R8
(36)	243021	元気な野菜産地づくり支援事業 機械収穫に適したキャベツの栽培技術の開発	高収益畑作	R6	R8
(37)	220051	キュウリ増収のための環境制御下の土耕栽培における最適 な灌水管理技術の開発	施設園芸先端技術	R4	R6

	課題番号	課題名	担当	開始年	終了年
(38)	240071	トッブリーフカットによるトマト栽培管理技術の開発	施設園芸先端技術 次世代技術実証普及	R6	R9
(39)	240081	環境制御の効果を発揮できるキュウリ養液土耕栽培管理方法の確立	施設園芸先端技術	R6	R9
(40)	240091	低温庫を活用したプリムラの高品質苗栽培技術の確立	施設園芸先端技術 農業革新支援	R6	R8
(41)	203031	果樹産地再生支援事業 埼玉果樹における新たな省力化技術の実証	果樹	R2	R6
(42)	220071	ブドウ「シャインマスカット」の未熟粒混入症の発生要因解析と軽減技術の開発	果樹	R4	R6
(43)	235051	トマト土耕栽培における高温期増収技術及び高効率環境制御技術の実証	次世代技術実証普及 環境安全	R5	R7
(44)	235061	トマト養液栽培の周年栽培における炭酸ガスの効果的施用による収量向上	次世代技術実証普及	R5	R7
(45)	243041	アグリテック栽培技術発信拠点事業 トマトにおける施設栽培用暖房機排ガス中炭酸ガス回収・施用装置による環境負荷軽減技術の効果検証	次世代技術実証普及	R6	R6
(46)	230051	電池レスビーコンのフル活用による乳牛の生涯生産性向上	酪農	R5	R7
(47)	165041	養豚振興対策事業 豚凍結人工授精技術を活用した埼玉養豚競争力アップ事業	養豚・養鶏	H28	-
(48)	225021	豚熱感染リスクを回避する新たな豚繁殖管理システムの開発	養豚・養鶏	R4	R6
(49)	230061	早期産子数予測診断技術の開発	養豚・養鶏	R5	R7
(50)	243051	養豚収益力向上事業 高オレイン酸豚の生産技術に関する研究	養豚・養鶏	R6	R8

大柱Ⅳ 地域の特性を生かした技術開発と指導

なし

大柱Ⅴ 調査研究

	課題番号	課題名	担当	開始年	終了年
(51)	201011	研究スタートアップ支援事業	企画	H24	-
(52)	201021	現地支援・緊急対応のための調査研究事業	企画	H24	-
(53)	000271	土壌保全調査（モニタリング）	環境安全	H11	-
(54)	002021	農地土壌炭素貯留等基礎調査事業（農地管理実態調査） 農業の土壌機能における炭素固定能力解明	環境安全	H20	-
(55)	004041 004042 004043 004044	受託試験事業 （新規農薬・植物調節剤実用化試験）	環境安全 病害虫研究 水田高度利用 果樹	H21	-
(56)	244021	国内肥料資源の肥料利用拡大に向けた調査（地力調査）	環境安全	R6	R9

	課題番号	課題名	担当	開始年	終了年
(57)	244061	受託試験事業 菌体りん酸肥料「荒川クマムシくん1号」の肥料原料としての特性評価	環境安全	R6	R6
(58)	244071	受託試験事業 荒川クマムシくん1号入り混合堆肥複合肥料888号の特性評価	環境安全	R6	R6
(59)	222021	植物検疫上の要求事項を満たすための体制の構築事業（輸出植物検疫に資する調査等） 相手国が要求する国内における病害虫発生実態の把握のための調査体制整備（木本植物が植えられた培養資材中でのマメコガネの生存性の調査）	病害虫研究	R4	R6
(60)	232021	食料安全保障強化に向けた革新的新品種開発プロジェクト 「食料安全保障強化に資する新品種開発」 青枯病抵抗性ナス品種の現地実証試験	病害虫研究	R5	R7
(61)	004101	受託試験事業 （品質評価に関する試験） ①ビール大麦の粗タンパク質含量分析 ②主要農作物種子の発芽試験	水稻育種	H16	-
(62)	164041	受託試験事業 系統適応性等検定試験（高温耐性検定）	水稻育種	H23	-
(63)	184031	受託試験事業 稲民間品種等の評価試験	水稻育種	H30	-
(64)	213041	主要農作物採種事業 原原種生産体制整備事業	水稻育種	S37	-
(65)	000251 000252	園芸作物の新品目の特性調査（モニタリング）	果樹 野菜育種	S42	-
(66)	000281	水稻・麦類・大豆の現地支援及び累年調査事業	水田高度利用 水稻育種	S27	-
(67)	232011 232012	グリーンイノベーション基金事業「農業副産物を活用した高機能バイオ炭の製造・施用体系の確立」 水稻及びハウレンソウ栽培におけるもみ殻高機能バイオ炭によるCO ₂ 固定効果の実証・評価	水田高度利用 環境安全 高収益畑作 農業革新支援	R5	R9
(68)	244041	受託試験事業 栽培管理システム構築に係る生育データの収集	水田高度利用	R6	R6
(69)	180081	雑穀類の遺伝資源保存	高収益畑作	H30	-
(70)	220061	園芸作物の新品種等導入支援研究	施設園芸先端技術	H17	-
(71)	222041	事業名：地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業（環境省） 施設栽培果菜類における効率的冷暖房制御の開発・実証	施設園芸先端技術	R4	R6
(72)	243031	ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業 輸送期間延長に対応可能なアジサイ鮮度保持方法の検討	施設園芸先端技術	R6	R6
(73)	000301	ナシ作況調査（モニタリング）	果樹	H21	-
(74)	222031	スマート農業技術の開発・実証・実装プロジェクト 花粉採取と受粉作業の省力化を可能にするスマート農業技術の開発	果樹	R4	R6
(75)	242011	食料安全保障強化に向けた革新的新品種開発プロジェクト スマート技術向けの特性を持つ果樹品種の開発 機械化樹形に対応した短果枝着生性に優れるナシ品種候補の開発	果樹	R6	R7

	課題番号	課題名	担当	開始年	終了年
(76)	244031	受託試験事業 静電風圧式受粉機のニホンナシ受粉における省花粉効果およびキウイフルーツ受粉への適用性	果樹	R6	R6
(77)	244051	受託試験事業 豚熱対策への活用に向けたイノシシ環境DNA検出手法の開発	遺伝子情報活用	R6	R7
(78)	004051	受託試験事業 高能力飼料作物品種選定調査(飼料用とうもろこし)	酪農	H29	-
(79)	222011	委託プロジェクト「畜産からのGHG排出削減のための技術開発」 排せつ物管理における温室効果ガスを削減する泌乳前期牛飼料の研究開発	酪農	R4	R8
(80)	232041	牛乳房炎発症予防法と抗病性育種の開発事業(日本中央競馬会畜産振興事業) 牛乳房炎発症予防法開発の実証と評価	酪農	R5	R7
(81)	003191	高品質畜産物生産体制整備事業 豚の受精卵移植確立試験	養豚・養鶏	H10	-
(82)	003192	高品質畜産物生産体制整備事業 高品質畜産物生産振興事業(タマシャモ生産体制整備事業)	養豚・養鶏	H21	-
(83)	232031	日本中央競馬会畜産振興事業 IoT技術を活用した子豚損耗低減化試験	養豚・養鶏	R5	R7
(84)	242021	伊藤記念財団研究助成事業 豚の非外科的採卵技術の開発	養豚・養鶏	R6	R6

3 試験研究課題の取組概要

(1) 安全安心農産物確保のための調査研究 安全安心農産物確保対策事業（令達事業）

① 水田におけるマイクロプラスチック流出低減対策

エムコートに比べJコートでは崩壊性が高かった。また、ペースト2段施肥は窒素量を3割削減しても、エムコートと比較し収量が高くなった。このため、マイクロプラスチック代替技術として有効であることが示唆された。（環境安全）

② 葉菜類における化学肥料削減技術の検討

指定混合肥料（農家想い）、混合堆肥複合肥料（エコバード、エコマスター）はコマツナ、ブロッコリー栽培において、化学肥料と同等の肥効を示し、各資材に含まれる有機質由来の肥料分量に相当する化学肥料を削減できることが示唆された。

ホウレンソウ栽培において、有機質肥料（味好3号）は施用量、腐熟期間などの条件によって土壌病害の発病を助長する可能性が示唆された。（環境安全）

③ 茶生産現場での安全性確認調査

霞川（入間市）、入間市、狭山市の茶園周辺及び茶業研究所の井戸水中の農薬について、4月～11月までLC-MS/MSにて分析を行った。イミダクロプリドは圃場での使用履歴はないが、7月及び8月に井戸水及び河川で調査期間内では高い値で検出された。ジノテフランは茶業研究所を除きほとんどの調査期間で検出された。

イミダクロプリドとジノテフランは輸出茶葉から検出されたとの報告があったことから井戸水由来の可能性が示唆された。茶業研究所では8月以降にダイアジノンがわずかに検出されたが他の薬剤は検出されなかった。（環境安全）

(2) 農薬残留対策総合調査（令達事業）

① 農薬残留確認調査事業（マイナー作物の農薬残留確認調査）

青パパイヤのアブラムシ類防除のため、クロルフェナピル（コテツフロアブル）登録に向けた予備試験を実施した。薬剤施用は2回散布とし、2回目の散布から1日後、3日後、7日後、15日後でGC-MSにて残留濃度を分析した。2回散布1日後で0.05ppmとなり日数の経過とともに減衰がみられ、15日後で0.01ppmとなった。各作物のクロルフェナピル残留基準はトマトで1ppm、ブロッコリーで3ppm、きゅうりで0.5ppm、その他野菜で5ppmとなっており、登録拡大の可能性が示唆された。（環境安全）

② 河川中農薬モニタリング調査

小山川流域6地点について採水を行い、ダイアジノン、チアメトキサム、ジノテフラン、フェニトロチオンの4農薬について実態把握を行った結果、調査期間を通し、環境基準点においていずれの農薬の濃度も水域の生活環境動植物の被害防止に係る農薬登録基準（水域基準）を下回ることを確認できた。

ダイアジノンは散発的に検出され、いずれの橋においても検出時期が重なり似た挙動を示した。環境基準点である一の橋においても同日に最大濃度0.020 µg/Lを検出した。

チアメトキサムは低濃度であるものの調査期間を通して継続して検出され、2024年7月31日に一の橋で最大濃度0.063 µg/Lを検出した。8月～10月上旬にかけてはいずれの橋においても他の期間と比較し濃度が上昇する傾向がみられた。

ジノテフランは調査期間を通して検出され、一の橋では8月14日に最大濃度0.566 µg/Lとなり、出穂期のカメムシ防除とによるものと示唆された。

フェニトロチオンは散発的に検出され、8月上旬～9月下旬にピークが見られたが検出時期はいずれの橋においても似た時期となった。一の橋での最大濃度は8月28日0.079 µg/Lとなった。ネギでの使用が主であるが、水田での使用も考えられた。

調査結果は環境省及び2024年度農薬環境挙動連絡試験成績検討会にて報告した。（環境安全）

(3) 彩の国資源循環工場等で製造される汚泥肥料の安全施用技術

下水道局試作発酵汚泥肥料（以下「汚泥肥料」）の特性として、土壌の種類にかかわらず、施用後2～4週間程度で施用窒素量の最大30%程度が肥料として有効となることが確認できた。また、リン酸については、灰色低地土では施用量の約45%が有効態リン酸（トルオーグリン酸）となり、黒ボク土ではリン酸の土壌固定により有効となる割合は1～2%であった。

栽培あと土壌について、0.1M塩酸浸出法による土壌中の亜鉛含有量は、汚泥肥料の施用量が増えるほど化学肥料区と比較して高くなる傾向がみられた。また、表層の方が次層より蓄積する傾向がみられた。

汚泥肥料の窒素無機化特性を考慮したコマツナ、ホウレンソウの栽培試験結果は、収穫時の生育及び収量は化学肥料区と同等となった。コマツナ、ホウレンソウ茎葉中の重金属は乾物当たりで比較した場合、汚泥肥料を施用した区の銅、亜鉛含有量が化学肥料区よりも高くなる傾向がみられた。（環境安全）

(4) 緑肥導入による化学肥料削減と土壌への炭素貯留技術の確立

ソルガム、エンバク、ライムギ、ヘアリーベッチを栽培し、すき込み後の後作物の減肥栽培について検証した。ソルガムすきこみ後のブロッコリー栽培やヘアリーベッチすきこみ後のコマツナ栽培では基肥を減肥した場合でも生育や収量に差がないことが示唆された。また、緑肥すき込みによる炭素貯留効果について検証したところ、土壌中の炭素量に大きな変化は見られなかった。新たな試験方法により検証を続けていく。

現地圃場において、ソルガムのすき込み後のブロッコリー基肥減肥栽培を検証したところ、慣行施肥区とソルガムすき込み+減肥区で生育量や収量等に大きな差は見られなかった。またソルガムすきこみにより下層部に溶脱した無機態窒素を利用できることが示唆された。（環境安全）

(5) バイオ炭利用による二酸化炭素貯留・作物生産性向上技術の開発 気候変動に対応した農業技術開発事業（県信連）

バイオ炭の材料として、4品目（抜根茶樹、パパイヤ茎、キュウリ茎、ダイズ残渣）について検討した。また、バイオ炭の炭素率及び精練度から、2024年度までに検討した材料の中ではトマト茎、木本である梨の剪定枝、茶樹は炭素貯留効果が高いと推察された。

作物に対するバイオ炭の施用効果を検証するため、ポットでのコマツナ生育試験を実施した。梨剪定枝バイオ炭を2作連用した施用試験では、灰色低地土の場合5t/10aまで、黒ボク土の場合1t/10aまでが適正施用量と考えられた。トマト茎、パパイヤ茎、茶樹、ブロッコリー茎で作成したバイオ炭の施用試験では、バイオ炭の種類による明確な差はなく、灰色低地土では施用量が多いほど発芽率が高くなる傾向であった。また、圃場においてトマト茎、梨剪定枝のバイオ炭の連用効果を確認中である。（環境安全）

(6) 病虫害防除所費（令達事業）

① 病虫害発生予察、新病虫害発生警戒（植物防疫事業交付金）

病虫害発生予察情報の作成・提供（年12回）。病虫害防除所と連携して実施した。とくに水稲及びダイズでのカメムシ類の発生活消長と被害の増加が新たなフェーズにあることを明らかにした。（病虫害研究）

② 病虫害防除薬剤農薬環境リスク低減技術確立（消費・安全対策事業交付金）

トマトにおける灰色かび病菌合計10菌株について4種類の薬剤の感受性を検定した結果、全ての薬剤で耐性菌が検出された。

県内各地で発生しているシロイチモジヨトウ3個体群、ハスモンヨトウ2個体群、オオタバコガ1個体群に

ついて、18剤の薬剤感受性を調べた結果、ジアミド系殺虫剤などに感受性の低下が認められた。

ダイズにおけるミナミアオカメムシの生息数と吸害粒率に相関性がみられたことから、本種の要防除水準を策定することが可能と考えられた。また、薬剤感受性は、MEP乳剤>エチプロール水和剤>エトフェンプロックス乳剤の3剤の補正死亡率が高かった。(病害虫研究)

③ 総合的病害虫管理（IPM）推進（消費・安全対策事業交付金）

秋冬ネギにおいて、ネギアザミウマを主対象とした総合的病害虫管理効果を検討し、データ収集を行った。過去のデータと併せて実践指標を策定した。(病害虫研究)

（7） 環境DNAを指標とした水稲および麦類重要病害の発病リスク評価

近年開発されている環境DNAを網羅的に解析する技術について、農業分野への応用を検討した。具体的には、イネ紋枯病及びコムギなまぐさ黒穂病を対象とし、作付け前の圃場における病害の発病リスクの把握を目的とし、圃場の病原菌密度と発病程度の関係を調査した結果、一定の相関関係にあることが明らかとなった。(遺伝子情報活用、病害虫研究)

① イネ紋枯病

人為的に汚染させた試験区では一定の接種区からDNAが検出されたが、発病程度との関連は判然としなかった。圃場では初期菌密度と発病程度との相関は示唆されたが、eDNAは検出されなかった。(遺伝子情報活用)

② コムギなまぐさ黒穂病

人為的に汚染させた試験区ではDNA量と発病程度に正の相関がみられた。圃場ではeDNAが僅かしか検出されず、発病もあまり確認されなかったことから、人為的に汚染させた試験区ほど正の相関はみられなかった。(遺伝子情報活用)

（8） 野生動物の農作物被害防止総合対策の推進 有害動植物防除等体制整備促進事業（令達事業）

① 生息域拡大を警戒する有害動物の実態・生態把握

川島町河川敷内及び荒川河川域のシカの動態を確認した結果、出没頻度は増加傾向にあった。冬期のシカ出没数の低下の原因と生息場所については不明であった。また、イノシシの個体数増加についても確認した。(鳥獣害防除)

② 有害動物の被害対策

カラス対策としてテグスをスイートコーン圃場上部2m間隔展張・電気柵通電線上の2段張りで設置した結果、被害の発生はなかった。

AIによる認識率はアライグマで84%であった。しかし、画像の検知率が低く、消費電力が多いため稼働時間が短い事が課題として残った。今後も獣種認識の正答率や検知率向上、検知後のトリガー作動、低電力消費等の改良が必要である。(鳥獣害防除)

（9） 野生獣の農作物被害防止総合対策の推進 中山間地域活性化対策事業（令達事業）

① 野生動物被害の総合的な対策技術の開発

飯能市吾野地区に生息するサル群の頭数削減を行った結果、捕獲により群の無くなった地域への行動拡大を確認した。秩父市浦山地区に生息するサル群から分裂した群の頭数、行動域を確認した。小鹿野町と秩父市を生息域とするサル群について、群の存在しない地域への行動域拡大を確認した。

サル調査データを基に捕獲檻を5か所に設置し効率的な捕獲が実証された。(鳥獣害防除)

② 被害防止対策啓発活動

被害発生地で野生動物の痕跡を調査し有効な対応策を伝達した。

サル群の行動を地図化した。侵入防止柵設置マニュアル（2023年度版）を更新した。

関係機関と連携し、鳥獣対策についての講習会や実践を通して技術の伝達を行った。（鳥獣害防除）

(10) アライグマ雌成獣の行動解析による効果的な捕獲技術の開発

GPS 測位ログデータからアライグマの滞在地点及び移動経路、活動地点の環境を把握し、アライグマを効率的に捕獲するための捕獲地点の評価基準を作成した。あわせて、捕獲者が捕獲地点を選定する上で参考となる出没地点事例集を作成した。

捕獲地点評価基準による採点は捕獲頭数の少ない地点より多い地点で点数が高く、アライグマが出没する環境要素数が多い捕獲実証地では捕獲効率（CPUE）が高かった。（鳥獣害防除）

(11) 高温登熟耐性と障害型冷害耐性を両立したイネの育成 気候変動に対応した農業技術開発事業（県信連）**① 人工気象室を利用した障害型耐冷性の評価方法**

低温処理の異なる3処理区を設け試験を行ったが、どの処理区でも基準品種が序列通りに並ばず評価判定が行えなかった。（水稻育種）

③ 高温登熟耐性と障害型耐冷性を両立した系統の育成

どの処理区でも基準品種が序列通りに並ばなかったため、障害型冷害耐性について評価判定はできなかった。（水稻育種）

(12) 省力で環境負荷の低いレンゲ稲作体系の確立 埼玉スマート農業研究開発事業

調査から推定したレンゲ肥効と撮影日別 NDVI 値について比較的広い範囲で正の相関が見られたため、15日刻みでNDVI値と肥効の対応表を作成した。レンゲの生育量を確保するためには、9月上旬～10月上旬頃播種すること、レンゲ播種前に深さ5～20cm程度の耕起を行うとよいことがわかった。9月播種のレンゲ繁茂量の空撮診断は、すき込みの2週間以前に行うことが適切であり、NDVI値から肥効を推定可能と考えられた。レンゲあとの水稻乾田直播栽培においては、収量や品質の面から、すき込み後あまり時間を置かずに播種をすることが望ましく、すき込み3日後の播種でも問題なく出芽し、慣行施肥以上の多収となる区も見られた。（水田高度利用）

(13) 水稻乾田直播栽培の冬期播種技術の開発 気候変動に対応した農業技術開発事業（県信連）

冬期播種において、鎮圧の時期が苗立に与える影響は小さく、播種時期が早いほど苗立率は低下した。2月播は、4月播と収量は同等以上であったが、玄米外観品質は劣った。播種期別の種子予措が苗立に与える影響は、12、2月播においてチウラム・ベノミル水和剤の苗立向上効果が確認された。鉄コーティングは本試験の検討範囲では効果がなかった。昨年度同様、播種深度は播種時期にかかわらず2～3cmが望ましいと考えられた。被覆尿素を用いた基肥の全層施用は、冬期に窒素が溶出しにくいシグモイド型が望ましいと考えられた。12月18日以降に播種した乾田直播栽培時の雑草は、埋土種子量が多い条件でも土壌処理剤を用いた慣行除草体系により、発生個体数は無除草区に比べて有意に低下した。（水田高度利用）

(14) ユリ施設栽培における局所温度管理技術の開発 気候変動に対応した農業技術開発事業（県信連）

球根発根部への局所冷房は終日処理期間が長いほど生育は優れ、切り花品質は無処理（無冷房）に比べ

向上した。異常花の発生は処理により抑制された。局所暖房処理では、ハウス内温度は慣行のハウス内温度設定 15℃と同様に推移したものの、開花が2日前進した。しかし、生育は慣行と比較し有意差は見られず、切り花品質はおおむね同等であった。

生長点部への局所冷房処理は、LA ユリでは定植後 30 日または 45 日から開花まで実施することにより、切り花品質の向上効果が認められたが、生育については球根発根部への局所冷房処理よりも効果の程度は小さかった。ハウス内温度設定 10℃+局所暖房設定 15℃処理は、慣行のハウス内温度設定 15℃とほぼ同等の切り花品質であった。(施設園芸先端技術)

(15) 吸血昆虫サシバエの防除技術の確立

吸血昆虫サシバエの防除技術の開発を目的とし、効率的な防除資材の施用適期・適用場所を明らかにするための発生消長調査及び実態調査、薬剤によらない防除資材の探索を行った。農技研酪農エリアでは、目視カウントで7月及び11月に二峰性のピークがみられ、現地農家では、8月及び11月にピークがみられた。発生源調査では、農技研酪農エリアではバーンクリーナー脱水機周辺、飼槽周辺に幼虫・蛹が存在した。現地農家では、飼槽周辺に幼虫・蛹が存在した。サシバエ成虫の殺虫効果は、キャットニップ、フルゴ酸には認められず、サポニンでは殺虫剤と同等の殺虫効果が確認できた。(酪農)

(16) 遺伝子情報を活用した水稲早生系統育成の効率的手法の開発

調査した67品種・系統のうち13品種が、2023年度までに検証した出穂の早晩性に最も有効な遺伝子Hd1で早生型の多型を示した。Hd1で早生型の多型を示した品種を交配母本として選定することで、熟期が早生である品種の作出に有効であることが示唆された。(遺伝子情報活用)

(17) イチゴ県オリジナル品種の開発 (育種課題)

① 観光直売向け品種の育成

極良食味系統の育成を目的に6組合せ、白系イチゴの育成を目的に6組合せの交配を行った。得られた実生から良食味で果実外観に優れた系統を選抜した。

2次選抜では3系統、3次選抜では2系統を食味等を元に選抜した。4次選抜に供試した3系統のうち、系統 217956-3は収穫・果実特性から有望と判断した。(野菜育種)

② 市場出荷向け品種の育成

早生系統の育成を目的に4組合せ、耐病性系統の育成を目的に2組合せ計6組合せで交配を行った。得られた実生から食味及び果実特性に基づき選抜を行った。

2次選抜では早生性を示した系統を中心に2系統を選抜した。3次選抜では早生である系統22b071-6を選抜し、2025年度の4次選抜に供試することとした。(野菜育種)

③ 品種判別技術の開発

イチゴ国内主要40品種の識別を行うための省力的で有効な組合せを決定した。また、一部のCAPSマーカーについて改良を行い、制限酵素処理を必要としない省力的な多型の判別手法を開発した。(遺伝子情報活用)

(18) 水稲等の新品種育成・定着化研究 (育種課題)

① 新品種育成試験

「新品種育成等の取組方針」(平 29. 3. 28 改正)に基づき病害虫抵抗性を持ち、気候変動に対応できる良質・良食味品種などを育成目標として研究を実施している。

53 組合せの交配、12 組合せの F1 養成、44 組合せの集団養成、99 組合せの系統選抜、のべ 60 系統の生

産力検定、のべ788系統の特性検定を実施した。共同戦略連携協定により新潟県、栃木県、福井県、山形県と交換系適を行った。酒造好適米は7系統を有望と判定し、産業技術総合センター北部研究所に分析を依頼し、酒蔵も交えた情報交換を実施した。(水稲育種)

② 奨励品種決定調査(水稲、小麦、大麦、ダイズ)

水稲は、4系統を早植、うち3系統を普通期にて評価した。「むさしの35号」「むさしの38号」をやや有望と判定し2025年度継続とした。「むさしの37号」「関東294号」は特性把握のため打切とした。また、4系統を有望と判断し「むさしの39、40号」「むさしの酒41、42号」の地方系統名を付与した。(水稲育種)

麦類は、23品種・系統を供試した。本調査は小麦のみであり、「ハナマンテン」と比較して「ゆめかおり」は大粒でタンパク質含有率が高く、収量は同程度であり、「ハナチカラ」は低収で外観品質がやや劣り、「タマイズミR」はややタンパク質含有率が高いものの低収であった。2024年産の結果では「ゆめかおり」が有望と思われた。2025年産も引き続き検討する予定である。(水田高度利用)

(19) 低投入施肥型品種育成のための母本の探索

① 低投入施肥に適応する母本の探索

大粒系の品種系統では施肥区で穂数が有意に増加したが、コシヒカリ系の3品種系統では有意な差が見られなかった。少施肥としたとき、大粒系の品種系統は層重歩合を低く抑えられていたため交配母本に適する可能性が示唆された。(水稲育種)

② 形態及び生態的分類による肥効反応の検証

「コシヒカリ」「ひとめぼれ」の根長が長かった。また、達観ではあるが無施肥区の中で「コシヒカリ」の主根が太かった。しかし、高温不稔の影響で収量調査を行えなかったため、根の生育が収量に及ぼす影響を明らかにすることはできなかった。(水稲育種)

(20) 小麦穂発芽粒判別方法の確立と発芽率維持のための手法組立て

① 穂発芽粒判別方法の確立

発芽粒の作成は、浸水置床8時間処理では約半数、16、24時間処理では均一に種子が発芽した。 α アミラーゼ活性測定をブルースターチ法で行ったが、有意な測定値を得ることができなかった。二酸化炭素の測定は、発芽処理の有無で測定値に差が見られた。(水稲育種)

② 穂発芽粒の経時的な発芽能力の把握

発芽粒サンプルを各貯蔵条件に保管し経時的に発芽試験を行った結果、5か月間ではどの条件下でも発芽能力の低下は見られなかった。(水稲育種)

(21) ナシの交雑育種(育種課題)

第6次、7次交配系統にて7系統17個体について果実調査を行い、果肉障害が確認された個体は中止系統として伐採した。また、2系統4個体から花粉を採取し、精選効率と花粉発芽率の調査を行った。(果樹)

(22) ブランド豚の受精卵凍結保存 養豚振興対策事業(令達事業)

血統を加味した英国系バークシャー種の種雌豚4頭を選定し、過排卵誘起処理後に3頭から外科的採卵を実施したところ、67個の受精卵を回収した。従来はhCG投与後164時間後の胚を回収・凍結するところ、hCG投与後116時間後の胚の回収・凍結を試みた。4細胞期、8細胞期の胚が多く回収でき、凍結後、融解すると発生の進行が確認できた。また、高コレミニブタのうち、発情を回帰する未経産豚2頭から採卵を実施し、93個の受精卵を回収した。MVAC法及び新規ガラス化保存法であるクライオロック法及びマ

イクロドロップレット法で受精卵 108 個をガラス化保存した。(養豚・養鶏)

(23) 卵肉いいとこどり開発研究事業 スタートアップ! 卵肉いいとこどり開発事業 (令達事業)

採卵用コマーシャル鶏(雌)について、体重、産卵成績、生存率、飼料摂取量、飼料要求率、日産卵量等の詳細な能力調査を行った。餌付け時(0~28日齢)の生存率は98.0%であり、29日齢~48週齢の生存率は98.7%であった。また、30週齢時、40週齢時、50週齢時のヘンディ産卵率はそれぞれ93.9%、95.3%、91.6%であり、開発指標の75%以上(151日齢~560日齢の平均産卵率)を上回る見込みで推移した。平均体重は20週齢時に1,949g、56週齢時に2,454gであり、開発指標の2,800g以下に向け、順調に推移している。また、モニター農家11戸へ計583羽の雛を配布した。

肥育用コマーシャル鶏(雄)について、120日齢までの肥育調査を実施したところ、平均体重は2,295gであり、タマシャモコマーシャル鶏(2023年度成績)と比較し26.6%減少した。また、飼料要求率は4.21であり、一般的な地鶏(日本飼養標準家禽2011年版)と比較し9.7%劣る結果となった。(養豚・養鶏)

(24) 異常気象に対応できる麦・ダイズ生産技術の開発 主穀作における気候変動への対応技術の確立

① 小麦の播種適期と栽培技術

11月上旬~12月中旬播種において、「さとのそら」の収量は、播種量6kg/10aでは12月上旬播は多く、12月中旬播は低い傾向にあり、播種量10kg/10aでは判然としなかった。「あやひかり」の収量は、播種時期、播種量による影響は判然としなかった。両品種ともタンパク質含有率は全区で低く、特に11月上旬播が低かった。「さとのそら」の施肥体系について、11月22日播は、基肥と追肥の合計施肥量が多い区で収量、タンパク質含有率が高まる傾向であった。12月15日播は、追肥量0~4kg/10aの範囲では、追肥量が多いほど整粒重やタンパク質含有率が高まる一方、追肥時期の影響は認められなかった。(水田高度利用)

② ダイズの作期拡大技術

イ 栽培技術

極早播では、評価基準に従い夏ダイズ利用に比較的有望と考えられる8品種を選抜したが、いずれもしわ粒が多く、実用性があるとは言えなかった。「里のほほえみ」の早播では、先行降雨指数API30を指標とした灌水の実施は、青立ち低減効果があると考えられた。灌水条件下では、開花期以前の摘心・摘葉により不稔莢率がやや低くなり、開花期及び開花期3週間後以降の摘葉により裂皮粒粒比がやや低下し、整粒粒比がやや高くなった。(水田高度利用)

③ 現地定着支援

高温であったが定期的な降雨のため播種時や開花期の土壌水分が保持され、出芽及び着花・着莢が良好であった。狭畦により初期の生育量を確保することで慣行と同等以上の収量を確保することができた。7月下旬の晩播でも適切な肥培管理によって250kg/10a以上の坪刈り収量を確保することができた。しかし、防除が徹底できなかった圃場ではカメムシ類の多発により青立株が発生し減収を招いた。(農業革新支援)

(25) ニンニク安定生産技術の開発

① 品種の特性解明

「ホワイト六片」「上海にんにく」「嘉定にんにく」の本県における品種の特性を明らかにした。「ホワイト六片」は最も一球重が重かったが、そのばらつきは大きかった。また、いずれの品種も種サイズが大きいほど一球重、莖径、球径の値が大きく、一球重のばらつきは小さくなる傾向が見られた。(高収益畑作)

② 安定栽培技術確立

栽植密度の低下により莖径と球径は大きく、一球重が増加し、大玉の割合も増加した。しかし、収量は減少した。(高収益畑作)

③ 病害虫発生実態調査

ネギアザミウマは3月下旬～4月中旬、春腐病は3月下旬、さび病は4月上旬～4月中旬に発生が始まると考えられた。さび病は病斑面積が葉面積の50%以上の発病程度4になると被害が大きくなり減収すると考えられた。収穫適期を過ぎると細菌性の腐敗を助長し、品質が低下すると考えられた。(病害虫研究)

(26) ニホンナシ育種新系統の高品質安定生産技術の確立と遺伝的特性の評価

① 高品質安定生産技術の確立

両品種とも受粉日から数えて、1日前、当日開花した花と比較し、2日前より以前に開花した花では着果率が減少する傾向が見られた。また、「彩彦」は受粉当日に開花した花において有てい果になりやすい傾向が確認された。果実品質について、2024年試験では大きな差は確認されなかった。果台の着生位置別の果実品質について、いずれの品種も大きな差は認められなかったが、上向き果台では軸折れ果実の発生が多かった。花序別の果実品質は、「彩彦」では下の番花ほど果実が扁平になり、2品種とも上の番花ほど軸長が長い傾向にあった。葉果比と果実重及び糖度との相関に関しては判然としなかった。(果樹)

② 知的財産保護のための品種判別技術検証

2024年度出願公表となったニホンナシ県育成品種「彩姫」「彩彦」について、主要なナシ品種との判別に有効なマーカーを明らかにした。(遺伝子情報活用)

③ 育種素材としての有用性判定

県育成品種「彩姫」「彩彦」の自家不和合遺伝子を明らかにした。また、育種や栽培に有用な品種・系統についても併せて、自家不和合遺伝子の一部を明らかにした。(遺伝子情報活用)

(27) イチゴ新品種「べにたま」の低温伸長性を生かした低温管理栽培技術の開発

「べにたま」は、低い夜温設定(5℃)と午前中の高気温を組み合わせることによって、慣行栽培と同程度の収量を確保することができた。また、日平均気温が同一であれば夜温の違いが収量に及ぼす影響が小さいと考えられた。気温が生育が停滞する生育限界温度以上であれば、培地温度は生育量と収量を向上させる可能性が示された。

管理方法・気温が異なる地域における現地試験において、無加温管理(本庄市)及び低夜温管理(秩父市)での栽培が可能であり、慣行栽培で想定される暖房機の燃料消費量を30%程度削減できることが示された。低夜温(5℃)や培地加温ありの無加温栽培において、「べにたま」では厳寒期の継続した収穫が実証された。ただし、培地加温した無加温栽培では、収穫可能な限界気温を考慮する必要があることが示唆された。(野菜育種)

(28) イチゴセル苗を活用した簡易・省力的育苗方法の確立 あまかおべにべに倍増作戦展開事業(令達事業)

① セル苗本ほ定植による初期収穫の安定化

セル苗直接定植による開花日は通常育苗株に比べて1～2週間程度遅くなり、初期収量も少なくなった。通常育苗と同程度の開花を促す条件を検討する必要がある。(野菜育種)

② セル苗を用いた簡易増殖方法の確立

定植時に十分なクラウン径を有する苗を得るために、鉢上げしたセル苗の養生期間を十分に取ったランナーを用いて採苗する必要があると推測された。セル苗の鉢上げ時期を早める必要があると考えられた。(野菜育種)

(29) 異常気象に対応できる水稻の品種育成及び生産技術の開発 咲いた米・みらいプロジェクト事業等(令達事業)

更なる気温の上昇や気候変動に対応するため、諸障害耐性の強化と、中晩生有望品種「えみほころ(むさしの31号)」の高品質・安定生産技術を確立するとともに、早期普及を目指した高純度種子の確保を進める。

② 暑さに強い有望品種「えみほころ」の高品質安定生産技術の確立

「えみほころ」の早植栽培、普通期栽培における生育特性、適正施肥量、追肥時期、栽植密度、収穫適期を把握した。「彩のかがやき」に比べ稈長は10 cm程度長く、穂数は同等～やや少ない。適正施肥量は、早植では10a 当たり窒素成分で基肥5～7kg、穂肥2～3kg、総窒素量8～9kg、普通期は基肥5kg、穂肥2～3kg、総窒素量7～8kgである。追肥時期は早植では出穂20～15日前、普通期は出穂15日前と判断された。栽植密度は50～60株/坪が適し、収穫適期は早植が出穂後積算気温1000～1200℃、普通期は1000～1250℃程度である。本年までの結果を基に、栽培暦(2025年3月暫定版)を作成した。(水田高度利用)

(30) 二条大麦「ニューサチホゴールデン」の高品質安定栽培技術の確立

播種時期は12月1日～10日頃、播種量は10a 当たり6～8kgの範囲内で播種期が遅いほど増量すること、施肥は基肥を窒素成分で10a 当たり7kgとし、茎立期追肥を原則行わないことが望ましいと考えられた。

外観品質の低下を抑制するため、収穫は穀粒の水分率が20～25%の間に行うことが望ましいと示唆された。収穫適期の目安は、成熟期後日数が3.0～5.9日、出穂後積算気温は737～798℃、GNDVIは-0.024～0.014、GEIは-0.003～0.001であった。また、コンバインによる収穫時の作業速度が剥皮粒の発生程度に与える影響は見られなかった。茎立期追肥の生育診断指標としてタンパク質含有率を対象とすると、茎立期2日前のNDREを用いることが望ましいと示唆された。(水田高度利用)

(31) 農繁期を平準化するための新たな主穀輪作体系の評価

夏ダイズ及びゴマと緑肥を活用した二年三作体系において、ゴマとダイズの収量は前作緑肥の種類による影響を受けず、慣行の作型と比較して遜色ないと示唆された。ダイズの整粒比は、ヘアリーベッチあとが他の緑肥あとに比べて高い傾向であったが、低水準のため、本作型に合う品種選定が必要であると考えられた。緑肥と遅まき麦類を活用した二毛作体系において、2月播麦類の栽培性を比較した結果、六条大麦「すずかぜ」は有意に多収であるが、稈長が短く自脱型コンバインでの収穫は困難であることから、次に多収な小麦「はる風ふわり」が本作型に向くと示唆された。2月播麦類あとの水稻「えみほころ」は県の2024年産平均単収を上回り、品質も一等相当であった。(水田高度利用)

(32) 青パパイヤ増収技術の開発

4月下旬定植では、トンネル栽培により生育がやや促進されるように見受けられた。生育の良好な株は開花が早く、開花の早い区では早期の収量が高い傾向が見られたことから、生育促進による収穫期前進化の可能性が示唆された。4月上旬の早期定植は、生育障害が発生したことや一般的な苗の流通時期では定植に間に合わないことから、実現性は低いと考えられた。施肥による一定の傾向は認められず、基肥の30%堆肥代替(牛糞、鶏糞)による生育障害が発生したが要因は明らかとなっていない。(高収益畑作)

(33) ネギの省力安定生産技術の開発

農研機構が開発している中型除草ロボットに装着可能な「新魔法のカルチW(ねぎ用)」を検討した。刈刃を増やす改良により、有効な作業幅が2倍に拡張され、黒ボク土圃場では葉齢7までのカヤツリグサ、葉齢5までのイヌビユを除草でき、通路全体で62～72%の除草を可能とした。

自律走行ロボットによる灌注処理を行う場合、作業能率の低下やそれに伴う費用の増加が問題であった。このため、費用対効果の高い液量の選択が必要と考えられた。また、ノズルによって土壌への浸透深は異なるため留意が必要であった。

酸素供給剤による湿害抑制効果は、有意ではないものの、恒常的な滞水条件にはネオカルオキシソ 30kg/10a 培土時

株元施用が、一時的冠水にはM. O. X. の冠水前 24 時間株元灌注が適すると考えられた。

渇害対策として、黒ボク土ではカリ、ケイ酸及び石灰の施用効果が高い傾向が認められた。(高収益畑作担当)

(34) 加工業務用タマネギの直播栽培体系の開発

播種時期が早くなるほど苗立率は低く、播種時期は9月下旬が良いと考えられるが、厳冬期までの生育量を確保する技術が必要である。播種深度は、4cm では鎮圧回数にかかわらず発芽不良となり、2cm では播種時鎮圧のみが1月までのGI値が大きくなった。黒ボク土では、播種後から本葉1葉期で灌水を止めると土壤水分の急激な変化に株が耐えられず苗立ちや生育が低下し、灰色低地土では、灌水により生育初期時の土壤水分 pF2.3 の保持は過湿条件となる可能性が見られた。

除草剤体系処理による3月までの抑草効果は、9月上旬播種の黒ボク土では、播種後ペンディメタリン乳剤の散布が有効と考えられた。灰色低地土では雑草の発生が多く、土壤処理剤を散布しても抑草は困難であった。9月下旬播種の黒ボク土では雑草の発生が少なく抑草効果は判然とせず、灰色低地土では播種後シアナジン水和剤の散布が有効と考えられた。(高収益畑作担当)

(35) 露地野菜における過乾燥に対応した節水灌漑技術の確立

ナスは、5~7月に節水しても収量が得られる可能性があると考えられた。また、9月以降の乾燥処理ではナス及びアスパラガスの株の枯死や黄化が早く、この時期の節水は不適と考えられた。しかし、灌水装置の不具合により乾燥処理期間以外の期間にも乾燥が生じたことから、再検討が必要である。

少灌水量で収量を確保する灌水方法として、ナスは収量と灌水量から灌水開始点を pF2.7、灌水チューブを株元または畝外に1本、アスパラガスは1年目株の生育量から灌水開始点を pF2.5、灌水チューブを株元1本、チューブピッチ30cmが適していると考えられた。

節水灌漑条件での基肥と追肥の最適割合は、ナスは基肥一発施肥では生育、収量が劣り、アスパラガス1年目株では基肥一発施肥または少量の追肥で生育量が確保できると考えられた。(高収益畑作担当)

(36) 機械収穫に適したキャベツの栽培技術の開発 元気な野菜産地づくり支援事業(令達事業)

異なる資材及び穴数のセルで育苗した結果、ペーパーポットでの育苗が大苗となり、収穫した球のサイズは最も大きくなった。128穴のセルトレイ(白)で育苗した株は、結球のばらつきが小さくなった。また、ジシアンジアミド入り化成肥料の施用により斉一性が高まることが示唆された。

球形サイズと栽培条件の関係性は、株間が広がるほど結球重は重く、株の曲がり小さく、根張りは旺盛になると考えられた。しかし、株間50cmと60cmで結球重に大きな差はなく、収益性の面から株間は最大50cmまでと考えられた。また、収穫機を使用する場合、株の曲がり小さい深植えが適するのではないかと考えられた。(高収益畑作担当)

(37) キュウリ増収のための環境制御下の土耕栽培における最適な灌水管理技術の開発

① キュウリの吸水特性の解明

吸水特性として、日射量に応じて吸水量が推移することが明らかとなった。炭酸ガス施用時は、施用濃度を外気濃度以上に上げると着果数や収量増加に合わせて吸水量が増加することが確認された。

また、半促成及び抑制作型いずれも、ほぼ月ごとに積算日射量と1日の吸水量の合計に高い正の相関が見られた。(施設園芸先端技術)

② 炭酸ガス濃度と灌水量が生育・収量に及ぼす影響

炭酸ガス施用は①の結果を踏まえ、日中の炭酸ガス濃度を外気と同じかやや高い、約400~500ppmと設定した。抑制栽培では、慣行よりも灌水を増やすことにより、収穫量は増加した。また、月別に最も収穫量の多い灌水量が異なる

ことから、灌水量は月別に調節することが効果的と考えられ、実証により一定増灌水よりもさらに17%多収となることが確認された。

半促成栽培でも同様な傾向は見られており、現在試験を継続実施中である。(施設園芸先端技術)

③ 土耕栽培における新たな灌水管理技術の開発

①、②の結果を用い、新たな灌水管理技術の簡易マニュアルを現在作成中である。(施設園芸先端技術)

(38) トップリーフカットによるトマト栽培管理技術の開発

トップリーフカットの適用拡大に向け大玉、中玉及びミニトマトで栽培試験を実施中。

大玉トマトはNターン、Uターン栽培でのトップリーフカットによる収量への影響と、誘引高に合わせた増収のための栽培管理条件について、誘引高とLAIを変えて検討している。

中玉、ミニトマトでは、トップリーフカットの頻度を変え、増収技術について検討している。(施設園芸先端技術)

(39) 環境制御の効果を発揮できるキュウリ養液土耕栽培管理方法の確立

環境制御下における施肥管理技術を確立するため、養液栽培における養分吸収特性を抑制栽培と半促成栽培で調査した。

抑制栽培では、600ppmとなるよう炭酸ガスを施用し、培養液濃度を慣行の25%増肥することで最も多収となった。養分吸収量は、窒素、リン酸、カリウムいずれも炭酸ガスの施用条件にかかわらず、培養液濃度が高くなるほど多くなった。

現在、半促成栽培において同様の試験を実施中である。(施設園芸先端技術)

(40) 低温庫を活用したプリムラの高品質苗生産技術の確立

セル成型苗を用いて低温感応を示す限界葉齢、電照育苗及び順化方法を検討した。

限界葉齢については、早生系3品種を供試し、育苗時冷蔵処理による開花促進効果の有無を確認した。限界葉齢は品種間差が認められ、「キャンディピンク」では2枚より多く4枚以内、「ポニーレッド」は2枚以上であり上限は6枚以上、「セブンティスカーレット」は6枚より多い葉枚数であると推察された。

電照育苗については、育苗時冷蔵処理時に苗品質の低下しない光強度を決定するため、棚当たり1~7本(照度140~2700Lx)のLEDを設置し、照度の測定と葉焼けの有無を確認した。いずれの照度においても葉焼けなどの障害は発生せず、照度が高いほど開花が早くなる傾向が見られた。

順化に関しては適する温度と湿度を把握するため、高温順化、低湿度順化を設定したが、低温庫出庫後に高温条件とならなかったことから、対照区を含め枯死は発生しなかった。(施設園芸先端技術)

(41) 埼玉果樹における新たな省力化技術の実証 果樹産地再生支援事業(令達事業)

V字樹形区では、「幸水」「彩玉」「なるみ」とも、平棚区と比較して収量性が高く、「彩玉」「なるみ」では、V字樹形区は平棚区より糖度が低くなった。「なるみ」の仰角60度区の糖度がやや低くなる傾向を示した。ジョイントと2分枝の違いによる品質への影響は、露地、根圏制御栽培ともに見られなかった。

新型防除機に関し、静電効果により少量の散水量で慣行のスピードスプレヤと遜色ない防除価が認められ、農薬の節減が可能である一方、散布距離が短く、列移動の労力や散布時間がかかり、現状では慣行の防除法が効率的であった。

無人自動草刈機は、導入機種によって対応可能な面積に差はあるが、慣行の草払い機や乗用型草刈機と比較し大幅に人件費を削減できた。また、稼働中に発生した機体のエラーとその対応方法、経費を記録し、導入する際の利点と懸念点を明確化した。

受粉機器利用に関し、授粉毛式及び静電風圧式受粉機は、特に初心者における受粉作業時間を大幅に短縮でき、慣行受粉と同程度の花粉使用量、結実性及び果実品質であることを明らかにした。

選果機の排果精度は、排果規格設定の補正により実用可能な精度となった。糖度測定精度は、ハンディ非破壊糖度計に比べ非常に高く、また補正設定を行うことで卓上非破壊糖度計と同等程度の精度となることを明らかにした。

自家和合性品種導入に関し、自家和合性品種「なるみ」は、「幸水」と比較すると受粉時間は削減されるが摘果時間が長く、労力削減効果は作業1年目の初心者のうちのみであった。また、「なるみ」においては、着果目標に応じて除芽処理を行うことで、摘果作業時間の削減が可能であることを明らかにした。「幸水」の除芽処理は、摘果作業時間の削減が可能であるが、芽の枯死率が高いことから、除芽・摘蕾の実用性は低いと判断された。

本研究の試験結果を基に、新技術、機械を導入した場合と慣行の手法で50aのナシ園を運営した場合にかかる労働時間と経費を比較した結果、慣行栽培よりも年間で10a当たり100時間以上労働時間を削減でき、導入コストは人件費が削減されることにより、約7年で回収できると試算された。(果樹)

(42) ブドウ「シャインマスカット」の未熟粒混入症の発生要因解析と軽減技術の開発

摘心強度、果房当たりの着粒数、樹1本当たりの着果量、花穂整形方法、摘粒時期、ホルクロルフェニユロン液剤の濃度、メピコートクロリド液剤の処理時期と使用回数が未熟粒混入症の発生に及ぼす影響に関して検討を行った。試験区全体において未熟粒混入症がほとんど発生せず、正確な要因の解析はできなかったが、これらの要素は未熟粒混入症の発生に大きな影響を与えないものと考えられた。メピコートクロリド液剤は、処理時期が早いほど新梢伸長抑制効果が大きい傾向にあり、登録使用時期内の満開10日後での使用が効果的であった。(果樹)

(43) トマト土耕栽培における高温期増収技術及び高効率環境制御技術の実証

高軒高温室を利用したトマトの長期多段どり栽培(栽培期間:8月下旬~翌7月上旬)の実証研究を行った。

春の高温対策として1月以降に花房近くの脇芽を着生葉4枚まで伸ばした栽培では、脇芽を摘除する慣行栽培と比べて5~7月の可販収量が8.2%増加し、可販率は11.1ポイント向上した。1月以降に誘引本数を2,778本から2割増やす栽培では、慣行栽培と比べて5~7月の可販収量が13.5%増加し、可販率は4.6ポイント向上した。栽培終了時の廃棄果削減を狙った白熟期の果実へのエチレン処理では廃棄果率は低下しなかった。(次世代技術実証普及)

細霧冷房装置による薬剤散布において、高さの異なるダクトからの送風を行い比較した結果、付着量に差は見られなかった。(次世代技術実証普及、環境安全)

(44) トマト養液栽培の周年栽培における炭酸ガスの効果的施用による収量向上

「埼玉拠点」の養液栽培による周年生産において炭酸ガスの施用効果を検討した。

炭酸ガスのゼロ濃度差施用を行った2019年と炭酸ガスの施用量を増やした2022年及び2023年の低温期の作型について、栽培期間中全天日射量1MJ当たりの総収穫量を比較した。2019年に対して2022年はいずれの作型も総収穫量はおおむね同等以上であり、最も増収効果が大きかったのは11月中下旬定植作型で増収率は15%と試算された。一方、炭酸ガスの施用量を2022年より増やした2023年はいずれの作型も2019年に比べ減収しており、炭酸ガスの施用量を増やしただけでは増収しないことが明らかになり、原因は生育初期を中心に灌水量が少なかったことと推察された。

高温期の作型のうち、最も着果が悪かった7月29日定植作型の炭酸ガスを施用した畝の株では、隣接畝の株と比べて着果率が21%向上した。他の作型では差は見られなかった。(次世代技術実証普及)

(45) トマトにおける施設栽培用暖房機排ガス中炭酸ガス回収・施用装置による環境負荷軽減技術の効果検証 アグリテック栽培技術発信拠点事業（令達事業）

トマトの長期多段どり栽培において、炭酸ガス回収施用装置による炭酸ガス施用効果を検証した。栽培ハウス内の炭酸ガス濃度は無処理では日中に400ppmを下回ったが、炭酸ガス回収施用装置での炭酸ガス施用期間中は、平均して400ppm以上に維持することができた。3aの栽培に対して11月中旬から2月中旬までの炭酸ガス回収施用量は113.3kgであった。

環境科学国際センターと連携して炭酸ガス回収施用装置の利用による環境負荷低減効果を検討した。環境制御機器が導入されている県内のトマト栽培ハウスの全てで燃焼式の炭酸ガス施用機による施用が行われていると仮定した場合、炭酸ガス回収施用装置が100%導入されるとCO₂排出量が71.9t削減されると試算された。（次世代技術実証普及）

(46) 電池レスビーコンのフル活用による乳牛の生涯生産性向上

運動量を計測する電池レスビーコンの牛への装着により、発情検知、分娩検知、子牛の疾病検知ができるかを検討するため、発情検知30頭、分娩検知16頭、子牛の疾病検知14頭のデータを集積した。発情検知については、昼間繋ぎ、夜間放牧状態の牛で51%検出され、昼夜繋ぎ状態の牛で78%の検出が可能だった。分娩検知については、首と尾にビーコンを装着し、16頭の分娩時データを集積した。さらに、ブラジャーを装着し、肩と腹部にもビーコンを追加する形で14頭の分娩時データを集積した。首の動きが多い牛が多く、次いで腹で、肩と尾の動きは少なかった。いずれの部位も分娩前に動きが高まる様子が観察され、分娩後は必ず動きが高まった。子牛の疾病検知については、酪農家14頭のデータを集積した結果、哺乳スピードが落ちた子牛7頭のうち5頭で、哺乳スピードが落ちる前にビーコンの動きが減少しており、早い段階で体調不良を検出できる可能性が示唆された。検出率は71%だった。（酪農）

(47) 豚凍結人工授精技術を活用した埼玉養豚競争力アップ事業 養豚振興対策事業（令達事業）

英国系バークシャー種雄豚2頭から精液を採取し340本の凍結精液を作製した。融解後の生存率は39%であった。また、S農場のデュロック種1頭から精液を採取し、当所へ輸送後130本の凍結精液を作製した。融解後の生存率は28%であった。さらにO農場の英国系バークシャー種2頭から精液を採取し、当所へ輸送後350本の凍結精液を作製した。融解後の生存率はそれぞれ4%、7%であった。また、高コレステロール・動脈硬化症ミニブタ2頭から、4ヵ月齢～8ヵ月齢まで精液を採取し、精液の品質及び受精能について調査したところ、6ヵ月齢から精子濃度及び運動精子率が向上した。県内に優良種豚を9頭供給した。プログラムフリーザーを利用し、自動植氷ストローを用いて凍結精液を10本作成した。凍結精液を用いた人工授精を11回実施した。（養豚・養鶏）

(48) 豚熱感染リスクを回避する新たな豚繁殖管理システムの開発

分娩前後3日間の陰唇長及び陰唇色を5頭測定した。これまで調査した18頭を含めた33頭の陰唇長について解析を実施した結果、全ての豚が分娩1～3日前に最大値を示した。陰唇色においては調査した妊娠豚の50%で明るさ及び黄色みが分娩1～2日前に最大値を示した。また、分娩日2日前に陰唇長が最大となるとして、スマートフォンやタブレット端末で使用できる無料の計測アプリを用いて陰唇長を計測したところ分娩日予測的中率は8割程度だった。

豚体への最適な装着器具を用いて3頭の種雌豚に加速度センサーを装填し、ゲートウェイを用いてオフラインでPCへデータ転送しCSVデータを用いて行動解析を実施したところ、個体によるばらつきが大きく評価できなかった。

満潮・干潮時間データと分娩時間の関係を母豚23頭分調査した。69.5%の個体が満潮時の周辺で分娩した。特に夜間（18時～翌朝6時）に分娩した15頭のうち11頭（73%）の母豚の平均分娩開始時間は、潮の満潮・干潮の前後1時間20分以内であった（養豚・養鶏）

(49) 早期産子数予測診断技術の開発

妊娠雌豚7頭から妊娠23日目、25日目、28日目、35日目の腹部超音波画像を取得した。超音波照射時期は25日目、照射部位最後乳頭と最後から2番目の乳頭の間での診断が産子数予測には適していることが示唆された。妊娠雌豚6頭から血液試料ならびに糞試料を採取した。生体試料中のEstrone（性ホルモンの一種）濃度は妊娠28日頃にピークに達することがわかった。（養豚・養鶏）

(50) 高オレイン酸豚の生産技術に関する研究 養豚収益力向上事業（令達事業）

通常飼料70%と玄米15%、米ぬか15%を配合し試験飼料を調整した。LW（母：ランドレース、父：大ヨークシャー）4頭で試験を行ったところ、今回の配合ではオレイン酸値に有意な差はなかったが、玄米と米ぬかを配合した飼料を与えると肉が柔らかくなった。（養豚・養鶏）

(51) 研究スタートアップ支援事業

23課題を実施した。そのうち15課題は若手研究員提案課題であり、若手研究員の育成に貢献できた。2025年度新規研究課題として6課題の提案があり、5課題が採択された。提案率は26%（2025新規課題への提案数/2024スタートアップ実施課題数×100）であった。（企画）

(52) 現地支援・緊急対応のための調査研究事業

現地からの課題提案、緊急問題への対応依頼に対して、調査・研究を行い、解決を図った。（企画）

① 県東部地域での水稲作期別イネカメムシ発生消長の検討

同一地域での発生消長は、早期では出穂期前の早い段階から成虫が確認され、その後の作期では出穂期がピークになった。また、後期は捕獲期間が長く捕獲量も多くなった。早期では再生イネの出穂期に成虫が多く捕獲された。

白色粘着板は発生が多い圃場での発生消長には有用と考えられた。県下14地点の水田での発生量調査結果から、捕獲虫数は8月後半から9月上旬に多く、出穂期の遅い水稲でのリスクが高いことが示された。再生株では10月中旬には個体数が急減し、越冬場所への移出が10月中旬以前に始まることが示唆された。

イネカメムシの被害リスクが高い地域・作型において、出穂期のエチプロール水和剤または粒剤とジノテフラン液剤の体系防除を行ったところ、斑点米の発生を低く抑えることができた。（農業革新支援、病害虫研究、病害虫防除対策）

② ばら栽培における高温期の品質向上対策の検討

自作により低コストで導入可能な簡易ミスト装置と循環扇、遮光資材を組み合わせることで温度低下効果及びばらの生育に与える影響について実証試験を行ったところ、慣行よりも約2℃施設内気温が低下し、収量は出荷総本数では2倍以上向上した。また上位等級でも9月出荷では20%、11月出荷では300%向上した。（農業革新支援、施設園芸先端技術）

③ 「あまりん」の萎縮症状発生の要因究明

「あまりん」の萎縮症状は、クラウン部の埋没と培土の過湿が発生を助長すると考えられた。また、聞き取り調査の結果から育苗時だけでなく定植後にも発生する可能性もある。（農業革新支援、野菜育種）

(53) 土壌保全調査（モニタリング）**① 土壌保全調査**

北埼玉、南埼玉地域の15地点（重点6地点、一般9地点）について土壌調査、土壌管理調査を実施した。水田では交換性苦土がやや少ない傾向であり、樹園地では有効態りん酸の過剰蓄積が顕著であった。また、水稲栽培圃場9地点について、玄米中カドミウム含量の分析を行い、いずれも基準値内の濃度であった。

2023年度までの分析結果を成果発表会で公表した。(環境安全)

(54) 農業の土壌機能における炭素固定能力解明 農地土壌炭素貯留等基礎調査事業(農地管理実態調査)

県内7地点について、土壌採取(作土層及び下層土30cmまで)を行い、土壌の仮比重の測定、土壌全炭素・全窒素等の分析を行った。土壌調査を行った7地点について有機物施用の取組状況及び調査圃場の栽培管理状況についてアンケート調査を実施した。場内の水田において有機物(稲麦わら堆肥は自家製、木炭は市販木炭)を施用して水稻を栽培し、生育、養分吸収及び栽培前後の土壌の理化学性について、5試験区の調査を実施した。(環境安全)

(55) 新規農業・植物調節剤実用化試験(受託試験事業)

① 殺菌殺虫剤の土壌残留

オリゼメート粒剤(プロバナゾール)について2024年6月12日に土壌混和を実施し、散布当日～61日後までの土壌残留を調査した。(環境安全)

② 殺菌剤の防除効果試験、③ 殺虫剤及び生物農薬の防除効果試験

新規開発の農薬や既存銘柄の農薬における農薬登録または適用病害虫拡大のための薬効薬害試験を実施した。小麦、トマト、キュウリ、ネギ、ブロッコリー、イチゴ、花き類、ナシ等を対象作物として、のべ37種類の薬剤について、必要となる試験データの収集・整備を行い、成績検討会議で報告・検討を行った。(病害虫研究)

④ 植物調節剤試験

水稻用除草剤3剤(一発処理剤3剤)の試験を実施した結果、軽微な薬害が認められたものの、収量への影響はなく、除草効果は高く、薬剤の有効性を確認できた。(水田高度利用)

新規・実用化を目指す除草剤2剤(ナシ1剤、ブドウ1剤)について、圃場での実用化試験を実施し、効果について検討した。(果樹)

(56) 国内肥料資源の肥料利用拡大に向けた調査(地力調査)

県内7地点について、土壌採取(作土層及び下層土30cmまで)を行い、10項目について分析を行った。場内の水田において有機物(稲麦わら堆肥は自家製、木炭は市販木炭)を施用して水稻を栽培し、10項目について土壌調査・分析を実施した。分析結果については国に報告した。(環境安全)

(57) 菌体りん酸肥料「荒川クマムシくん1号」の肥料原料としての特性評価(受託試験事業)

下水汚泥資源の有効利用のため、県が菌体りん酸肥料として登録した下水汚泥燃焼灰「荒川クマムシくん1号」の肥料特性を評価した。圃場におけるハウレンソウの栽培試験の結果、最大200kg/10a程度まで施用量が多いほどハウレンソウの収量は増加し、過りん酸石灰と比較すると全りん酸量として4倍程度施用した場合に同等の肥効を示すことを明らかにした。また、中和曲線法により本肥料の施用により土壌pHが上昇することを明らかとした。(環境安全)

(58) 荒川クマムシくん1号入り混合堆肥複合肥料888号の特性評価(受託試験事業)

菌体りん酸肥料「荒川クマムシくん1号」を混合した「荒川クマムシくん入り混合堆肥複合肥料888号」の肥料特性を評価した。圃場におけるハウレンソウ栽培において、「荒川クマムシくん入り混合堆肥複合肥料888号」は既存の化成肥料(対照肥料区)と同等の肥効を示し、土壌化学性への影響及び1作目のハウレンソウ中の重金属類の蓄積は対照肥料区及び無肥料区と同等であった。(環境安全)

(59) 相手国が要求する国内における病害虫発生実態の把握のための調査体制整備（木本植物が植えられた培養資材中でのマメコガネの生存性の調査） 植物検疫上の要求事項を満たすための体制の構築事業（輸出植物検疫に資する調査等）

埼玉県では海外への盆栽の輸出が盛んであるが、EUへ培養資材付き盆栽を輸出する際、植物検疫措置が必要となる。EUへの植物検疫措置の一つとして、マメコガネの培養資材中や栽培園地内外の発生調査が必要とされており、検疫において本種が発見されると輸出が不可能となる。このため、盆栽として輸出の多い木本植物を対象に、一般的な培養資材を用いたマメコガネの寄生性を確認するとともに、試験的及び現地調査により盆栽に寄生が見られた場合を想定した防除方法について検討した。（病害虫研究）

(60) 青枯病抵抗性ナス品種の現地実証試験 食料安全保障強化に向けた革新的新品種開発プロジェクト「食料安全保障強化に資する新品種開発」

農研機構が育成した青枯病及び半枯病の複合抵抗性を有し、とげなしの単為結果性である「あのみりパワー」の埼玉県における栽培特性を評価した結果、青枯病Ⅰ及びⅣ群菌と推定される菌株に対して高度の抵抗性を持ち、収量性は「あのみり」より高かった。（病害虫研究）

(61) 品質評価に関する試験（受託試験事業）

① ビール大麦の粗タンパク質含有量分析

ビール大麦は実需者から生産者個々の品質（粗タンパク質含有量）のデータが求められている。このため、ビール大麦全生産者 180 戸分の粗タンパク質含有量の分析を行った。このデータは、生産者別の施肥設計など、ビール大麦の品質安定確保のための基礎資料として活用された。（水稻育種）

② 主要農作物種子の発芽試験

主要農作物の種子は気象災害などによる生産の変動に対する安定確保の観点から備蓄を行っており、貯蔵種子が一般供給される際の発芽能力の調査が求められる。このため、発芽試験を、水稻 54 点、麦類 33 点、ダイズ 11 点の計 98 点実施した。麦類 1 点、ダイズ 3 点を種子合格基準となる発芽率に満たなかったことから不合格とした。このデータは円滑な種子供給体制に必要な貯蔵種子の保証に活用された。（水稻育種）

(62) 系統適応性等検定試験（高温耐性検定）（受託試験事業）

東北農研 20 系統、作物研究部門 15 系統、中日本農研 25 系統の合計 60 系統について、高温耐性の検定を行った。供試した系統を「強」9 系統、「やや強」8 系統、「中」15 系統、「やや弱」7 系統、「弱」14 系統と判定した。移植期により熟期区分の異なる 7 系統は判定不能とした。（水稻育種）

(63) 稲民間品種等の評価試験（受託試験事業）

① 稲民間品種等の評価

水稻 2 系統について、早植栽培（標肥、多肥）で生産力検定を実施し、本県への適応性を評価した。耕種概要、調査方法などは、奨励品種決定調査に準じた。

「全農 21-07」は、収量や品質、食味ともに対照品種の「とよめき」と同等であった。しかし、「コシヒカリ」より品質は劣った。「I 系 8」について、収量は「彩のかがやき」より多収で、整粒比は優れていた。食味も「彩のかがやき」より有意に高かった。以上の結果から、「I 系 8」の有望度をやや有望とした。（水稻育種）

② 特性検定

（国研）農研機構と全国農業協同組合連合会の共同研究、住友化学（株）、（株）神明により育成または育

成中の品種・系統の高温特性を判定した。(水稲育種)

(64) 原原種生産体制整備事業 主要農作物採種事業(令達事業)

原種生産計画に基づき、水稲「彩のきずな」及び麦類「ニューサチホゴールド」の範型残、ダイズ「里のほほえみ」の原原種を生産した。種苗センター及び農技研各担当に必要な量の範型残、原原種の配布を行った。また、種苗センターに対して時機を捉えて指導を行うなど、高品質な原種生産を支援するとともに、原種及び生産物の審査により合否判定を行った。(水稲育種)

(65) 園芸作物の新品目の特性調査(モニタリング)

①-ア 果樹の系統適応性現地調査

農研機構が育成した、ナシ(6系統)、ブドウ(1系統)、クリ(2系統)及びウメ(3系統)について、本県における適応性及び新品目の特性を調査した。(果樹)

①-イ 果樹の生態調査及び果実品質

ナシ、ブドウ、核果類、クリ、カキの品種特性及び果実品質を調査し、栽培指導上の資料として活用した。(果樹)

② 栄養繁殖作物の栽培特性調査

丸系八つ頭2系統、八つ頭を供試し、生育調査、収穫調査、一芽率調査などを実施した。一芽率は2023年度に比べて低下(丸系八つ頭5-1:78%→77%、丸系八つ頭5-4:84%→78%)したが、一芽率が高い系列を明らかにすることができた。2025年度の栽培に必要な種芋を貯蔵し遺伝資源の保存を行った。(野菜育種)

(66) 水稲・麦類・ダイズの現地支援及び累年調査事業(モニタリング)

① 主穀作物の生育診断・予測技術による生育制御

水稲、麦類、ダイズの累年調査を通じて、生育診断や作柄予測等による現地への技術支援に活用するとともに、長期的視点による農業生産環境の変化を把握した。定期調査を行い、農業革新支援担当と共同で毎月1回作柄に関する定期報告を作成し、ホームページで公表した。さらに、麦類は気候変動に対応して播種時期を遅らせた際の調査データを取得し、情報提供を行った。(水田高度利用)

② 純系維持・増殖事業

二条大麦「ニューサチホゴールド」の6群30系統の範型種子を確保した。保有する系統(範型)は冷凍保存を継続した。発芽試験の結果、水稲、ダイズは合格基準に達し、継続使用可能と判断された。麦類は3品種を除き合格基準に達し、継続使用可能と判断された。(水稲育種)

(67) 水稲及びハウレンソウ栽培におけるもみ殻高機能バイオ炭によるCO₂固定効果の実証・評価 グリーンイノベーション基金事業「農業副産物を活用した高機能バイオ炭の製造・施用体系の確立」

① もみ殻バイオ炭の連年施用に伴う農作物影響調査

移植水稲のポット試験において、0~2000g/m²のバイオ炭施用範囲であれば2023年度同様、移植後30日までの生育に対する影響は小さかった。圃場試験では、200g/m²のバイオ炭の2年連用は収量等への影響は小さかった。(水田高度利用、環境安全)

ハウレンソウ栽培におけるバイオ炭の最大施用量を明らかにするため、バイオ炭を土壌体積比で2.0倍、1.0倍、0.5倍混和した。バイオ炭施用区では多収が得られたが、2.0倍、1.0倍量施用はハウレンソウ萎凋病の発生が多く見られたため、施用上限は0.5倍量と判断した。バイオ炭を2,000、600、200、0kg/10aそれぞれ2年連用した結果、2,000kg/10a施用は土壌物性が改善され、乾燥時に土壌水分が高く推移し、多収となった。200、600kg施用では効果は見られなかった。(高収益畑作)

(68) 栽培管理システム構築に係る生育データの収集（受託試験事業）

小麦「さとのそら」及び水稲「彩のかがやき」「彩のきずな」の生育調査、収量調査を実施し、10日間隔で調査結果の入力及び圃場における生育状況の写真撮影を行い、それらのデータを提供した。（水田高度利用）

(69) 雑穀等の遺伝資源保存

6品目（コムギ、オオムギ、ゴマ、ササゲ、ダイズ、ソバ）11系統を栽培し、生育特性データを取得するとともに、種子を更新し、保存（-20℃保存）した。また、保存中の2020年産アズキ（5℃保存）の発芽率を調査したところ、2025年度の更新は不要と判断された。遺伝資源の活用として、コムギ1系統（埼玉27号（農試））、オオムギ4系統（横綱、信濃1号、ゴールデンメロン埼1号、関取埼1号）を川の博物館に配付した。（高収益畑作）

(70) 園芸作物の新品種等導入支援研究

大玉トマト品種「かれん」は、「麗容」と比較し茎径が有意に細く、開花も有意に遅れ、葉の乾物重が有意に少ない結果であったが、可販率は高かった。「れおん」は、「麗容」と比較し、生育は同程度であるが、1果重が軽く、可販率は高いが、糖度は低かった。

県育成芳香シクラメンの5品種・1系統を継代維持した。種子の長期貯蔵に関する検討では、-20℃及び-80℃での6か月冷凍保存種子は正常に発芽し、定植後の開花率は67～100%であった。奇形は、冷凍保存の有無にかかわらず見られた症状であった。12か月冷凍保存種子の発芽率（播種後49日時点）は、-20℃保存で36～80%、-80℃保存で44～76%であり、さらに長期間の保存が可能であることが示唆された。（施設園芸先端技術）

(71) 施設栽培果菜類における効率的冷暖房制御の開発・実証 地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業（環境省）**① 波長選択型積層フィルムを加工した新素材カーテンによる施設内温度管理技術の検討**

施設キュウリの半促成栽培と抑制栽培において、波長選択型積層フィルムをカーテンとして利用した結果、慣行フィルムと比較して、キュウリの光合成速度はやや速く、ハウス内気温の昇温抑制効果もあることを確認した。また、生育、収量及び低温期の保温効果は同等であることを明らかにした。（施設園芸先端技術）

② ヒートポンプによる効率的な暖房・冷房技術の実証

ヒートポンプを半促成栽培の低温期及び抑制栽培の暖房として利用することで、二酸化炭素の排出量が4割以上削減された。さらに、ハイブリッド型のヒートポンプは、空気熱源のみの場合よりも1割以上炭酸ガス排出量を減少させることが示された。また、ヒートポンプを半促成栽培の高温期に用いて夜冷することにより収量が増加した。この要因は流れ果の減少によると考えられた。（施設園芸先端技術）

(72) 輸送期間延長に対応可能なアジサイ鮮度保持方法の検討 ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業

季咲アジサイと秋色アジサイについて、延命剤を収穫後に処理し、乾式輸送を想定した環境条件で24時間保管後、水道水に生け室内で管理した結果、季咲アジサイでは糖質と抗菌剤を主成分とする延命剤により、日持ちが6日間延長することが明らかとなった。秋色アジサイでは延命剤の効果は見られなかった。（施設園芸先端技術）

(73) ナシ作況調査（モニタリング）

6品種について3月から4月にかけて開花期を調査し、4品種（8項目）について、5月初旬から10日間

隔で各収穫期まで果実肥大調査を定期的に行い、関係機関等に情報提供した。これらの情報は普及指導員等による講習会などの指導資料や生産者の計画的な作業に活用された。(果樹)

(74) 花粉採取と受粉作業の省力化を可能にするスマート農業技術の開発 スマート農業技術の開発・実証・実装プロジェクト

① ニホンナシにおける自走式花蕾採取機の評価と機械走行に適した樹形の開発

花蕾採取に関して、慣行手法である手摘みと自走式花蕾採取機を比較すると、作業時間の大幅な短縮が確認された。一方、自走式花蕾採取機によって採取された花蕾から精選された花粉は発芽率が低く、機械の改良を引き続き行う必要がある。

樹形の開発に関して、植調剤を使用することで新梢の腋花芽着生率を増加させることが明らかになった。また、新梢の発生角度の検証では、下向きの枝は腋花芽着生率が高いことが明らかになった一方、上向きに発生した新梢は枝長が長いため、得られる花蕾数に大きな差はないことが示された。

花粉採取適期判定システムについて、「長十郎」での一定の判定精度を確認した。また、開花ステージ別の花粉採取量を8品種で調査し、花粉量の推移に品種間差の存在することを明らかにした。

風圧式ノズルでの受粉は省力であり、結実率及び果実品質も慣行受粉と比較し差は確認できない一方、花粉使用量が大幅に増加することも示された。

② ニホンナシにおけるドローン受粉の実用性評価

ドローン搭載用静電ノズルによる受粉で慣行受粉と比べ省力・省花粉効果の認められたこと、結実率及び果実品質に有意差の見られないことから、静電ノズルの実用性は高いと判断された。

③ オウトウにおける自走式花蕾採取機の評価と機械走行に適した樹形の開発

自走式花蕾採取機の試作機について、手摘みと比較して花蕾の採取時間が大幅に削減されたが、葯受箱外への飛散・滞留量が多く、時間当たりの粗花粉量及び純花粉量は少なくなった。暖地オウトウ赤葉系において、樹勢に応じてパクロブトラゾールを処理することで徒長枝発生の抑制が期待でき、機械走行に適した樹形開発が可能であることを明らかにした。(果樹)

(75) スマート技術向けの特性を持つ果樹品種の開発 機械化樹形に対応した短果枝着生性に優れるナシ品種候補の開発 食料安全保障強化に向けた革新的新品種開発プロジェクト

国育成品種で自家和合性・高糖度特性を有する「ゆつみ」の機械化樹形への適応性評価試験を行った。結果枝の誘引角度は、「ゆつみ」「豊水」「幸水」いずれも、45度誘引区は水平誘引区と同等の果実品質及び短果枝着生性を示し、斜立による悪影響は認められなかった。短果枝の花芽の整理方法による、葉枚数及び果実品質への影響は認められなかった。㎡当たり作業時間は、JV樹形が長いのが着果数も多いため、1果実当たりの作業時間としてはJV樹形が短くなった。

(76) 静電風圧式受粉機のニホンナシ受粉における省花粉効果及びキウイフルーツ受粉への適用性 (受託試験事業)

新たに開発された静電風圧式受粉機について、ニホンナシ、キウイフルーツにおける実用性試験を行い、ニホンナシにおける花粉希釈倍率ごとの受粉性能、及びキウイフルーツにおける結実性、作業性を検討した。(果樹)

(77) 豚熱対策への活用に向けたイノシシ環境DNA検出手法の開発 (受託試験事業)

野生イノシシの特異的な検出に有効と考えられるプライマーセット及びプローブ2種類を決定した。開発

したプライマー等を用いて、人工的にイノシン試料を混合した環境水や土壌からDNAが検出可能であった。併せて、土壌からの検出に有効なDNAの抽出手法を明らかにした。(遺伝子情報活用)

(78) 高能力飼料作物品種選定調査 飼料用とうもろこし(受託試験事業)

飼料用とうもろこしの新品種及び国内で市販されている6品種について、4月に播種し、生育調査(雄穂抽出期、絹糸抽出期、病害虫等)及び収穫調査(稈長、着雌穂高、不稔率、収量等)を実施した。早生品種では全ての品種で標準品種と比較して乾物総収量は同等であったが、TDN収量は下回った。中早生品種においては全ての品種で標準品種を上回る乾物総収量・TDN収量となった。(酪農)

(79) 排せつ物管理における温室効果ガスを削減する泌乳前期牛飼料の研究開発 委託プロジェクト「畜産からのGHG排出削減のための技術開発」

② 泌乳前期乳牛における窒素削減飼料給与の生産性、健全性への影響評価

飼料組成を調整することにより温室効果ガスの発生源となる排泄物に由来する窒素排泄量を低減できる新たな飼養管理技術を開発するため、飼料中のタンパク水準を変えて泌乳前期牛の飼養試験を行った。泌乳前期の乳牛を用いて一般的な飼料組成を給与する区(CP16.5%)と、「窒素排泄量低減飼料」を給与する区(CP13.5%にアミノ酸0.31%/DM添加)を設け、飼養成績、血液性状、繁殖成績、窒素代謝成績のデータを蓄積した。(酪農)

(80) 牛乳房炎発症予防法開発の実証と評価 牛乳房炎発症予防法と抗病性育種の開発事業(日本中央競馬会畜産振興事業)

プロバイオティクス飼料添加剤投与等の免疫能向上効果を活用し、乳牛の乳房炎に対する抗病性改善・乳生産性向上に関する検証を行った。試初産牛18頭(ビタミンE給与(VE)区:5頭、ビタミンE+プロバイオティクス飼料(VE+BS)区:4頭、グルタミン酸給与(Glu)区:3頭、グルタミン酸+プロバイオティクス飼料給与(Glu+BS)区:3頭、対照区:3頭)から血液・胃液・糞便・乳汁の採材を行い、データを蓄積した。(酪農)

(81) 豚の受精卵移植確立試験 高品質畜産物生産体制整備事業(令達事業)

英国産パークシャー種雌豚から初期胚(4細胞から16細胞)を67個採取し、従来法(MVAC法)、新規ガラス化保存方法及び新規耐凍剤(従来区、試験区)を用いてガラス化保存し融解後の生存性を調査した結果、新規ガラス化保存方法及び新規耐凍剤を用いることで高い生存性が確認でき、36時間培養区で16.6%の胚が胚盤胞~拡張胚盤胞(胚ランクB)まで発育した。(養豚・養鶏)

(82) 高品質畜産物生産振興事業(タマシャモ生産体制整備事業) 高品質畜産物生産体制整備事業(令達事業)

肥育用素雛(彩の国地鶏タマシャモ)を飼育農家数2戸に21,550羽供給した。卵肉兼用ブランド鶏と同系統のロードアイランドレッド種を利用した種鶏により作出したタマシャモコマーシャル鶏(試験区)と従来のコマーシャル鶏(従来区)の20週齢時の体重を比較した結果、雌雄ともに有意差はなかった。種卵の貯卵日数別の受精率・孵化率を調査したところ、28日までは共に良好であったが、それ以降は急激に低下した。42日以上になると正常雛孵化率がほぼ0%となった。(養豚・養鶏)

(83) IoT 技術を活用した子豚損耗低減化試験 日本中央競馬会畜産振興事業

6ch デジタルレコーダー(6chDR) 1機種+埼玉大学作製6ch マイクを用いて録音を実施したところ、6chDRにより、音の発生方向の特定ができた。分娩時の動画を17腹分撮影し、データを1次処理し9腹分の解析を行った。開放環境下での音検知に向けて、豚舎内の機械音や環境音など雑音を除去する集音フードを自作し集音効果について検討したところ、金属音の除去が若干可能であったが、子豚の生体音の集音においては、音圧が小さくなり録音に不向きであることがわかった。また、娩出後の死因を調査することで、子豚損耗率低減方法を検討した。(養豚・養鶏)

(84) 豚の非外科的採卵方法の開発 伊藤記念財団研究助成事業

4種のカテーテルを試作・改良し、採卵用多孔性カテーテル1種を開発した。開発したカテーテルを用いて、サンプル胚を設置したと体子宮と人工授精済み生体に対し子宮灌流試験を実施した。と体子宮、生体共に注入した灌流液量の7割程度を回収することができた。と体子宮のサンプル胚は灌流により6~7割回収できたが、生体から体内生産胚を回収することはできなかった。(養豚・養鶏)

IV 試験研究成果の公表、技術指導

1 研究報告等

(1) 研究報告第24号 (2024年度発行)

《報 文》

標 題 | 埼玉県におけるサトイモ疫病防除技術の開発
 執 筆 者 | 小巻康平・高山智子・西田聡恵・小野敬弘

標 題 | *mPing* 挿入多型を利用した「えみほころ」の識別と異品種混入の検出技術の検討
 執 筆 者 | 小山浩由・宗方淳

標 題 | リモートセンシングによる水稻品種「コシヒカリ」, 「彩のかがやき」の穂肥診断方法
 執 筆 者 | 荒川直也・丹野和幸

標 題 | リモートセンシングによる小麦品種「ハナマンテン」, 「さとのそら」の追肥診断方法
 執 筆 者 | 丹野和幸・荒川直也

標 題 | キュウリ個葉面積の簡易な測定方法と評価
 執 筆 者 | 中畝誠・山田融

標 題 | カーネーションとカランコエの焼却可能な培養土による鉢花栽培と塩化ナトリウム処理による萎凋抑制効果
 執 筆 者 | 石川貴之・本田春菜

標 題 | サトイモの生育初期灌水による増収効果
 執 筆 者 | 印南ゆかり

《短 報》

標 題 | イネ紋枯病抵抗性を有する水稻新系統「むさしの PL34 号」の育成
 執 筆 者 | 吉野早紀

《資 料》

標 題 | 長期多段どりトマト栽培における炭酸ガスの日射比例施用効果
 執 筆 者 | 川内亜紀・小林昌永

《抄 録》

標 題 | Effect of kraft pulp inclusion in calf starter on performance, health, and plasma concentration of glucagon-like peptide 2 in calves

執 筆 者 | Y. Inabu, K. Kurosu, R. Osawa, T. Hasunuma, N. Tsuji, H. Funo, K. Nishimura, S. Kushibiki, K. Kawashima, and T. Sugino

標 題 | 初産牛の乾乳期短縮が産乳と繁殖性に及ぼす影響

執 筆 者 | 大澤 玲・福井陽士・榊原裕二・眞鍋典義・岩本智恵子・高松英里奈・佐沢公子・森川繁樹・秋好佑紀・西村慶子・三宅 歩・佐藤 精・高橋優希・宮腰雄一・永墓訓明・真貝拓三・伊藤文彰・野中最子・田鎖直澄

(2) 新技術情報 (2023年度版)

標 担	題 当	水田作経営に導入可能なゴマ栽培法の開発 水田高度利用担当
標 担	題 当	ダイズ播種が遅れた場合の病害虫防除 病害虫研究担当
標 担	題 当	水田に適したサトイモの植付けと機械収穫 高収益畑作担当
標 担	題 当	ニホンナシにおける花粉採取率向上技術 (第2報) 果樹担当
標 担	題 当	遺伝子バンクを目指した豚受精卵の効率的な回収および凍結保存技術の開発 養豚・養鶏担当
標 担	題 当	埼玉県におけるサトイモ疫病防除体系の開発 病害虫研究担当
標 担	題 当	「えみほころ」を識別するDNAマーカーと異品種混入を検出する技術の開発 遺伝子情報活用担当
標 担	題 当	閉花受粉性イネの系統育成 水稻育種担当
標 担	題 当	ドローンを活用した小麦「さとのそら」の追肥診断 水田高度利用担当
標 担	題 当	中山間地などの灌漑設備が整備されていないほ場でのショウガの栽培方法 高収益畑作担当
標 担	題 当	タマネギ早生品種を用いた4~5月収穫作型 高収益畑作担当
標 担	題 当	キュウリつる下ろし栽培の誘引側枝増加による増収技術 施設園芸先端技術担当
標 担	題 当	カーネーションとカラシコエの焼却可能な培養土による鉢花栽培 施設園芸先端技術担当
標 担	題 当	泌乳牛の栄養管理による暑熱対策の確立 酪農担当
標 担	題 当	カラス被害を受けにくいスイカ品種について 鳥獣害防除担当

(3) ひと目でわかる新技術（2023年度版）

標 担	題 当	埼玉県におけるサトイモ疫病防除技術 病害虫研究担当
標 担	題 当	水稻新品種「えみほころ」の品種識別技術 遺伝子情報活用担当
標 担	題 当	水田での栽培を容易にするサトイモの植付けと機械収穫方法 高収益畑作担当
標 担	題 当	水田におけるゴマの苗立ちが安定する播種方法 水田高度利用担当
標 担	題 当	安価なドローンでリモートセンシング 水田高度利用担当
標 担	題 当	露地畑で利用可能な灌水制御装置 高収益畑作担当
標 担	題 当	タマネギの4～5月収穫作型 高収益畑作担当
標 担	題 当	焼却が可能な鉢土によるカーネーションとカラシコエの鉢花栽培 施設園芸先端技術担当
標 担	題 当	泌乳牛の栄養管理による暑熱対策 酪農担当
標 担	題 当	ダイズの播種期が遅れた場合の病害虫防除 病害虫研究担当

2 学会発表・著書・刊行物

(1) 学会論文発表

執筆者	鈴木智砂、柴崎茜、藤沼亮太、遠藤啓太、 <u>小玉太郎</u> 、平栗健史、 <u>島田智人</u> 、竹村圭弘
標 題	ニホンナシの花粉採取における開花ステージの影響および花粉採取量推定
学 会 名	園芸学会
発 表 年 月	2024年11月
発 表 者	<u>島田智人</u>
標 題	機械走行に適した樹形の開発
学 会 名	園芸学会 小集会
発 表 年 月	2024年11月
執筆者	Daisuke Kitano, Yuxin Li, <u>Yoshiyuki Nakamura</u> Yasuo Okumura 他
標 題	Safety and Efficacy of Edoxaban Monotherapy after Bioabsorbable Polymer Everolimus-Eluting Stent Implantation in a Human-Like Coronary Atherosclerotic Porcine Model
掲 載 誌 名	Atherosclerosis Plus
発 行 年 月	2025年1月
執筆者	大澤玲、眞鍋典義、宮本剛志、高松英里奈、佐沢公子、森川繁樹、西村慶子、高橋優希、眞貝拓三、伊藤文彰、野中最子、田鎖直澄
標 題	初産牛における乾乳期短縮時の栄養強化が産乳と繁殖性に及ぼす影響
掲 載 誌 名	家畜衛生学雑誌
発 行 年 月	2025年2月

(注) 当センターの職員には下線を付した

(2) 学会口頭発表、ポスター発表

発 表 者	<u>大澤玲</u>
演 題	初産牛の乾乳期短縮が産乳と繁殖性に及ぼす影響
学 会 名	家畜衛生学会 第99回大会 論文賞受賞記念講演会
発 表 年 月	2024年7月
発 表 者	<u>大澤玲</u> 樋口浩二
演 題	泌乳前期牛へのバイパスリジンを追加した低CP飼料の給与が泌乳成績、繁殖成績および尿窒素排泄量に及ぼす影響
学 会 名	日本畜産学会 第132回大会
発 表 年 月	2024年9月

- | | |
|------|---|
| 発表者 | <u>中村嘉之</u> |
| 演題 | 豚凍結受精卵を用いた遺伝的希少品種の群再構築手法の開発 |
| 学会名 | 日本獣医師会関東・東京合同地区学会 |
| 発表年月 | 2024年9月 |
| 発表者 | <u>中村嘉之</u> |
| 演題 | ブタの過剰排卵処理方法の開発 |
| 学会名 | 日本胚移植研究会 |
| 発表年月 | 2024年11月 |
| 発表者 | <u>中村嘉之</u> |
| 演題 | 高コレステロール・動脈硬化症モデルブタの小型化と生殖細胞凍結保存方法の検討 |
| 学会名 | 日本先端医学ブタ研究会 |
| 発表年月 | 2024年11月 |
| 発表者 | <u>山口凌土</u> 、 <u>高橋堯之</u> 、 <u>鈴木智砂</u> 、 <u>小玉太郎</u> 、 <u>野波和好</u> 、 <u>島田智人</u> 、 <u>竹村圭弘</u> |
| 演題 | 花粉樹としての暖地オウトウの検討 |
| 学会名 | 園芸学会 |
| 発表年月 | 2024年11月 |
| 発表者 | <u>小玉太郎</u> 、 <u>山口凌土</u> 、 <u>鈴木智砂</u> 、 <u>野波和好</u> 、 <u>島田智人</u> 、 <u>竹村圭弘</u> |
| 演題 | 機械走行によるニホンナシ花蕾採取技術の評価とそれに向けた樹形開発 |
| 学会名 | 園芸学会 |
| 発表年月 | 2024年11月 |
| 発表者 | <u>中村嘉之</u> |
| 演題 | 豚凍結受精卵を用いた遺伝的希少品種の群再構築手法の開発 |
| 学会名 | 第42回 日本獣医師獣医学術学会年次大会受賞講演 |
| 発表年月 | 2025年1月 |
| 執筆者 | <u>宇賀博之</u> ・ <u>岩瀬亮三郎</u> |
| 標題 | イネカメムシに対する数種薬剤の半数致死濃度と農薬作物残留データからみた残効期間の推測 |
| 掲載誌名 | 関東東山病害虫研究会 |
| 発行年月 | 2025年3月 |
| 発表者 | <u>岩瀬亮三郎</u> ・ <u>宇賀博之</u> |
| 演題 | イネカメムシに対するエチプロール粒剤の残効性と現地ほ場における防除体系の検討 |
| 学会名 | 関東東山病害虫研究会 |
| 発表年月 | 2025年3月 |

発表者	中村善紀
演題	埼玉県における水稲早生系統育成を目的とした出穂期遺伝子解析
学会名	日本育種学会
発表年月	2025年3月

(注) 当センターの職員には下線を付した

(3) 情報誌等

執筆者	大澤玲
標題	イネWCSとバイパスナイアシンによる乳牛の暑熱対策
掲載誌名	デーリィマン
発行年月	2024年6月

執筆者	印南ゆかり
標題	サトイモのかん水のタイミングは葉の角度でわかる
掲載誌名	現代農業 7月号
発行年月	2024年6月

執筆者	岩瀬亮三郎
標題	普通作物の令和6年度後半の防除対策について
掲載誌名	埼玉の植物防疫 No. 155.
発行年月	2024年7月

執筆者	浅野亘
標題	果樹・野菜害虫の令和6年度後半の防除対策について
掲載誌名	埼玉の植物防疫 No. 155.
発行年月	2024年7月

執筆者	浅野亘
標題	ネギにおけるネギネクロバネキノコバエの防除手法の改善
掲載誌名	グリーンレポート 令和6年7月号
発行年月	2024年7月

執筆者	宇賀博之
標題	春夏ネギ特集
掲載誌名	日本農業新聞
発行年月	2024年7月

執筆者	中村嘉之
標題	ブタ繁殖管理IoT化に向けた外陰部変化による発情・分娩検知指標の検討
掲載誌名	養豚の友 10月号
発行年月	2024年10月

執筆者	岩瀬亮三郎
標 題	普通作物の病害虫発生動向と2025年の防除対策
掲載誌名	埼玉の植物防疫 No. 157.
発行年月	2025年1月
執筆者	浅野亘
標 題	果樹・野菜の病害虫発生動向と2025年の防除対策
掲載誌名	埼玉の植物防疫 No. 157.
発行年月	2025年1月
執筆者	石原美樹
標 題	埼玉県における鳥獣被害の実態と対策
掲載誌名	埼玉の植物防疫 No. 157.
発行年月	2025年1月
執筆者	平野晃司
標 題	卵肉兼用ブランド鶏の開発について
掲載誌名	畜産埼玉第115号
発行年月	2025年1月
執筆者	印南ゆかり
標 題	サトイモの灌水要否を判断する簡易指標
掲載誌名	農業技術体系 追録49号
発行年月	2025年1月
執筆者	平野晃司
標 題	埼玉県における卵肉兼用ブランド鶏の開発について
掲載誌名	畜産技術 837号
発行年月	2025年2月
執筆者	印南ゆかり
標 題	サトイモの灌水要否を判断する簡易指標
掲載誌名	最新農業技術 野菜 vol.17
発行年月	2025年3月

(4) 著書・刊行物

著 者	埼玉県農業技術研究センター（水田高度利用担当）
書 名	「ニューサチホゴールド」栽培暦（暫定版）
発行所	埼玉県農業技術研究センター
発行年月	2024年9月
著 者	埼玉県農業技術研究センター（水田高度利用担当）
書 名	「えみほころ」栽培暦（暫定版）
発行所	埼玉県農業技術研究センター
発行年月	2025年3月

3 マスコミ関連

(1) 新聞記事

	掲載年月日	掲載紙名	掲載記事名	研究担当名	
1	2024年4月12日	日本経済新聞	県産イチゴ攻勢の時 品種開発、味に特化	あまりん、品評会で最高金賞 栽培面積は6年で30倍	野菜育種
2	2024年4月25日	日本農業新聞	営農新技術 サトイモの生育初期かん水 3L~Lの収量多い	土壌水分を必ず確認	高収益畑作
3	2024年5月9日	日本農業新聞	今月の麦管理 5月1日現在		農業革新支援
4	2024年5月10日	日本農業新聞	大麦切り替えへ実証 ビール用で利用期待 ニューサチホゴールデン2市で現地検討会 彩の星と比較		水田高度利用
5	2024年5月16日	日本農業新聞	果樹カメムシ注意報 5年ぶり 県発令 薬剤散布促す		病害虫防除対策
6	2024年5月23日	日本農業新聞	営農新技術 水田作経営におけるゴマ栽培法 既存機械活用で省力 国産志向高く高価格		水田高度利用
7	2024年5月29日	朝日新聞	カメムシ大量発生に注意 県、全域に5年ぶり発令 過去10年で越冬最多 果樹被害の恐れ		病害虫防除対策
8	2024年5月29日	産経新聞	「カメムシ類」大量発生恐れ 5年ぶり県内全域に注意報 果樹園などに対策呼びかけ		病害虫防除対策
9	2024年6月12日	朝日新聞	ウメ不作農家不安 越冬 収量見込みは例年の3割以下 温暖化による天候不順が原因か		農業革新支援
10	2024年6月13日	日本農業新聞	今月の水稲管理		農業革新支援
11	2024年6月27日	日本農業新聞	営農新技術 播種が遅れた大豆の病害虫防除 カメムシ向け回数減 ベと病予防しっかり		病害虫研究
12	2024年7月11日	日本農業新聞	今月の水稲管理		農業革新支援
13	2024年7月26日	日本農業新聞	ネギ病害虫防除のポイント 圃場全体の土壌消毒と早期発見		病害虫研究
14	2025年8月11日	埼玉新聞	「彩のきずな」育成について		水稲育種
15	2024年8月13日	日本農業新聞	耐性発達、暖冬も影響？ イネカメムシ防除難航		病害虫防除対策
16	2024年8月13日	日本農業新聞	猛暑に強く食味良く 彩のきずな 奇跡の1株 県が育成		水稲育種
17	2024年8月22日	日本農業新聞	営農新技術 水田サトイモの機械収穫 トラクターけん引式有効 作業時間30~50%省力		高収益畑作
18	2024年8月25日	日本農業新聞	山ルビー粒ぞろい 埼玉県秩父市 竹内さん（皆野町）知事賞		農業革新支援
19	2024年8月25日	埼玉新聞	埼玉食遺産 風土、文化を訪ねて 木と対話 大きく甘く 「彩玉」「赤ん坊の頭」の衝撃		果樹

掲載年月日	掲載紙名	掲載記事名	研究担当名
20	2024年8月28日	読売新聞 「彩玉」みずみずしい甘さ 浦和でナシ品評会	農業革新支援
21	2024年8月28日	日本農業新聞 梨「彩玉」出来競う 埼玉県果実連 武井さん（久喜）知事賞	農業革新支援
22	2024年8月28日	東京新聞 「彩玉」出来栄えは？ 県産ナシ共進会 知事賞に武井さん	農業革新支援
23	2024年9月12日	日本農業新聞 今月の水稲管理	農業革新支援
24	2024年9月26日	日本農業新聞 営農新技術 イチゴの生育と培地温の重要性 温湯管で18度を維持 暖候期の収量性向上へ	野菜育種
25	2024年9月27日	日本農業新聞 ビール大麦 栽培法学ぶ	水田高度利用
26	2025年9月27日	日本経済新聞電子版 「えみほころ」の育成について	水稲育種
27	2024年11月14日	日本農業新聞 今月の麦管理 11月1日現在	農業革新支援
28	2024年11月28日	日本農業新聞 営農新技術 梨受粉用花粉の自家調達力を高める手法 五分咲き時 一斉採花 採取量は5倍に向上	果樹
29	2024年11月13日	日本農業新聞 サトイモ品質競う 埼玉県協 共進会 12月に各賞決定	農業革新支援
30	2024年12月10日	日本農業新聞 アライグマ対策 習性利用、捕獲器が好評 新潟のメーカー・埼玉県が開発	鳥獣害防除
31	2024年12月12日	日本農業新聞 今月の麦管理 12月1日現在	農業革新支援
32	2025年1月5日	朝日新聞 糖度25度超も 最高金賞「あまりん」は埼玉発 イチゴ王国の復活は	野菜育種
33	2025年1月8日	毎日新聞 サステナブル埼玉2025 自然編7 「熊谷の夏」負けぬ米を 水稲新品種「えみほころ」 「奇跡の一株」超す高温耐性	水稲育種
34	2025年1月9日	日本農業新聞 今月の麦管理 12月19日現在	農業革新支援
35	2025年1月11日	朝日新聞 あまりん 王国へのカギ 温度・水量などデータ管理「ブランド守る」	野菜育種
36	2025年1月22日	日本農業新聞 スマート農業普及へ 埼玉県と石川県 オンラインセミナー 試験結果を共有	水田高度利用
37	2025年1月23日	日本農業新聞 営農新技術 豚受精卵の回収法と凍結保存 ホルモン剤処理有効 ガラス化で生存率向上	養豚・養鶏
38	2025年1月24日	日本農業新聞 研究成果発表会 参加者を募集 県農業技術研究センター	企画

掲載年月日	掲載紙名	掲載記事名	研究担当名
39 2025年2月3日	日本農業新聞	国産花粉の安定供給へ 採取効率化の動き 採取機普及へ 最適樹形模索	果樹
40 2025年2月5日	日本農業新聞	暑さ対策、カメムシ防除・・・ 研究成果を発表 埼玉県農技センター	農技研
41 2025年2月6日	日本農業新聞	効率的な選定実施 高品質な栗へ 講習会で実演	果樹
42 2025年2月27日	日本農業新聞	営農新技術 カラス被害を受けにくいスイカ 縞皮より黒皮品種を 視認性や嗜好性低い	鳥獣害防除
43 2025年3月13日	日本農業新聞	今月の麦管理 3月3日現在	農業革新支援
44 2025年3月14日	日本農業新聞	病虫害防除で講習を受ける ネギ JAくまがやアグリユース	病虫害研究
45 2025年3月20日	日本農業新聞	イチゴ「あまりん」食味向上へ検討会 JAちちぶ部会	野菜育種
46 2025年3月27日	日本農業新聞	イネカメムシ防除へ研修 JAほくさいと県	病虫害研究

(2) テレビ・ラジオ放送、Web掲載

	放送年月日	放送局名	放送内容	研究担当名
1	2024年5月29日	テレビ東京	「あまりん」及び埼玉県のイチゴ生産について	野菜育種
2	2024年7月29日	NHK	ニュースウォッチ9 水稲の高温耐性品種の育種について	水稲育種
3	2024年8月20日	TBSラジオ	彩の国にこねくと！週刊埼玉通信 彩玉について	果樹
4	2024年8月29日	ロイター通信	「えみほころ」の育成について	水稲育種
5	2024年8月29日	ジャパントイムズ	「えみほころ」の育成について	水稲育種
6	2024年8月29日	シンガポールチャンネル ニューズアジア	「えみほころ」の育成について	水稲育種
7	2024年8月29日	アメリカウイスコ ン州DUKE FM	「えみほころ」の育成について	水稲育種
8	2024年8月31日	BS-TBS	Bizスクエア 「えみほころ」の育成について	水稲育種
9	2024年9月4日	テレビ朝日	スーパーJチャンネル 「彩のきずな」について	水稲育種
10	2024年9月5日	フジテレビ	めざましテレビ 「えみほころ」の育成について	水稲育種
11	2024年11月30日	テレビ埼玉	いまドキッ！埼玉 食べよう！埼玉のお米	水稲育種
12	2024年12月19日	テレビ朝日	「べにたま」の特徴について	野菜育種
13	2025年2月6日	TBSテレビ	「あまりん」について	野菜育種
14	2025年2月7日	テレビ朝日	「あまりん」「べにたま」について	野菜育種
15	2025年2月13日	フジテレビ	「あまりん」と埼玉県のイチゴについて	野菜育種
16	2025年3月22日	テレビ埼玉	「あまりん」で埼玉を日本一のいちご県に	野菜育種

4 成果発表会

開催日時：令和7年2月3日（月）13:00～16:00

開催場所：埼玉県農業大学校（熊谷市樋春 2010）

主催：農業技術研究センター

開催方法：Teams によるオンライン配信併用

内容：講演発表、展示発表（パネル、現物）

(1) 講演発表課題

課 題 名	担 当 (演 者)
今夏の暑さによる水稲への影響と今後の対策	水田高度利用担当 (車田 智哉)
ここまでわかったイネカメムシの発生や防除	病虫害防除対策担当 (酒井 和彦)
水稲新品種「えみほころ」の栽培の留意点	水田高度利用担当 (山本 彩乃)
遺伝子解析で効率的に水稲早生品種を作る方法	遺伝子情報活用担当 (中村 善紀)
アライグマはどこにいる？どこで捕まえる？	鳥獣害防除担当 (湯村 英明)
牛のエサを最適化して温室効果ガスを削減	酪農担当 (大澤 玲)
土壌調査から見えた県農耕地の現状と傾向	環境安全担当 (岩佐 翔)
体系防除でサトイモ上物収量を確保しよう	病虫害研究担当 (小巻 康平)
定植本数を変えずに増収できるトマト栽培技術	施設園芸先端技術担当 (柴田 聖菜)
トマト灰色かび病防除のための効果的な薬剤はこれだ	病虫害研究担当 (小巻 康平)
JV 樹形、自動草刈機等の導入でナシの管理を省力化	果樹担当 (鈴木 智砂)
水稲との輪作も可能なタマネギの新作型	高収益畑作担当 (印南 ゆかり)
ショウガの収益性が向上する水分管理	高収益畑作担当 (後藤 一樹)
イチゴの花芽分化を地温から考える	野菜育種担当 (尾田 秀樹)

(2) パネル展示課題

課 題 名	担 当
ナガエツルノゲイトウ防除のポイント	農業革新支援担当
イチゴ県育成品種の生産拡大【農技研から普及現場に技術を繋ぐ】	農業革新支援担当
温室効果ガス削減につながるバイオ炭づくり	環境安全担当
ダイズ栽培における吸汁性カメムシ類対策	病害虫研究担当
埼玉県におけるイネカメムシの発生動向について～ここまでわかったイネカメムシ！～	病害虫研究担当
アライグマ専用捕獲器「ラクーンキューブ」の開発	鳥獣害防除担当
病害虫防除所ってどんなところ？	病害虫防除対策担当
遺伝子解析で新品種の育成に貢献！	遺伝子情報活用担当
暑さに強い！！お米の新品種「えみほころ」	水稻育種担当
甘くて、丸い輪郭のいちご「あまりん」	野菜育種担当
紅白のコントラストがきれいな いちご「べにたま」	野菜育種担当
暑い夏を乗り切る乳牛の夏バテ対策メニュー	酪農担当
令和8年度供給開始！タマシャモから生まれた「卵肉兼用鶏」～「卵」も「肉」も美味しい新たなオリジナルブランド～	養豚・養鶏担当
タマシャモと卵肉兼用鶏の大きさ（イメージ）	養豚・養鶏担当
ドローンによる水稻「彩のかがやき」追肥診断	水田高度利用担当
水稻多収性品種「ほしじるし」の乾田直播栽培における施肥の目安	水田高度利用担当
水稻の乾田直播栽培～鎮圧によって漏水を軽減～	水田高度利用担当
水田作経営に導入可能なゴマ栽培	水田高度利用担当
水源や電気の無い畑でも使える自動灌水装置を開発しました	高収益畑作担当
新規作物「青パパイヤ」の栽培試験を実施中です	高収益畑作担当
埼玉県の伝統野菜「しゃくし菜」における間引き作業省力化のための播種方法	高収益畑作担当
低温庫を利用したアリッサムの育苗技術	施設園芸先端技術担当
ナシにおける花粉採取専用樹形・植調剤利用等による花粉採取作業の効率・軽労化技術の確立と現地実証①	果樹担当
ナシにおける花粉採取専用樹形・植調剤利用等による花粉採取作業の効率・軽労化技術の確立と現地実証②	果樹担当
ナシにおける花粉採取専用樹形・植調剤利用等による花粉採取作業の効率・軽労化技術の確立と現地実証③	果樹担当
新しい技術を活用したトマト長期多段どり栽培の実証	次世代技術実証普及担当

5 知的財産権の出願・登録状況

(1) 特許権 (R7.3.31現在)

名 発 出 登 番 備	明 願 年 月 日 年 月 日	称 者 日 日 号 考	有機肥料の製造方法 鎌田 淳、丸岡久仁雄、畑 克利 平成21年4月6日 平成27年4月24日 特許第5735733号 共同出願：朝日工業(株)
名 発 出 登 番 備	明 願 年 月 日 年 月 日	称 者 日 日 号 考	植物病診断システム、植物病診断方法、及びプログラム 宇賀博之 平成28年3月9日 令和元年6月21日 特許第6539901号 共同出願：法政大学
名 出 登 番 備	明 願 年 月 日 年 月 日	称 者 日 日 号 考	振動を用いた害虫の行動制御により植物を保護する方法 宇賀博之 平成28年12月16日 令和3年3月8日 特許第6849186号 共同出願：(国研) 森林研究・整備機構、電気通信大学、 (国研) 農研機構、島根県、琉球大学
名 出 登 番 備	明 願 年 月 日 年 月 日	称 者 日 日 号 考	トリガーモジュール及びトリガーモジュール付き捕獲器 小川倫史、古谷益朗、横山素之 平成30年12月5日 令和3年8月30日 特許第6935656号 共同出願：(有) 栄工業
名 出 登 番 備	明 願 年 月 日 年 月 日	称 者 日 日 号 考	トマト果実糖度及び／又は耐ストレス性の向上に用いることができるト マト用台木 中畝 誠、塚澤和憲 平成30年10月31日 令和4年11月1日 特許第7168931号 共同出願：東海国立大学機構
名 出 登 番 備	明 願 年 月 日 年 月 日	称 者 日 日 号 考	植物選別作業支援装置、植物選別作業支援合成画像表示システム装置、 学習済みモデル生成装置、植物選別作業支援方法、植物選別作業支援合 成画像表示方法、学習済みモデル生産方法、プログラム及び記録媒体 戸邊一成、重松統、遠藤紀浩、南原恵子、杉村孝 令和2年11月30日 令和6年11月14日 特許第7588310号 共同出願：NECソリューションイノベータ(株)
名 出 登 番 備	明 願 年 月 日 年 月 日	称 者 日 日 号 考	高コレステロール血症／動脈硬化症モデルミニブタ 中村嘉之、瀧沢慶太 令和2年10月23日 令和7年1月9日 特許第7617522号 共同出願：(国研) 農研機構、日本大学

名 発 出 公 公 備	願 開 開	明 年 年 開	月 月 番	称 者 日 日 号 考	代用乳用組成物、代用乳 大澤玲 令和2年12月10日 令和4年6月22日 特開2022-092216 出願中、共同出願：全酪連、広島大学、神奈川県、富山県、石川県、 (株)ワイピーテック
名 発 出 出 備	願 願	明 年 年	月 月 番	称 者 日 日 号 考	花粉量推定システム、花粉量推定方法、および、花粉量推定プログラム 島田智人、柴崎茜 令和6年1月11日 特願2024-002693 出願中、共同出願：電気興業(株)、日本工業大学、同志社大学、 鳥取大学

(2) 品種育成

ア 種苗法に基づく登録品種（令和7年3月31日現在登録のある品種）

種 類	品 種 名 称	登録年月日	登録番号	備 考
稲	さけ武蔵	2007年2月20日	第14779号	うるち米
稲	彩のみのり	2010年11月15日	第20027号	うるち米
稲	彩のきずな	2014年3月6日	第23136号	うるち米
稲	むさしの26号	2020年2月21日	第27808号	うるち米
稲	むさしの27号	2022年3月28日	第29119号	うるち米
稲	むさしの29号	2022年3月28日	第29120号	うるち米
シクラメン	麗しの香り	2008年3月13日	第16571号	
シクラメン	孤高の香り	2008年3月13日	第16572号	
シクラメン	香りの舞い	2010年3月17日	第19382号	
シクラメン	天女の舞	2016年3月1日	第24750号	共同出願：(国研)量研
シクラメン	みやびの舞	2017年9月28日	第26250号	共同出願：(国研)量研
ナシ	彩玉（さいぎょく）	2005年2月7日	第12729号	
イチゴ	埼園い1号	2019年2月14日	第27265号	商標：かおりん
イチゴ	埼園い3号	2019年2月14日	第27266号	商標：あまりん

イ 登録出願中（令和7年3月31日現在登録出願中の品種）

種 類	品 種 名 称	出願公表	出願番号	備 考
イチゴ	彩6号	2021年9月16日	第35413号	商標：べにたま
稲	えみほころ	2022年7月26日	第36133号	うるち米
梨	彩姫	2024年5月20日	第37227号	
梨	彩彦	2024年5月20日	第37228号	

ウ その他（県で育成した品種等）

種 類	品種等の名称	登録又は作出時期	登録番号・品種登録先
鶏	タマシャモ	1984年	
豚(ランドレース種)	サキタマ	1986年4月1日	L6 (社)日本種豚登録協会
豚(ランドレース種)	ダイ2サキタマ	1996年7月16日	L28 (社)日本種豚登録協会

6 技術研修員の受入れ

(1) 海外からの技術研修員の受入れ

なし

(2) 国内からの技術研修員の受入れ

受 入 先	環境安全担当、病害虫研究担当
受 入 制 度	埼玉県庁インターンシップ
受 入 期 間	2024年8月1, 2日、8月5～7日
研修員の所属・人数	埼玉大学大学院・1名、東京農工大学・1名

受 入 先	果樹担当
受 入 制 度	埼玉県農業技術研究センター技術研修員受入要領
受 入 期 間	2024年9月2～6日、9月9～13日
研修員の所属・人数	東洋大学・1名

受 入 先	高収益畑作担当、施設園芸先端技術担当
受 入 制 度	埼玉県庁インターンシップ
受 入 期 間	2024年9月17～20日
研修員の所属・人数	東北大学大学院・1名

7 研修会等の開催

研修会等の名称	第61回実証ラボ定例研修会
主催者（担当）	次世代技術実証普及担当
開催年月日	2024年4月23日
場所（参加者数）	久喜試験場（19人）
研修会等の名称	第62回実証ラボ定例研修会
主催者（担当）	次世代技術実証普及担当、農業革新支援担当
開催年月日	2024年5月28日
場所（参加者数）	久喜試験場（28人）
研修会等の名称	第63回実証ラボ定例研修会
主催者（担当）	次世代技術実証普及担当
開催年月日	2024年6月18日
場所（参加者数）	久喜試験場（33人）
研修会等の名称	第64回実証ラボ定例研修会
主催者（担当）	次世代技術実証普及担当
開催年月日	2024年8月27日
場所（参加者数）	久喜試験場（21人）
研修会等の名称	第65回実証ラボ定例研修会
主催者（担当）	次世代技術実証普及担当、病害虫研究担当
開催年月日	2024年9月24日
場所（参加者数）	久喜試験場（28人）
研修会等の名称	第66回実証ラボ定例研修会
主催者（担当）	次世代技術実証普及担当、施設園芸先端技術担当
開催年月日	2024年10月22日
場所（参加者数）	久喜試験場（18人）
研修会等の名称	第67回実証ラボ定例研修会
主催者（担当）	次世代技術実証普及担当
開催年月日	2024年11月26日
場所（参加者数）	久喜試験場（39人）

研修会等の名称	第68回実証ラボ定例研修会
主催者（担当）	次世代技術実証普及担当
開催年月日	2024年12月24日
場所（参加者数）	久喜試験場（24人）
研修会等の名称	第69回実証ラボ定例研修会
主催者（担当）	次世代技術実証普及担当
開催年月日	2025年1月28日
場所（参加者数）	久喜試験場（16人）
研修会等の名称	第70回実証ラボ定例研修会
主催者（担当）	次世代技術実証普及担当
開催年月日	2025年2月18日
場所（参加者数）	久喜試験場（19人）
研修会等の名称	第71回実証ラボ定例研修会
主催者（担当）	次世代技術実証普及担当
開催年月日	2025年3月25日
場所（参加者数）	久喜試験場（17人）

8 講師派遣

(1) 企画担当

派遣先	農業技術研究センター
指導内容	普及指導員研修：新任普及職員研修
派遣期間	2024年7月19日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	17名

(2) 農業革新支援担当

派遣先	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場
指導内容	緑枝管理研修会
派遣期間	2024年5月22日
研修等の主催者	埼玉県梨経営研究会
指導対象人数	20名

派遣先	農業技術研究センター 久喜試験場 研修室
指導内容	早生ナンシ試食会
派遣期間	2024年7月31日
研修等の主催者	埼玉県梨経営研究会
指導対象人数	20名

派遣先	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場
指導内容	秋枝落とし研修会
派遣期間	2024年10月30日
研修等の主催者	埼玉県梨経営研究会
指導対象人数	25名

派遣先	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場
指導内容	せん定講習会
派遣期間	2024年12月13日
研修等の主催者	埼玉県梨経営研究会
指導対象人数	30名

(3) 環境安全担当

派遣先	農業技術研究センター
指導内容	農林部新規採用職員研修
派遣期間	2024年5月27日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	18名

派遣先	農業大学校
指導内容	農業大学校講義：環境保全型農業の推進
派遣期間	2024年10月31日
研修等の主催者	農業大学校
指導対象人数	80名

派遣先	農業技術研究センター
指導内容	普及指導員研修・専門研修（土壌肥料）1年目
派遣期間	2024年2月20日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	

派遣先	クレアこうのす
指導内容	有機研修会（バイオ炭利用）
派遣期間	2025年1月17日
研修等の主催者	農産物安全課
指導対象人数	100名

(4) 病害虫研究担当

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 玉井試験場 普及指導員研修・専門研修（作物）2年目 2024年4月23日 農業支援課 3名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	全農埼玉県本部 東部総合センター 農薬応用研修会 2024年5月23日 JAさいたま 20名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 玉井試験場 普及指導員研修・専門研修（作物）2年目 2024年7月9日 農業支援課 4名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	埼玉県種苗センター イチゴの害虫と防除について 2024年7月30日 東松山農林振興センター 10名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業大学校 イチゴ苗の高濃度炭酸ガスによるハダニ対策 2024年9月18日 農業大学校 31名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 タバコナジラミの防除対策 2024年9月24日 次世代技術実証普及担当 28名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター、農業大学校 普及指導員研修・専門研修（病害虫）1年目 2024年9月30日 農業支援課 16名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業大学校 農業大学校講義：総合的病害虫管理(最新の病害虫の発生状況や対策について) 2024年10月17日 農業大学校 20名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	Web会議 タバコナジラミの生態と対策について 2024年12月16日 農業革新支援担当 10名

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	埼玉共済会館 農薬アドバイザー研修 2024年1月15日 農産物安全課 200名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	JAくまがや 西部営農経済センター ネギ栽培における黒腐菌核病対策について 2025年2月21日 JAくまがやアグリユース 50名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	JAほくさい本店 イネカメムシの防除対策について 2025年3月11日 JAほくさい、加須農林振興センター 220名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	花と緑の振興センター 輸出用盆栽の病害虫防除について（マメコガネ、タマイブキノタマバエ） 2025年3月14日 埼玉県輸出盆栽研究会、花と緑の振興センター 20名

(5) 鳥獣害防除担当

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	秩父農林振興センター 令和6年度秩父地域鳥獣害対策協議会 第1回担当者会議 2024年4月30日 秩父地域鳥獣害対策協議会 17名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	秩父農林振興センター 農業経営高度化研修（農技研）普及員研修 2024年5月17日 農業革新支援担当 10名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	越谷環境管理事務所 アライグマ捕獲従事者研修 2024年6月11日 越谷環境管理事務所 30
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農林公園 第3回農作物鳥獣害防止指導者育成研修 2024年7月12日 農業支援課 32
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	浦和地方庁舎 アライグマ捕獲従事者研修 2024年7月26日 中央環境管理事務所 23名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	環境科学国際センター アライグマ捕獲従事者研修 2024年10月10日 東部環境管理事務所 57名

派遣先	東松山市民文化センター
指導内容	アライグマ捕獲従事者研修
派遣期間	2024年10月15日
研修等の主催者	東松山環境管理事務所
指導対象人数	36名

派遣先	江南勤労福祉センター
指導内容	アライグマ捕獲従事者研修
派遣期間	2024年10月18日
研修等の主催者	北部環境管理事務所
指導対象人数	69名

(6) 病害虫防除対策担当

派遣先	農業技術研究センター
指導内容	普及指導員研修：新任普及職員研修
派遣期間	2024年7月19日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	17名

(7) 遺伝子情報活用担当

派遣先	農業技術研究センター
指導内容	普及指導員研修：新任普及職員研修
派遣期間	2024年7月23日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	14名

派遣先	農業大学校
指導内容	農業大学校講義：育種授業
派遣期間	2024年11月12日
研修等の主催者	農業大学校
指導対象人数	80名

(8) 水稻育種担当

派遣先	上里町
指導内容	小麦「さとのそら」委託原種審査
派遣期間	2024年4月26日、5月29日、7月19日
研修等の主催者	公益社団法人 埼玉県農林公社 種苗センター
指導対象人数	10名

派遣先	熊谷市
指導内容	小麦「あやひかり」委託原種審査
派遣期間	2024年5月2日、6月6日、7月17日
研修等の主催者	公益社団法人 埼玉県農林公社 種苗センター
指導対象人数	10名

派遣先	産業技術総合センター 北部研究所
指導内容	市販清酒研究会
派遣期間	2024年7月16日
研修等の主催者	埼玉県酒造組合
指導対象人数	50名

派遣先	農業技術研究センター 玉井試験場
指導内容	普及指導員研修：新任普及職員研修
派遣期間	2024年7月26日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	17名

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 玉井試験場 水稲「コシヒカリ、彩のきずな、えみほころ」、大豆「里のほほえみ」原種審査 2024年8月6日、8月15日、9月1日、9月18日、11月29日 公益社団法人 埼玉県農林公社 種苗センター 4名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 玉井試験場 水稲の高温障害対策について 2024年8月8日 J A 埼玉中央吉見町主穀研究会、吉見町農業機械化経営者協議会 9名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 玉井試験場 水稲新品種「えみほころ」に係る講義 2024年8月9日 松伏町認定農業者協議会 17名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	「えみほころ」展示ほ（羽生市） 現地検討会 2024年8月19日 羽生市農政課 20名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	「えみほころ」実証ほ（幸手市） 現地検討会 2024年8月20日 春日部農林振興センター 20名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業大学校 農業大学校講義：作物育種 2024年11月21日 農業大学校 70名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 玉井試験場 水稲の品種育成と栽培に関する研究について 2025年1月23日 御殿場市農業委員会 30名

(9) 野菜育種担当

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	さいたま市生産者圃場 さいたま市スマート農業サポート事業圃場巡回 2024年6月13日 さいたま市 15人
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	東松山地方庁舎 比企地域いちご育苗講習会 2024年6月18日 東松山農林振興センター 30人
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	加須市北川辺地内 親株現地検討会 2024年6月21日 北川辺いちご部 11人

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	大里農林振興センター 「べにたま」栽培講習会 2024年6月27日 大里農林振興センター 25人
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	JAさいたま伊奈支店 「べにたま」の育苗について 2024年7月16日 JAさいたま 23人
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	JA南彩 菖蒲南支店 あまりん・べにたま講習会 2024年7月23日 春日部農林振興センター 20人
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	埼玉産直センター いちご育苗現地検討会 2024年8月2日 埼玉産直センター苺部会 31人
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	秩父農林振興センター 埼玉県育成品種の定植前後の栽培管理について 2024年8月8日 JAちちぶいちご部会 25人
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 普及指導員研修（野菜・2年目） 2024年8月30日 農業支援課 10人
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	熊谷文化創造館 さくらめいと 「べにたま」の品種特性と低温管理栽培 2024年9月2日 養液いちご研究会 100人
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	大里農林振興センター 第2回「べにたま」栽培講習会 2024年10月18日 大里農林振興センター 20人
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	加須市北川辺地内 イチゴ現地検討会 2024年11月5日 北川辺いちご部 12人
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	ラ・ポア・ラクテ 県産イチゴの栽培について（温度管理、冬～春の管理） 2024年12月3日 JAいるま野 ストロベリーファーマーズ 15人

派遣先	農業大学校
指導内容	作物育種：埼玉県におけるイチゴ育種について
派遣期間	2024年12月12日
研修等の主催者	農業大学校
指導対象人数	30人
派遣先	埼玉産直センター
指導内容	イチゴの食味向上を意識した栽培管理について
派遣期間	2024年12月20日
研修等の主催者	埼玉産直センター苺部会
指導対象人数	30人
派遣先	越谷市中央市民会館
指導内容	こしがや市民大学第2期講座：埼玉県オリジナルいちご開発秘話
派遣期間	2025年2月15日
研修等の主催者	越谷市教育委員会
指導対象人数	300人
派遣先	秩父農林振興センター
指導内容	イチゴ食味会
派遣期間	2025年3月10日
研修等の主催者	JAちちぶいちご部会
指導対象人数	20人

(10) 酪農担当

派遣先	農業共済会館
指導内容	配合飼料基金協会講演会 飼料用イネとバイパスナイアシンにおける泌乳牛の暑熱対策
派遣期間	2024年5月22日
研修等の主催者	埼玉県配合飼料基金協会
指導対象人数	20名
派遣先	農業技術研究センター
指導内容	農林部新規採用職員研修 乳牛の飼養管理体験
派遣期間	2024年5月27日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	18名
派遣先	全国家電会館
指導内容	関東東山畜産関係場所長会議 畜産からのGHG排出削減のための技術開発に関する情報提供
派遣期間	2024年6月18日
研修等の主催者	関東東山畜産関係場所長会議
指導対象人数	60名
派遣先	全農埼玉県本部
指導内容	全農クーラーステーション研修会 飼料用イネとバイパスナイアシンにおける泌乳牛の暑熱対策
派遣期間	2024年6月27日
研修等の主催者	全農埼玉県本部
指導対象人数	30名
派遣先	農業技術研究センター
指導内容	普及指導員研修：新任普及職員研修
派遣期間	2024年7月19日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	15名

派遣先	農業技術研究センター
指導内容	酪農振興対策事業に係る技術研修会 乳牛管理の基礎知識と搾乳
派遣期間	2024年8月2、5、7、9、15、20日
研修等の主催者	畜産安全課
指導対象人数	6名
派遣先	農業技術研究センター
指導内容	家畜審査競技会 乳牛の家畜審査
派遣期間	2024年8月8日
研修等の主催者	日本学校農業クラブ連盟 埼玉県連盟
指導対象人数	50名
派遣先	熊谷地方庁舎
指導内容	家畜商講習会 酪農
派遣期間	2024年9月3日
研修等の主催者	畜産安全課
指導対象人数	9名
派遣先	農業技術研究センター
指導内容	埼玉県粗飼料利用研究会現地検討会 乳牛飼養試験内容の紹介（暑熱対策、乳房炎対策、GHG削減、電池レスビーコン、サシバエ防除、哺乳育成方法他）
派遣期間	2025年2月28日
研修等の主催者	埼玉県粗飼料利用研究会
指導対象人数	40名

(11)養豚・養鶏担当

派遣先	農業技術研究センター
指導内容	普及指導員研修：新任普及職員研修
派遣期間	2024年7月19日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	20名
派遣先	家畜審査競技会
指導内容	繁殖雌豚の家畜審査
派遣期間	2024年8月8日
研修等の主催者	日本学校農業クラブ連盟 埼玉県連盟
指導対象人数	40名
派遣先	家畜商講習会
指導内容	豚の品種及び特徴、悪癖、機能障害
派遣期間	2024年9月3日
研修等の主催者	畜産安全課
指導対象人数	11名
派遣先	日本胚移植研究会webセミナー
指導内容	ブタの受精卵移植技術
派遣期間	2025年2月21日
研修等の主催者	日本胚移植研究会
指導対象人数	70名

(12)水田高度利用担当

派遣先	農業技術研究センター 玉井試験場
指導内容	普及指導員研修：専門研修（作物）2年目
派遣期間	2024年4月27日、6月5、26日、7月9日、9月25日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	3名

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 玉井試験場 普及指導員研修：技術高度化研修（スマート農業Ⅱ） 2024年6月20日、7月2、4日 農業支援課 8名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 玉井試験場 水稲高温対策技術研修会 2024年6月28日 生産振興課、埼玉うまい米づくり推進協議会 43名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業大学校 農業大学校講義：スマート農業 2024年7月5日、12月17日 農業大学校 50名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 玉井試験場 普及指導員研修：新任普及職員研修 2024年7月26日 農業支援課 17名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	JAほくさい本店 「ニューサチホゴールデン」栽培講習会 2024年9月30日 JAほくさい 30名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 玉井試験場 普及指導員研修：専門研修（作物）1年目 2024年9月25日、11月28日、12月11日 農業支援課 2名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業支援課 スマート農業オンラインセミナー 2025年1月20日 農業支援課 60名

(13) 高収益畑作担当

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 普及指導員研修：新任普及職員研修 2024年7月19日 農業支援課 16名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 普及指導員研修：専門研修（野菜）2年目 2024年7月23日 農業支援課 6名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 普及指導員研修：専門研修（野菜）2年目 2024年11月7日 農業支援課 6名

派遣先	ささらの里（諏訪神社社務所）
指導内容	丸系八つ頭・里芋の栽培について
派遣期間	2025年3月29日
研修等の主催者	畔吉新田農家組合
指導対象人数	18名

(14)施設園芸先端技術担当

派遣先	愛知豊明花き地方卸売市場
指導内容	2024ポットプランツコンテスト・春の部
派遣期間	2024年4月3日
研修等の主催者	東海地域花き普及・振興協議会、愛知豊明鉢物流通改善協議会
指導対象人数	16名

派遣先	加須市ほか県内現地圃場
指導内容	第48回施設野菜立毛共進会本審査会（半促成キュウリ）審査
派遣期間	2024年4月9日
研修等の主催者	埼玉県野菜園芸技術研究会
指導対象人数	5名

派遣先	ホテルヘリテイジ
指導内容	第1回彩の国バラとガーデニングショーコンテスト
派遣期間	2024年5月17日
研修等の主催者	第1回彩の国バラとガーデニングショー実行委員会
指導対象人数	10名

派遣先	大寄公民館
指導内容	第4回次世代型トマト栽培セミナー
派遣期間	2024年6月19日
研修等の主催者	大里農林振興センター
指導対象人数	44名

派遣先	農業技術研究センター
指導内容	普及指導員研修：新任普及職員研修
派遣期間	2024年7月19日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	17名

派遣先	農業技術研究センター
指導内容	普及指導員研修：専門研修（花植木）2年目
派遣期間	2024年10月16日、10月21日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	1名

派遣先	農業技術研究センター
指導内容	普及指導員研修：専門研修（野菜）2年目
派遣期間	2024年10月3日、2025年1月17日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	6名

派遣先	神奈川県農業技術センター
指導内容	第70回全日本花卉品種審査会
派遣期間	2024年11月8日
研修等の主催者	一般社団法人 日本種苗協会
指導対象人数	15名

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 関東東海北陸農業試験研究推進会議 野菜部会現地研究会 2024年11月12日 関東東海北陸農業試験研究推進会議 野菜部会 60名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	愛知豊明花き地方卸売市場 2024ポットプランツコンテスト・秋の部、鉢物品評会 2024年11月13日 東海地域花き普及・振興協議会、愛知豊明鉢物流通改善協議会 44名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	八木橋百貨店 カトレアホール 第41回さいたま花の祭典品評会審査 2024年11月28日 さいたまの花普及促進協議会 25名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	地方卸売市場 鴻巣フラワーセンター 令和6年度 冬季品評会 2024年12月5日 鴻巣花き株式会社・鴻巣花き親睦会・鴻巣花き買参人会 30名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	鴻巣花き株式会社1階出荷場 令和6年埼玉県シクラメン研究会共進会 2024年12月10日 埼玉県シクラメン研究会 30名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	大寄公民館 第5回次世代型トマト栽培セミナー(春の高温対策) 2024年12月16日 大里農林振興センター 43名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	サンシャインシティ文化会館 第73回関東東海花の展覧会 2025年1月30日 第73回関東東海花の展覧会 55名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	埼玉会館 (Web開催) 埼玉県スマート農業オンラインセミナー (施設園芸編) 2025年2月13日 農業支援課 65名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	アリオ深谷 センターコート 第53回深谷市花の展覧会 2025年3月1日 深谷市花き生産組合連合会 20名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	熊谷市ほか県内現地圃場 第49回施設野菜立毛共進会本審査会 (促成トマト) 審査 2025年3月4日 埼玉県野菜園芸技術研究会 10名

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	熊谷市ほか県内現地圃場 埼玉県野菜園芸技術研究会 会員研修会 2025年3月11日 埼玉県野菜園芸技術研究会 15名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	地方卸売市場 鴻巣フラワーセンター 令和7年 春季品評会 2025年3月27日 鴻巣花き株式会社、鴻巣花き親睦会、鴻巣花き買参人会 22名

(15)果樹担当

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	深谷市川本ぶどう園 ブドウ新梢管理研修 2024年5月9日 彩の国ぶどう倶楽部 50名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 研修室 緑枝管理研修会 2024年5月22日 埼玉県梨経営研究会 20名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 彩玉摘果・新梢管理講習会 2024年5月30日 果実連合会 60名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	全農新潟県本部 ニホンナシ花粉自給率向上のための取組 2024年6月5日 新潟県果樹振興協会 80名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 省力樹形について 2024年6月21日 岐阜県農業技術センター 1名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 梨生産状況、花粉採取対策 2024年6月27日 JAふくおか八女なし部会 3名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 研究概要、果肉障害・高温対策について 2024年7月3日 JA北つくば結城園芸部会果樹部 26名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 研究概要、花粉対策について 2024年7月3日 佐原市ナシ栽培組合有志 5名

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	種苗センター 果実連役員会・彩玉委員会 2024年7月7日 埼玉県果実連合会（JA全農埼玉） 18名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 花粉採取の省力化・「横山梨」の特性について 2024年7月11日 JAふくしま未来福島地区 3名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 生育状況・病害虫対策 2024年7月16日 蓮田市SS防除班連絡協議会 25名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 分かりやすい剪定方法について 2024年7月17日 東松山市農業塾 14名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	神奈川県農業技術センター ナシ花粉専用品種の特性と花粉採取の効率化 2024年7月18日 神奈川県果樹組合連合会 90名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	深谷市、秩父市 ブドウ栽培圃場巡回指導 2024年7月23日 彩の国ぶどう倶楽部 50名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 早生ナシ試食会 2024年7月31日 埼玉県梨経営研究会 20名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	JA南彩江面支店 久喜市梨組合幸水共進会審査 2024年8月8日 久喜市梨組合 20名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 彩玉収穫適期講習会 2024年8月13日 果実連合会 60名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	東京青果商会館 ナシの品種について 2024年8月25日 東京青果物商協同組合八百屋塾実行委員会 40名

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 秋枝落とし研修会 2024年10月30日 埼玉県梨経営研究会 25名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 「彩玉」の特性、花粉対策 2024年11月6日 JA金沢市梨部会 8名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	種苗センター 彩玉苗木、品質調査協力 2024年11月20日 種苗センター 15名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 花粉採取の効率化 2024年11月26日 船橋市果樹園芸組合 20名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 早期整園化技術 2024年11月27日 JA加賀梨部会 20名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 加須市園芸連梨部会 2024年12月5日 農済埼玉果樹部会 6名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	鳥取県園芸試験場 受粉樹の好適栽培法・ニホンナシのせん定、王秋の果肉障害対策 2024年12月7日 鳥取大学 60名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	深谷市川本ぶどう園 ブドウ栽培冬期管理研修 2024年12月10日 彩の国ぶどう倶楽部 60名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 せん定講習会 2024年12月13日 埼玉県梨経営研究会 30名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 ナン研究概要、「あきづき」の果肉障害対策、「彩玉」の将来性 2024年12月17日 JAセレサ川崎果樹部中央支部 15名

派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 彩玉せん定講習会 2024年12月19日 果実連合会 60名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 早期整園化、省力的花粉採取と低樹高ジョイント 2024年12月19日 栃木県那須農業振興事務所 10名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 ナシの花粉採取技術について 2025年1月22日 JAみなみ信州まつかわ果樹部会 20名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	つくば国際会議場 ナシ受粉樹における花粉採取効率を高める手法 2025年1月28日 農研機構果樹茶業研究部門 200名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 ナシの花粉の効率的な採取技術について 2025年2月4日 (株) ファーマインド 5名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 ナシ栽培技術について 2025年2月12日 桶川市梨出荷組合 9名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 彩玉の整枝せん定、花芽の整理 2025年2月12日 富士見梨生産組合 13名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	多目的研修梨会館 ニホンナシの花粉調達に関する近年の研究成果 2025年2月18日 富山市果樹振興会 50名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 会議室 総会での栽培概要報告 2025年2月20日 彩の国ぶどう倶楽部 60名
派遣先 指導内容 派遣期間 研修等の主催者 指導対象人数	農業技術研究センター 久喜試験場 果樹圃場 ナシ受粉樹の仕立て法と管理について 2025年3月3日 JAはが野梨部会研究部 2名

(16) 次世代技術実証普及担当

派遣先	農業技術研究センター 久喜試験場
指導内容	埼玉次世代施設園芸コンソーシアム研修会（埼玉拠点の取組）
派遣期間	2024年6月18日
研修等の主催者	埼玉次世代施設園芸コンソーシアム・埼玉次世代施設園芸トマト研究会
指導対象人数	35名
派遣先	大寄公民館
指導内容	第4回次世代型トマト栽培セミナー
派遣期間	2024年6月19日
研修等の主催者	大里農林振興センター
指導対象人数	44名
派遣先	JA全農さいたま東部総合センター
指導内容	JA営農担当者研修会（次世代施設園芸マニュアル類の紹介）
派遣期間	2024年10月17日
研修等の主催者	JA埼玉県担い手サポートセンター
指導対象人数	29名
派遣先	大寄公民館
指導内容	第5回次世代型トマト栽培セミナー（春の高温対策）
派遣期間	2024年12月16日
研修等の主催者	大里農林振興センター
指導対象人数	43名
派遣先	農業技術研究センター 久喜試験場
指導内容	普及指導員研修：専門研修（野菜）1年目
派遣期間	2024年12月19日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	16名
派遣先	埼玉会館（Web開催）
指導内容	埼玉県スマート農業オンラインセミナー（施設園芸編）
派遣期間	2025年2月13日
研修等の主催者	農業支援課
指導対象人数	65名

9 視察受入れ

担当名	視察日	視察した団体の情報			視察の目的	視察の内容	視察場所
		団体名	所在地 (市町村)	視察人数			
野菜育種担当	2024年4月16日	産直センター	本庄市	10	あまりん及びべにたまの栽培について	圃場見学	農業技術研究センター
所長、各担当	2024年4月17日	東洋大学食環境科学部食環境科学科1年学生	朝霞市	15	食関連機関訪問により、①学びと社会のつながりを体験・実感させる、②学生の意識向上、③交流の促進、等	農技研の概要、遺伝子情報活用担当の取組紹介、野菜育種担当の業務について、場内見学（トマト、青パパイヤ、残留農薬）	農業技術研究センター
水田高度利用担当 水稲育種担当	2024年6月12日	米国農務省海外農政局国際市場分析課	米国	3	水稲・麦類の生育概況及び水稲の育種について	県内の水稲・麦類の生育概況、新品種育成の取り組み概要、圃場見学	農業技術研究センター 玉井試験場
果樹担当	2024年7月3日	結城園芸部会果樹部	茨城県	26	ナシ花粉確保、果肉障害対策、恒温対策について	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
果樹担当	2024年7月7日	東松山市農業塾	東松山市	14	ナシの整枝方法について	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
果樹担当	2024年7月11日	JAふくしま未来福島地区	福島県	3	「横山梨」の栽培について	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
次世代技術実証普及 担当 果樹担当	2024年8月1日	上尾市園芸振興協議会	上尾市	18	トマト、ナシの新技術の見学	実証ラボハウス、果樹圃場の見学	農業技術研究センター 久喜試験場
水田高度利用担当 水稲育種担当	2024年8月8日	JA埼玉中央吉見町主穀研究会 吉見町農業機械化経営者協議会	吉見町	9	水稲の高温障害対策について	彩のきずな、えみほころの特性紹介、栽培管理技術の紹介、圃場見学	農業技術研究センター 玉井試験場
水田高度利用担当 水稲育種担当	2024年8月9日	松伏町認定農業者協議会	松伏町	17	高温耐性品種の特性と栽培管理技術	「えみほころ」の品種特性と栽培管理技術、圃場見学	農業技術研究センター 玉井試験場
関連各担当	2024年8月20日	JA埼玉県中央会	さいたま市	3	関連試験実施状況の視察	バイオ炭、ユリ局所温度管理、露地野菜の節水灌漑、カメムシ試験	農業技術研究センター
次世代技術実証普及 担当	2024年9月5日	タイ国農業組合省	タイ国	11	次世代技術によるトマト栽培見学	実証ラボハウス、埼玉拠点の見学	農業技術研究センター 久喜試験場
鳥獣害防除担当	2024年10月1日	JA埼玉県中央会	さいたま市	11	新規職員研修	鳥獣害防除担当の活動内容と鳥獣害対策について	秩父農林振興センター 及び現地（秩父市荒川）
企画担当 高収益畑作担当 施設園芸先端技術担当	2024年10月17日	JA東京中央	杉並区	14	野菜関連試験の実施状況	青パパイヤ、トマトの試験実施状況	農業技術研究センター 畑作圃場、ハウス
果樹担当	2024年11月6日	JA金沢梨部会	石川県	8	「彩玉」の特性と普及状況について、花粉採取と受粉作業の省力化	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
次世代技術実証普及 担当	2024年11月12日	関東東海北陸農業試験研究推進会議	関東東海北陸	49	次世代技術によるトマト栽培見学	実証ラボハウス、埼玉拠点の見学	農業技術研究センター 久喜試験場
野菜育種担当	2024年11月26日	加須農林振興センター管内いちご生産者	加須市	15	県育成イチゴ品種の育成状況	県育成イチゴ品種の栽培管理方法、育種の現状、圃場見学	農業技術研究センター
果樹担当	2024年11月26日	船橋市果樹園芸組合	千葉県	20	花粉採取の効率化について	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
果樹担当	2024年11月27日	JA加賀梨部会	石川県	10	早期面積拡大技術、早期成園化技術	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
果樹担当	2024年12月5日	加須市園芸連梨部会	加須市	10	ナシ栽培全般について	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
野菜育種担当	2024年12月11日	JAちちぶいちご部会	秩父市	20	県育成イチゴ品種の栽培管理	埼玉園い1号、埼玉園い3号、彩6号の厳寒期における栽培、圃場見学	農業技術研究センター
果樹担当	2024年12月17日	JAセレサ川崎果樹部中部支部	神奈川県	10	樹体管理、果肉障害対策、「彩玉」について	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
果樹担当	2024年12月19日	栃木県那須農業振興事務所	栃木県	10	ナシの低樹高ジョイント栽培について	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
果樹担当	2025年1月22日	JAmみなみ信州まつかわ果樹部会梨専門部	長野県	20	ナシの花粉採取技術について	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場

担当名	視察日	視察した団体の情報			視察の目的	視察の内容	視察場所
		団体名	所在地 (市町村)	視察人数			
水田高度利用担当 水稲育種担当	2025年1月23日	御殿場市農業委員会	御殿場市	30	水稲育種と水田高度利用担当に関する研究・取組事例	育成品種の特性紹介、栽培管理技術、圃場見学	農業技術研究センター 玉井試験場
野菜育種担当	2025年1月29日	野菜ソムリエさいたまコミュニティ	さいたま市	15	イチゴの育種について	「あまりん」「かおりん」「べにたま」の育成経過及び今後の育種方向について 圃場見学	農業技術研究センター
農業革新支援担当 野菜育種担当	2025年1月31日	滋賀県		2	イチゴの育種について	県育成イチゴ品種の育成経過及び圃場見学	農業技術研究センター
野菜育種担当	2025年2月4日	京浜栃木青果物流通協議会果実部 (事務局：栃木県東京事務所)	千代田区	22	埼玉県が開発したイチゴ新品種について	県育成イチゴ品種の特徴、圃場見学	農業技術研究センター
次世代技術実証普及担当	2025年2月4日	北川辺トマト組合	加須市	6	次世代技術によるトマト栽培見学	実証ラボハウスの見学	農業技術研究センター 久喜試験場
次世代技術実証普及担当 果樹担当	2025年2月4日	春日部農業委員会	春日部市	9	トマト、ナシの新技术の見学	果樹圃、埼玉拠点の場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
果樹担当	2025年2月4日	(株)ファーマイント茨城農園	茨城県	4	ナシの花粉採取技術について	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
果樹担当	2025年2月5日	栃木県農士会果樹専門部	栃木県	15	ナシの花粉採取技術について	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
病虫害研究担当	2025年2月12日	井上用水堰土地改良区	福島県 いわき市	23	ネギ病害対策、栽培管理	ネギ病害（黒腐菌核病）対策、栽培管理、圃場見学	農業技術研究センター
果樹担当	2025年2月12日	富士見梨生産組合	富士見市	13	「彩玉」の整枝せん定、花芽整理、摘蕾について	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
企画、高収益畑作、施設園芸先端技術、野菜育種各担当	2025年3月13日	農業大学校短期野菜専攻学生	熊谷市	11	野菜関連試験の取組内容、所内見学	農技研の概要、高収益畑作圃場、施設園芸先端技術ハウス、野菜育種ハウス見学及び試験の概要	農業技術研究センター
病虫害研究担当 病虫害防除対策担当	2025年3月17日	伊奈町農業委員会	埼玉県 北足立郡 伊奈町	15	本年の農作物病虫害発生状況について	研修受講	農業技術研究センター
果樹担当	2025年2月12日	桶川市梨出荷組合	桶川市	9	ナシ栽培全般について	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
果樹担当	2025年2月26日	JAセレサ川崎果樹部稲田支部	神奈川県	14	ナシの花粉採取技術、果肉障害対策について	圃場見学	農業技術研究センター 久喜試験場
企画、病虫害研究、施設園芸先端技術、遺伝子情報活用各担当	2025年3月19日	鹿児島大学農学部	鹿児島県	1	病虫害研究、施設園芸先端技術、遺伝子情報活用の見学	実験棟、圃場、実験室の見学と担当による概要説明	農業技術研究センター

V 研究員の研修等

1 研究員の派遣研修

(1) 研究員の派遣研修

研修会等の名称	令和6年度農林水産関係研究リーダー研修
派遣先	農林水産省
受入制度	農林水産技術会議 農林水産研究における人材育成プログラム
派遣期間	2024年7月9, 10日
研究員の所属・氏名	副所長・小林努

研修会等の名称	令和6年度農林水産関係若手研究者研修
派遣先	農林水産省
受入制度	農林水産技術会議 農林水産研究における人材育成プログラム
派遣期間	2024年10月10, 11日
研究員の所属・氏名	病害虫研究担当・福勢かおる

研修会等の名称	農研機構 依頼研究員
派遣先	(国研)農研機構 野菜花き研究部門
受入制度	農研機構 依頼研究員受入制度
派遣期間	2025年1月6日～2025年2月28日
研究員の所属・氏名	野菜育種担当・道祖土博一

研修会等の名称	令和6年度農林水産関係中堅研究者研修
派遣先	農林水産省
受入制度	農林水産技術会議 農林水産研究における人材育成プログラム
派遣期間	2025年1月21, 22日
研究員の所属・氏名	養豚・養鶏担当・平野晃司

(2) 会議、研修会、講演会等への派遣

研修会等の名称	除草剤試験の実施に関わる研修会
派遣先	日本植物調節剤研究協会研究所
派遣期間	2024年4月16, 17日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・車田智哉

研修会等の名称	2024セントラルジャパンホルスタインショウ
派遣先	御殿場市馬術・スポーツセンター
派遣期間	2024年4月25～27日
研究員の所属・氏名	酪農担当・伊藤周平

研修会等の名称	宇都宮大学イチゴプロジェクト 第1回イチゴセミナー
派遣先	Web開催
派遣期間	2024年5月9日
研究員の所属・氏名	野菜育種担当・道祖土博一
研修会等の名称	F1種子イチゴセミナー（入門編）
派遣先	Web開催
派遣期間	2024年5月14日
研究員の所属・氏名	野菜育種担当・尾田秀樹
研修会等の名称	令和6年度全国麦類育成系統立毛検討会
派遣先	栃木県農業総合研究センター
派遣期間	2024年5月14, 15日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・荒川直也、山本彩乃
研修会等の名称	令和6年産農作物共済（麦）作柄巡回調査
派遣先	県内全域
派遣期間	2024年5月31日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・内藤健二
研修会等の名称	令和6年産農作物共済（スイートコーン）作柄巡回調査
派遣先	県北地域
派遣期間	2024年6月11日
研究員の所属・氏名	高収益畑作担当・石井博和
研修会等の名称	「戦略的スマート農業技術等の開発・改良」事業のうち「花粉採取と受粉作業の省力化を可能にするスマート農業技術の開発」現地検討会
派遣先	愛媛県農林水産研究所・果樹研究センター
派遣期間	2024年6月18～19日
研究員の所属・氏名	果樹担当・鈴木智砂
研修会等の名称	水稻除草剤試験中間現地検討会
派遣先	千葉県農林総合研究センター
派遣期間	2024年6月19, 20日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・山本彩乃
研修会等の名称	第45回関東しゃくなげ会研修会
派遣先	上野精養軒
派遣期間	2024年6月21日
研究員の所属・氏名	酪農担当・渡邊康平、成田将之

研修会等の名称	令和6年度家畜衛生講習会 豚疾病特殊講習会
派遣先	農研機構 動物衛生研究部門
派遣期間	2024年6月26日～7月5日
研究員の所属・氏名	養豚・養鶏担当・宮崎綾佳
研修会等の名称	令和6年度水稲高温対策技術研修会
派遣先	農業技術研究センター玉井試験場
派遣期間	2024年6月28日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・岩松七海、吉野早紀
研修会等の名称	令和6年産麦類種子検査見本品作成会、種子検査員研修会
派遣先	種苗センター
派遣期間	2024年7月5日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人、岩松七海
研修会等の名称	埼玉県粗飼料利用研究会講演会
派遣先	農林公園
派遣期間	2024年7月5日
研究員の所属・氏名	酪農担当・大澤玲、渡邊康平、成田将之
研修会等の名称	「戦略的スマート農業技術等の開発・改良」事業のうち「花粉採取と受粉作業の省力化を可能にするスマート農業技術の開発」令和6年度 第1回推進会議および現地検討会
派遣先	鳥取大学
派遣期間	2024年7月16～17日
研究員の所属・氏名	果樹担当・鈴木智砂、山口凌士、小玉太郎
研修会等の名称	GI基金事業農研機構担当課題推進検討会
派遣先	文部科学省研究交流センター
派遣期間	2024年7月18, 19日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・荒川直也
研修会等の名称	令和6年度水稲登熟不良被害対策会議
派遣先	NOSAI埼玉 北部統括支所
派遣期間	2024年7月19日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・内藤健二
研修会等の名称	埼玉県米麦改良協会常任幹事会
派遣先	農林会館
派遣期間	2024年7月23日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人

研修会等の名称	令和6年度耕地雑草の生態と防除技術に関する研修
派遣先	農研機構つくば研究拠点
派遣期間	2024年8月27, 28日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・山本彩乃
研修会等の名称	2024年度日本作物学会関東談話会現地検討会
派遣先	宇都宮市環境学習センター
派遣期間	2024年8月28日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・荒川直也、車田智哉 高収益畑作担当・印南ゆかり
研修会等の名称	令和6年度麦類種子需給調整会議
派遣先	種苗センター
派遣期間	2024年9月3日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人
研修会等の名称	哺乳類学会2024年度大会
派遣先	兵庫県立大学神戸商科キャンパス
派遣期間	2024年9月6～9日
研究員の所属・氏名	遺伝子情報活用担当・小山浩由
研修会等の名称	令和6年度関東東海北陸農業試験研究推進会議 関東東海北陸冬作物奨励 品種調整会議（小麦・大麦）
派遣先	Web開催
派遣期間	2024年9月11日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・荒川直也、山本彩乃
研修会等の名称	日本ダニ学会大会
派遣先	静岡県総合研修所もくせい会館
派遣期間	2024年9月17, 18日
研究員の所属・氏名	病害虫研究担当・福勢かおる
研修会等の名称	令和6年度奨励品種決定調査担当者会議
派遣先	Web開催
派遣期間	2024年9月17日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人、岩松七海、吉野早紀
研修会等の名称	令和6年産ビール大麦結果検討会
派遣先	全農埼玉県本部
派遣期間	2024年9月20日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人

研修会等の名称	農研機構農業機械研究部門との情報交換会
派遣先	研) 農業・食品産業技術総合研究機構 農業機械研究部門
派遣期間	2024年9月20日
研究員の所属・氏名	高収益畑作担当・石井博和、印南ゆかり、後藤一樹
研修会等の名称	ジャパンフラワー強化プロジェクト推進公開セミナー
派遣先	文部科学省研究交流センター
派遣期間	2024年9月25日
研究員の所属・氏名	施設園芸先端技術担当・本田春菜
研修会等の名称	令和6年度農地土壌炭素貯留等基礎調査・令和5年度国内資源の肥料利用拡大に向けた調査事業 土壌調査法検討会
派遣先	大分県農林水産研究指導センター、大分県庁正庁ホール
派遣期間	2024年9月26～27日
研究員の所属・氏名	環境安全担当・遠藤司
研修会等の名称	北関東における水稻の品種選定に係る情報交換会
派遣先	栃木県農業総合研究センター
派遣期間	2024年9月27日
研究員の所属・氏名	水稻育種担当・大岡直人、岩松七海、吉野早紀
研修会等の名称	令和6年度花き研究シンポジウム
派遣先	農研機構野菜花き研究部門
派遣期間	2024年10月8日
研究員の所属・氏名	施設園芸先端技術担当・本田春菜
研修会等の名称	食料安全保障強化に向けた革新的新品種開発プロジェクト」事業のうち「スマート技術向けの特性を持つ果樹品種の開発」令和6年度 推進会議および現地検討会
派遣先	神奈川県農業技術センター
派遣期間	2024年10月16～17日
研究員の所属・氏名	果樹担当・島田智人、鈴木智砂
研修会等の名称	果樹関係関東ブロック会議
派遣先	茨城県農業総合センター
派遣期間	2024年10月16～17日
研究員の所属・氏名	果樹担当・山口凌士、小玉太郎
研修会等の名称	アライグマ捕獲等従事者研修
派遣先	深谷市幡羅生涯学習センター
派遣期間	2024年10月18日
研究員の所属・氏名	酪農担当・成田将之

研修会等の名称	第37回関東東山花き研究会現地検討会
派遣先	農研機構野菜花き研究部門
派遣期間	2024年10月28, 29日
研究員の所属・氏名	施設園芸先端技術担当・本田春菜
研修会等の名称	施設園芸の脱炭素化に資するゼロエネルギーグリーンハウス（ZEG）の開発
派遣先	埼玉県農業技術研究センター
派遣期間	2024年10月29日
研究員の所属・氏名	施設園芸先端技術担当・清野英樹、中畝誠、柴田聖菜
研修会等の名称	令和6年度中央畜産技術研修会（養鶏）
派遣先	家畜改良センター本所
派遣期間	2024年10月29～11月1日
研究員の所属・氏名	養豚・養鶏担当・野本ちひろ
研修会等の名称	令和6年産水稻種子検査見本品作成会
派遣先	全国農業協同組合連合会埼玉県本部東部総合センター
派遣期間	2024年11月1日
研究員の所属・氏名	水稻育種担当・大岡直人、吉野早紀
研修会等の名称	園芸学会秋季大会
派遣先	琉球大学西原キャンパス
派遣期間	2024年11月2～4日
研究員の所属・氏名	果樹担当・島田智人、鈴木智砂、山口凌士、小玉太郎
研修会等の名称	水稻関係除草剤適2試験成績検討会
派遣先	Web開催
派遣期間	2024年11月6, 7日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・山本彩乃
研修会等の名称	令和6年度中央畜産技術研修会（畜産統計処理）
派遣先	家畜改良センター本所
派遣期間	2024年11月11～15日
研究員の所属・氏名	養豚・養鶏担当・宮崎綾佳
研修会等の名称	令和6年度 関東東海北陸農業試験研究推進会議 野菜部会現地研究会
派遣先	農業技術研究センター 久喜試験場
派遣期間	2024年11月12日
研究員の所属・氏名	高収益畑作担当・石井博和、印南ゆかり、後藤一樹 施設園芸先端技術担当・清野英樹、中畝誠、武藤拓哉、柴田聖菜

研修会等の名称	関東東海北陸病害虫研究会
派遣先	農研機構
派遣期間	2024年11月13日
研究員の所属・氏名	病害虫研究担当・小巻康平
研修会等の名称	令和6年度関東東海北陸農業試験研究推進会議 水田作畑作・作業技術部会、研究会
派遣先	Web開催
派遣期間	2024年11月20、21日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人、岩松七海、吉野早紀 水田高度利用担当・内藤健二、荒川直也、山本彩乃、車田智哉
研修会等の名称	令和6年度関東ブロック土壌保全対策技術研究会
派遣先	神奈川県農業技術センター三浦半島地区事務所
派遣期間	2024年11月21日
研究員の所属・氏名	環境安全担当・遠藤司
研修会等の名称	令和6年度 関東東海北陸農業試験研究推進会議野菜部会
派遣先	Web開催
派遣期間	2024年11月22日
研究員の所属・氏名	高収益畑作担当・石井博和、印南ゆかり、後藤一樹
研修会等の名称	埼玉県米麦改良協会常任幹事会
派遣先	農林会館
派遣期間	2024年11月26日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人
研修会等の名称	令和7年産国内農産物の銘柄設定等に係る意見聴取会
派遣先	さいたま新都心合同庁舎
派遣期間	2024年11月29日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人
研修会等の名称	令和6年度 関東東海北陸農業試験研究推進会議 花き部会
派遣先	横浜市開港記念会館
派遣期間	2024年11月29日
研究員の所属・氏名	施設園芸先端技術担当・本田春菜
研修会等の名称	GI基金事業農研機構担当課題推進検討会
派遣先	文部科学省研究交流センター
派遣期間	2024年12月3、4日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・荒川直也

研修会等の名称	令和6年度次世代育種技術による品種開発推進プラットフォーム総会および次世代品種開発セミナー
派遣先	Web開催
派遣期間	2024年12月5日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人
研修会等の名称	日本作物学会関東談話会第113回講演会
派遣先	宇都宮大学 峰キャンパス
派遣期間	2024年12月6日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・内藤健二、荒川直也、山本彩乃、車田智哉 高収益畑作担当・石井博和、印南ゆかり、後藤一樹
研修会等の名称	令和6年産米食味ランキング出品米選抜会
派遣先	埼玉県農林会館
派遣期間	2024年12月6日、12月23日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人
研修会等の名称	農業用ドローン操縦教習
派遣先	関東甲信クボタ 北関東事務所
派遣期間	2024年12月9～13日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・山本彩乃
研修会等の名称	スマートグリーンハウス人材育成研修(みどり戦略・植物工場・スマート農業の未来)
派遣先	Web開催
派遣期間	2024年12月10日
研究員の所属・氏名	次世代技術実証普及担当・川内亜紀
研修会等の名称	アグリテック先進事例視察(トマトチーム)
派遣先	岐阜県農業技術センター、岐阜県西濃農林事務所
派遣期間	2024年12月12, 13日
研究員の所属・氏名	施設園芸先端技術担当・柴田聖菜
研修会等の名称	施設園芸の脱炭素化に資するゼロエネルギーグリーンハウス(ZEG)の開発・実証 見学会・定例会議
派遣先	イオンアグリ創造株式会社 三重県いなべ農場
派遣期間	2024年12月16日
研究員の所属・氏名	施設園芸先端技術担当・中畝誠、武藤琢哉
研修会等の名称	令和6年度 農薬展示ほ成績検討会
派遣先	埼玉県農業共済会館
派遣期間	2024年12月19日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・内藤健二

研修会等の名称	令和6年度 埼玉県農業技術研究センター 委託試験検討会
派遣先	全国農業協同組合連合会 営農・技術センター
派遣期間	2024年12月20日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人、岩松七海、吉野早紀
研修会等の名称	フォークリフト技能講習会
派遣先	江南クレーン教習所
派遣期間	2024年1月7～10日
研究員の所属・氏名	高収益畑作担当・石井博和
研修会等の名称	令和6年度水稲種子需給調整会議
派遣先	全国農業協同組合連合会埼玉県本部東部総合センター
派遣期間	2025年1月10日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人
研修会等の名称	スマートグリーンハウス人材育成研修(光合成計測チャンバデータの活用)
派遣先	Web開催
派遣期間	2025年1月16日
研究員の所属・氏名	次世代技術実証普及担当・柏原脩人
研修会等の名称	令和6年産大豆種子検査見本品作成会
派遣先	全国農業協同組合連合会埼玉県本部東部総合センター
派遣期間	2025年1月21日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人
研修会等の名称	フォークリフト技能講習会
派遣先	江南クレーン教習所
派遣期間	2024年1月22～25日
研究員の所属・氏名	高収益畑作担当・後藤一樹
研修会等の名称	「戦略的スマート農業技術等の開発・改良」事業のうち「花粉採取と受粉作業の省力化を可能にするスマート農業技術の開発」令和6年度 第2回推進会議およびシンポジウム
派遣先	千葉県千葉市
派遣期間	2025年1月23～24日
研究員の所属・氏名	果樹担当・島田智人、鈴木智砂、山口凌士、小玉太郎
研修会等の名称	令和6年度「えみほころ」栽培展示ほ成績検討会
派遣先	Web開催
派遣期間	2025年1月27日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人、遠藤香織、岩松七海、吉野早紀

研修会等の名称	令和6年度奨励品種決定調査担当者会議
派遣先	Web開催
派遣期間	2025年1月27日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人、岩松七海、吉野早紀
研修会等の名称	フォークリフト講習会
派遣先	江南クレーン
派遣期間	2025年1月27～30日
研究員の所属・氏名	酪農担当・成田将之
研修会等の名称	高温条件に対応した水稲作Web会議
派遣先	Web開催
派遣期間	2025年1月29日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人、遠藤香織、岩松七海、吉野早紀
研修会等の名称	埼玉県種苗審議会
派遣先	埼玉教育会館
派遣期間	2025年2月4日
研究員の所属・氏名	所長・畑克利 水稲育種担当・大岡直人、岩松七海 水田高度利用担当・荒川直也、山本彩乃
研修会等の名称	令和6年度 作物試験研究推進会議 技術研究会 稲分科会
派遣先	筑波産学連携支援センター
派遣期間	2025年2月6～7日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人、岩松七海、吉野早紀
研修会等の名称	令和6年度落葉果樹研究会・系統適応性検定試験検討会
派遣先	つくば国際会議場
派遣期間	2025年2月6～7日
研究員の所属・氏名	果樹担当・島田智人、鈴木智砂、山口凌士、小玉太郎
研修会等の名称	令和6年度「未来の職業人材育成事業」成果発表会
派遣先	さいたま市文化センター
派遣期間	2025年2月7日
研究員の所属・氏名	養豚・養鶏担当・平野晃司、野本ちひろ
研修会等の名称	スマートグリーンハウス人材育成研修(Aコース・Bコース)
派遣先	Web開催
派遣期間	2025年2月18、20日
研究員の所属・氏名	次世代技術実証普及担当・柏原脩人

研修会等の名称	令和6年度 関東東海北陸農業試験研究推進会議 関東東海北陸地域夏作物 奨励品種調整会議(水稲)
派遣先	Web開催
派遣期間	2025年2月28日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人、岩松七海
研修会等の名称	埼玉県粗飼料利用研究会現地検討会講演会
派遣先	農林公園
派遣期間	2025年2月28日
研究員の所属・氏名	酪農担当・大澤玲、渡邊康平、成田将之
研修会等の名称	令和6年産米食味ランキング向上対策事業フィードバック会議
派遣先	Web開催
派遣期間	2025年3月3日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人 水田高度利用担当・内藤健二
研修会等の名称	関東東山病害虫研究会
派遣先	JAアクティールホール(長野市)
派遣期間	2025年3月4日
研究員の所属・氏名	病害虫研究担当・宇賀博之、岩瀬亮三郎、浅野亘、小巻康平
研修会等の名称	産業動物学術ハイブリットセミナー抗菌薬に依存しない乳房炎制御
派遣先	AP東京八重洲Wルーム
派遣期間	2025年3月10日
研究員の所属・氏名	酪農担当・大澤玲
研修会等の名称	東海花きセミナー
派遣先	名古屋能楽堂
派遣期間	2025年3月10日
研究員の所属・氏名	施設園芸先端技術担当・本田春菜
研修会等の名称	関東地域麦新品種等品質評価協議会 小麦研究会、大麦研究会
派遣先	関東農政局
派遣期間	2025年3月12日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・荒川直也、山本彩乃
研修会等の名称	アグリステーション誠和視察
派遣先	アグリステーション誠和
派遣期間	2025年3月12日
研究員の所属・氏名	次世代技術実証普及担当・川島裕之

研修会等の名称	水稲関係除草剤適2試験設計会議
派遣先	Web開催
派遣期間	2025年3月14日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・山本彩乃
研修会等の名称	元気な野菜産地づくり推進セミナー
派遣先	財) 埼玉県県民健康センター
派遣期間	2024年3月17日
研究員の所属・氏名	高収益畑作担当・石井博和、後藤一樹
研修会等の名称	施設園芸の脱炭素化に資するゼロエネルギーグリーンハウス (ZEG) の開発・実証 年度末検討会
派遣先	スマートレンタルスペース半蔵門麴町
派遣期間	2025年3月17日
研究員の所属・氏名	施設園芸先端技術担当・清野英樹、中畝誠
研修会等の名称	北関東における水稲の品種選定に係る情報交換会
派遣先	栃木県農業総合研究センター
派遣期間	2025年3月18日
研究員の所属・氏名	水稲育種担当・大岡直人、岩松七海、吉野早紀
研修会等の名称	園芸学会春季大会
派遣先	日本大学生物資源科学部 (湘南キャンパス)
派遣期間	2025年3月20, 21日
研究員の所属・氏名	施設園芸先端技術担当・本田春菜 果樹担当・島田智人、鈴木智砂、山口凌士、小玉太郎
研修会等の名称	第487回月例研究会スマート技術を適用したTMRセンターにおける飼料生産・調製
派遣先	Web開催
派遣期間	2025年3月21日
研究員の所属・氏名	酪農担当・大澤玲
研修会等の名称	第69回日本応用動物昆虫学会大会
派遣先	幕張メッセ国際会議場
派遣期間	2025年3月21日、22日
研究員の所属・氏名	病害虫研究担当・岩瀬亮三郎、浅野亘 水田高度利用担当・車田智哉

研修会等の名称	日本作物学会第259回講演会
派遣先	日本大学
派遣期間	2025年3月28, 29日
研究員の所属・氏名	水田高度利用担当・荒川直也、山本彩乃、車田智哉 水稲育種担当・吉野早紀

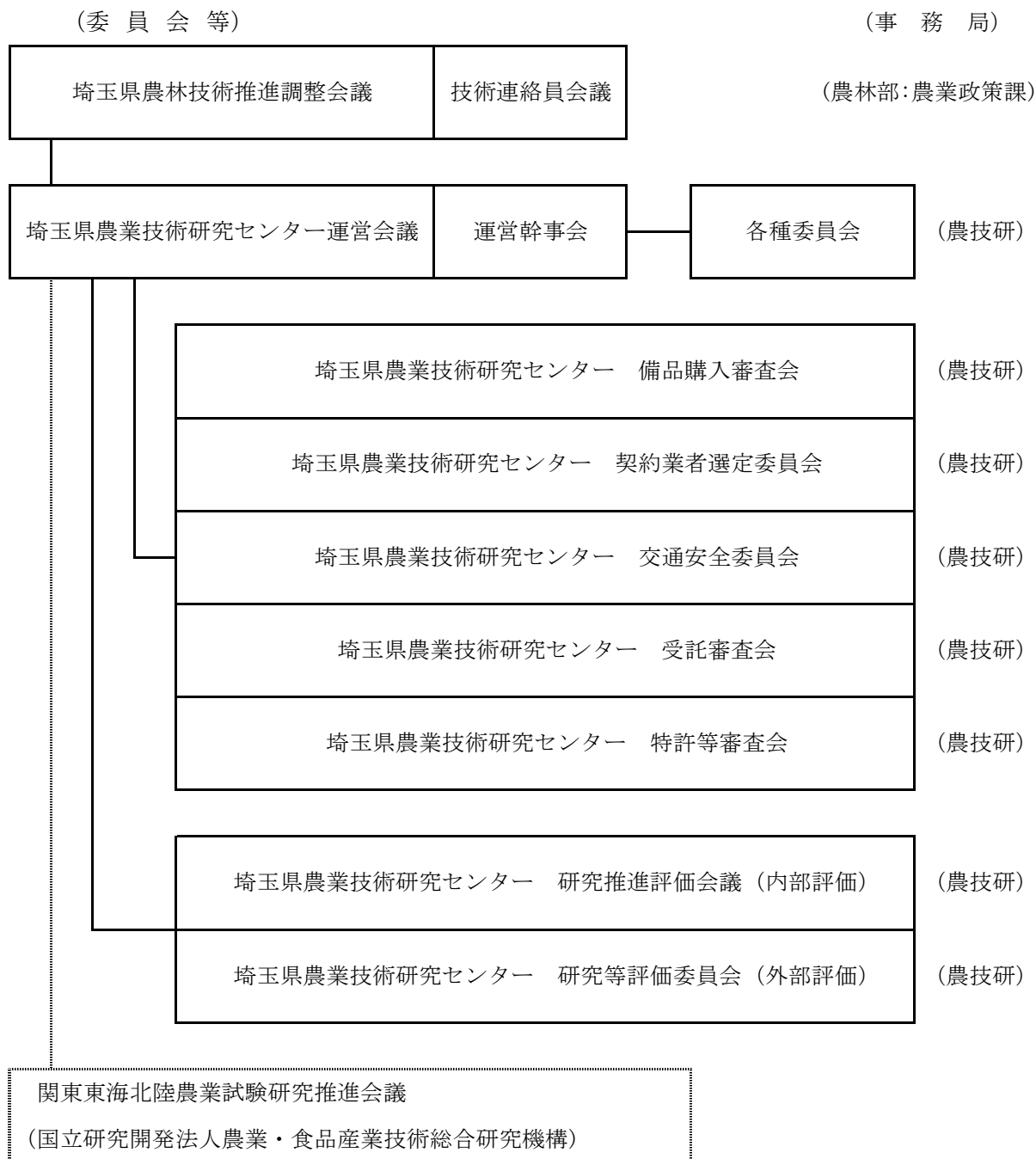
2 客員研究員招へいによる研修会の開催

なし

VI 運営会議・委員会等

1 委員会の開催等

(1) 委員会の構成



(2) 会議の開催等

ア 管理・運営に関する会議

会議の種類	会議開催日	備考
運営会議	2024年4月から	毎月一回開催
運営幹事会	-	開催なし

イ 研究評価に関する会議

会議の種類	会議開催日	内容
研究等評価委員会	2024年8月1日	事後評価
	2024年9月30日	事前評価
研究推進評価会議	2024年8月7日	追跡評価
	2024年9月5, 6日	事前評価
	2024年8月7, 19日, 2025年2月27日, 3月4, 6日	中間評価
	2024年8月3日, 2025年3月11日	事後評価
	2025年3月13日	年度評価

2 研究等評価委員会

研究等評価委員会 9名

(敬称略)

専門分野	氏名	所属等
作物全般	平澤 正	東京農工大学 名誉教授
園芸	岡田 邦彦	元 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門 所長
畜産	前田 友香	日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 動物科学科 助教
病虫害	高橋 賢司	元 一般社団法人 日本植物防疫協会 技術顧問
食品	青柳 康夫	女子栄養大学 名誉教授
土壌肥料	相崎 万裕美	公益財団法人 肥料科学研究所 理事
農業政策・普及	山永 高男	元 埼玉県農林部副部長 (全国農業協同組合連合会 埼玉県本部 管理部 企画管理課 技術参与)
経営	佐藤 真紀	中小企業診断士
流通・販売	西村 依子	コープデリ生活協同組合連合会 宅配第一商品部 生鮮グループ バイヤー

VII 農業革新支援担当

1 活動方針・活動内容・体制

(1) 活動方針

「埼玉県5か年計画」及び「埼玉県農林水産業振興基本計画」の実現を図るため、関係機関との緊密な連携による専門性の高度化や政策課題への対応、先進的な農業者等への技術・経営支援及び広域的な普及活動を推進する。

(2) 活動内容

農業革新支援担当は、分担する専門分野を中心に次の活動を行い、効果的・効率的な普及活動を推進する。

ア 試験研究・教育・行政機関等との連携及び新たな技術の現地実証・普及に関すること

イ 広域的な普及活動に関する企画・調整支援に関すること

- ・普及活動計画の連携・支援
- ・調査研究・政策提言
- ・農業情報の発信
- ・関係各課・関係団体との連携調整

ウ 農林振興センターの普及活動支援に関すること

エ 先進的な農業者等からの高度かつ専門的な技術・経営相談に関すること

オ 普及指導員の育成に係る研修の企画・実施に関すること

(3) 活動体制

[担当する分野]

分 野	担当人数
作 物	2
野 菜	3
果 樹	2
花植木	2
畜 産	2
茶	3 茶業研究所兼務
6次産業化 (農産物活用)	2 農業ビジネス支援課兼務
経 営	1
計	17

[兼務する分野]

分 野	担当人数	分 野	担当人数
担い手育成	1	普及指導活動	1
自然災害対策	1	鳥獣害	1
病害虫 (総合防除)	2	土壌肥料	1
GAP	1	農作業安全	1
スマート農業	1	知的財産	1

(4) 農林振興センターの普及指導活動の支援

農林名	分野	内容
全域	作物	水稲及び麦類の生育概況と栽培管理情報提供 水稲及び麦の奨励品種決定ほ運営支援 小麦の品質向上対策の支援 難防除雑草の防除対策支援（ナガエツルノゲイトウ・雑草イネ等）
	野菜	新技術・新品種の導入による野菜経営の発展支援 （1）総合防除技術導入による化学農薬の削減支援 （2）県育成いちご品種の栽培技術向上支援
		施設野菜の環境制御技術導入による生産性向上
	果樹	果樹全般の栽培管理、防除指導の支援 新規就農者育成の支援 早期成園化技術導入者の栽培管理支援 なし花粉採取技術の支援
	花植木	花植木全般の栽培管理、指導支援 広域団体(シラカン、バウ、洋ラン)の活動情報の共有化
	経営	経営分析、経営診断、農業簿記記帳の支援
さいたま	野菜	にんにく病虫害対策支援
	果樹	なし白紋羽病対策推進 なし主幹病害対策推進
川越	果樹	なし早期成園化技術導入者の栽培管理支援 なし新品種導入支援 ぶどう栽培技術支援 なし土壌分析指導
	茶	茶園管理及び加工技術支援
東松山	作物	大豆栽培における高速畦立て播種機を活用した湿害対策の実証 「えみほころ」栽培支援
	果樹	山椒のせん定技術支援 かき、くりの接木技術支援
秩父	作物	「えみほころ」栽培支援
	畜産	牧草の硝酸態窒素低減支援 飼料イネ収穫調製支援
	茶	茶園管理及び加工技術支援
本庄	果樹	なし新品種導入支援 なし主幹病害対策推進 ぶどう栽培技術支援
	畜産	牧草の硝酸態窒素低減支援 飼料イネ収穫調製支援
大里	作物	「えみほころ」栽培支援
	野菜	ねぎ暑熱対策技術の実証支援

	果樹	なし早期成園化技術導入者の栽培管理支援 くりの栽培技術支援 果樹新規導入支援
	畜産	飼料イネの収穫調査支援 青刈りとうもろこしの収穫調査支援
	経営	寄居町花植木出荷部会 経営相談会支援 榛沢地区野菜経営の担い手育成に関する支援 法人経営での大規模設備導入に関する相談
加須	作物	「えみほころ」栽培支援 イネカメムシ防除支援
	果樹	なし新品種導入支援 なし「甘太」栽培管理指導
	経営	花き生産法人経営支援
春日部	作物	イネカメムシ防除支援
	果樹	なし早期成園化技術導入者の栽培管理支援 なし及びキウイフルーツの白紋羽病対策推進 なし「甘太」の栽培技術支援 なし新品種導入支援
	畜産	子実とうもろこしの栽培支援

2 活動実績

(1) 重点プロジェクト計画

No	課題名	対象※ 地域	活動 期間	目 標	
				項 目	令和6年度の成果
1	主穀作における気候変動に対応した栽培技術の確立支援	東松山 大里 加須 春日部	R 3 ～R 7	「えみほころ」の評価（外觀品質）	500kg/10 a 整粒粒比:63% (令和6年調査ほ平均)
				大豆極晩播適応技術の現地定着向けマニュアルの作成	収量121% (鳩山 140%) (花園 129%)
2	新技術・新品種の導入による施設野菜経営の発展支援	全域	R 5 ～R 7	化学農薬削減のための新たな防除技術実施面積	61.7ha
				「べにたま」栽培面積	4.7ha
3	改植・新植と優良品種導入によるなし生産基盤の強化	さいたま 川越 東松山 本庄 加須 春日部	R 5 ～R 7	改植・新植面積	34.1ha
				優良品種の導入面積	21.9ha
4	気象変動等に対応した花きの生産新技術の実証普及	全域	R 5 ～R 7	新規品質改善取組み生産者	139戸（13戸増）
5	新たな取組みによる飼料生産の拡大	川越 東松山 秩父 本庄 大里 加須	R 5 ～R 7	高糖分イネ作付面積	44ha
				子実とうもろこし拡大面積	19ha
6	経営ビジョン策定とネットワーク構築による経営強化と収益力向上	全域	R 6 ～R 7	新たに農業の6次産業化により開発された商品数	836品目 (51品目増)
7	農業経営法人化の推進	全域	R 3 ～R 7	農業法人数	1,441法人（+60法人）
8	狭山茶DX推進研究事業の現地活用支援	川越 秩父	R 6 ～R 8	LINEアプリ利用生産者数	130人

(2) 現地実証

No	課題名	分野	実施地区※	内容
1	リモセンによる「彩のきずな」の追肥判断	作物	川越、東松山、秩父、大里農林管内	リモートセンシングを用いた「彩のきずな」の追肥判断目安を検討した。
2	大豆栽培における高速畦立て播種機を活用した湿害対策の実証	作物	東松山農林管内(鳩山町)	排水対策の徹底と耕起及び播種様式の違いによる湿害対策を実証し、当地域に適した安定栽培技術の提案と定着化を図った。
3	いちごにおけるセル成型苗の直接定植法の評価	野菜	東松山管内	土耕栽培のいちごにおいて、セル成型苗を直接定植した場合の生育等を調査し、今後の指導方針作成のための参考値を得て、実用性の有無を確認した。
4	なし白紋羽病の発病抑制対策	果樹	さいたま春日部管内	なしの休眠期における複数の殺菌剤処理に加え、その後の定期的な微生物資材の処理が、白紋羽病の発病抑制に有効であることを確認するため、現地試験に取り組んだ。
5	バラ栽培における高温期の品質向上対策の実証	花植木	東松山管内ほか	自作により低コストで導入可能な簡易ミスト装置と循環扇、遮光資材を組み合わせることで温度低下効果及びバラの生育に与える影響について実証を行った。
6	茶のIPM技術体系の見直し	茶	川越管内	茶の総合防除技術の要素技術について改良・再検討が必要な部分について見直しを行った。
7	輸出に向けた活動支援	茶	川越管内	埼玉県茶業協会内の狭山茶輸出促進協議会生産部会(以下、生産部会)の活動およびNPO法人埼玉農業おうえんし隊の狭山茶Single Origin Tea普及促進協議会による狭山茶の海外輸出の取組を主に支援した。
8	クワシロカイガラムシの防除支援	茶	川越管内	茶株内の温度測定値から有効積算温度を計算して、クワシロカイガラムシ(以下、クワシロ)の防除適期であるふ化幼虫期を予測し、生産者に情報提供することで、より効果的な難防除害虫の対策を講ずることができるように支援した。
9	GAPを活用した狭山茶の安定生産	茶	川越管内	S-GAPの考え方について講義を行い、S-GAPの農場評価の実習を行った。
10	経営研修の意識調査	経営	全域	令和5年度から農業経営の研修を新任後3年間実施する。受講者に経営指導に関するアンケートを行い、新任普及職員の意識を把握し研修の効果を高めるための資料とした。
11	コロナ対策としての緑茶・茶園利用の検討	茶	川越	茶摘み体験フェスタの参加者や県職員対象の研修参加者にアンケート調査を実施し、コロナ前の結果と茶園や茶摘み体験の印象についての比較を行い、今後の茶摘み体験の意義を検討した。 また、健康機能に富む緑茶の新型コロナウイルスとの関連について研究情報をインターネット等から情報収集を行った。
12	中山間茶園の土壌改良の実施	茶	秩父	土壌中の環境を改善する効果があるとされる植物活性剤(微生物製剤)の試験依頼があったため、その効果を検証するため、基本データの収集及び本資材の散布を実施した。

(3) 現地調査

No	課題名	分野	実施地区※	内容
1	イネカメムシの発生消長確認	作物	羽生市、幸手市	昨年度から水稲への被害が著しい2地区においてイネカメムシの発生消長を関係農林と連携し確認した。
2	ナガエツルノゲイトウの発生状況調査	作物	坂戸市、毛呂山町、川島町	特定外来生物として侵入が警戒されている「ナガエツルノゲイトウ」の生育地域を確認し、農耕地への侵入リスクに備える。
3	にんにく安定生産技術の開発に向けた病害虫発生実態調査	野菜	さいたま、秩父管内	にんにく生産地に対し効果的な病害虫対策を提示するため、県内生産地で発生している病害虫とその被害程度を地域ごとに調査した。
4	あまりん・べにたま苗のヨコバイ被害調査	野菜	加須管内	ヨコバイ類の発生状況を把握するとともに、いちご苗の障害の有無及び品種間差を明らかにする。
5	ねぎのマルチ栽培が害虫被害に及ぼす影響調査	野菜	深谷市	秋冬ねぎにおける、マルチの展張のハモグリバエ、アザミウマの被害抑制効果を明らかにするため、展張時のねぎの被害程度について調査した
6	環境制御技術導入きゅうり生産者への支援	野菜	秩父、本庄、大里、加須管内	環境制御技術を導入している生産者への聞き取り調査と情報交換の支援を行った。
7	なし園における硝酸態窒素の変動調査の検討	果樹	久喜市	幸水の発芽不良対策として土壌中の硝酸態窒素については、動向が明らかになっていないため、定期的に土壌分析を行った。
8	ハナモモ産地維持に向けた課題の抽出	花植木	秩父・東松山管内	ハナモモ産地の経営状況について聞き取り調査等を行い、今後の産地維持のための課題を抽出した。
9	青刈りとうもろこし二期作の実証	畜産	大里管内	荒川河川敷の堤内圃場において、青刈りとうもろこし二期作の生産状況について調査した。
10	荒川河川敷他におけるシカの防除対策の支援	鳥獣害	上尾市 川越市 川島町他	荒川及び周辺河川域におけるシカの行動習性および生息状況の調査を行い、侵入防止柵を効果的に用いた捕獲方法を実証した。
11	農業経営法人における多様な経営改善指導の手法	経営	全域	農業経営法人化推進事業を活用し農業経営者がどのように課題を解決し、法人化を果たしているかを調査し、今後の事業活用のための資料とする。
12	気象概況から予測した茶の生育・製茶・品質の検証	茶	全域	令和6年度狭山茶ブランド確立推進事業選定会において、外観によりAからIランクの9段階に品質評価された出品茶189点について、各10グラム程度を無造作に採取し、茶成分分析計を用いて化学成分の分析を行った。

※実施地区は農林振興センターの単位

(4) 普及指導員に対する研修指導

ア 集合研修

専門 研修	スマート農業Ⅰ 2年目	目的：ICT、AI等のスマート農業技術に関する基礎知識の習得を目指す。	1日 (14人)	講義 (リモート)
	農作業安全 2年目	目的：農業用機械、農作業安全に関する基礎知識の習得を図る。	2日 (14人)	講義・実習 農技研(玉井)
	農業経営 1年目	目的：生産費による経営支援ができる。	1日 (15人)	講義 浦和合同庁舎
	農業経営 2年目	目的：簿記に基づく経営支援ができる。	1日 (29人)	講義 浦和合同庁舎
	農業経営 3年目	目的：農業経営に関する普及活動ができる。	1日 (11人)	講義・演習 浦和合同庁舎
	情報発信 3年目	目的：普及活動における情報発信能力の向上を図る。	1日 (20人)	講義・実習 農業大学校
	鳥獣害防止 3年目	目的：埼玉県の鳥獣被害の現状を知るとともに被害防止に向けた指導能力向上を図る。	1日 (11人)	講義・現地視察 秩父農林振興センター 現地
技術 高度 化 研修	トレーナー研修	目的：新任普及職員のOJT実行上の課題・留意点を習得する。	1日 (7人)	講義・演習 農技研(本所)
	環境負荷低減	目的：環境負荷に配慮した栽培に関わる指導力の向上を図る。	2日 (9人)	講義・現地研修等 農技研(本所)、 現地圃場
	スマート農業Ⅱ	目的：リモートセンシング手法等を習得する。	1日 (10人)	講義・演習 農技研(本所)ほか
	農業経営法人化	目的：法人化支援に関わる指導能力向上を図る。	1日 (11人)	講義・討議 浦和合同庁舎
	6次産業化	目的：6次産業化に関わる指導能力の向上を図る。	2日 (10人)	講義・現地視察 知事公館大会議室
緊急 技術 習得 研修	① 農産物活用	目的：緊急的に専門項目等の技術向上が必要な職員に対して、当面する課題解決のための指導能力向上を図る。	2日 (9人)	講義・現地研修
	緊急技術習得研修 ②施設園芸先端技術	目的：施設園芸における人工光源を利用した生産に関わる技術の習得を図る。	1日 (13人)	講義・現地視察 深谷市 農技研(本所)
	緊急技術習得研修 ③アンケート調査分析	目的：機械では測定の難しい評価を行うためのアンケートの手法と取りまとめ分析方法について学ぶ。	1日 (11人)	講義・実習 茶業研修所
	緊急技術習得研修 ④その他	目的：緊急的に専門項目等の技術向上が必要な職員に対して、当面する課題解決のための指導能力向上を図る。	作物 6回 (1人) 花植木6回 (1人)	講義・実習 現地視察等 農技研) 関係農林振興センター等
	普及指導員養成研修	目的：普及指導員に求められる普及指導方法及び専門知識を習得する。	3回 (17人)	講義・演習 農技研(本所)

イ 国等への派遣研修

研 修 名	受講者数	日 数	実施機関・実施場所
普及指導員養成研修Ⅰ (新人コース)	4人	3日間	農林水産研修所つくば館 ・W e b 開催
普及指導員養成研修Ⅱ (転属者等コース)	9人	3日間	
新任普及指導員研修Ⅰ (普及活動経験者コース)	10人	3日間	
新任普及指導員研修Ⅱ (普及活動未経験者コース)	3人	3日間	
普及指導員実務能力習得研修Ⅱ (課題発見力向上コース)	2人	2日間	
普及指導員実務能力習得研修Ⅲ (マネジメント・人材育成コース)	2人	2日間	
新任農業革新支援専門員研修	4人	2～3日間	
新任普及指導センター所長研修	3人	2～3日間	
人材育成担当者研修	1人	3日間	
スマート農業研修Ⅰ(土地利用型)	3人	2日間	
スマート農業研修Ⅱ(果樹)	2人	2日間	
スマート農業研修Ⅲ(野菜)	4人	2日間	
みどりの食料システム戦略担当者研修	3人	2日間	
みどりの食料システム戦略研修Ⅰ(有機農業)	9人	2日間	
みどりの食料システム戦略研修Ⅱ (野菜における総合防除)	8人	2日間	
みどりの食料システム戦略研修Ⅲ (土づくり・化学肥料低減)	5人	2日間	
国際水準G A P 推進研修	3人	2日間	
畜産G A P 推進研修	1人	2日間	
農村地域マネジメント(中山間・鳥獣被害対策) 支援研修	2人	3日間	
担い手経営力向上・新規就農支援研修	8人	3日間	
農山漁村発イノベーション研修	1人	3日間	
農産物輸出促進・知的財産研修	1人	3日間	
農業経営アドバイザー研修	4人	1日間	日本政策金融公庫・農技研
青年・中堅改良普及職員研修	9人	1日間	関東ブロック・熊谷市
現地活動調査研究会 関東甲信静ブロック現地活動調査研究会	2人	1日間	関東ブロック・山梨市
ブロック提案型研修	7人	1日間	関東ブロック・W e b 開催

(5) 専門項目別技術連携会議の開催

ア 作物

(1回目)

テーマ	令和6年度の各機関の推進計画に関する情報交換
開催期日	令和6年5月30日
開催場所	オンライン会議
出席者	農林振興センター農業支援部、生産振興課、農産物安全課、農業支援課職員、農技研
関係機関	無し
<p>会議内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度各機関の計画について ・情報交換 <p>「イネカメムシの対策について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 「埼玉県におけるイネカメムシの発生状況と近年の知見について」 イ 県内の発生状況 ウ 令和6年度の取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> ・農産物安全課の取り組み ・農技研の「イネカメムシの総合防除対策」について ・水稻生育診断ほでのすくい取り調査について 	

(2回目)

テーマ	「イネカメムシ」「ナガエツルノゲイトウ」「7年産水稻に向けた情報交換」
開催期日	令和7年2月28日
開催場所	オンライン会議
出席者	農林振興センター農業支援部、生産振興課、農産物安全課、農業支援課、農技研
<p>会議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イネカメムシについて <ul style="list-style-type: none"> ア 令和6年度現地支援・緊急対応のための調査研究について イ 各農林のイネカメムシに関する取り組みについて ウ 「農林振興センターで実施した各種実証ほ・経営体の聞き取り調査結果」について エ 令和7年度の取組計画について オ 意見交換 2 ナガエツルノゲイトウについて <ul style="list-style-type: none"> ア ナガエツルノゲイトウの防除について イ 現地における取り組みについて ウ 蔓延防止対策の情報提供 エ 意見交換 3 7年産水稻に向けた情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ア 高温化に伴う病害対策 <ul style="list-style-type: none"> 紋枯病、もみ枯細菌病等の情報提供 イ 暫定版「えみほころ栽培暦」の情報提供 ウ 省力低コスト技術普及活動事業 エ 育成中の系統に関する情報提供 	

イ 野菜

(1回目)

テーマ	令和6年度の普及活動計画支援のための情報共有
開催期日	令和6年5月30日
開催場所	農業技術研究センター第1会議室並びWeb開催
出席者	各農林振興センター農業支援部技術普及担当（野菜総括担当者）、農業ビジネス支援課（販売対策担当）、農業支援課（普及活動担当）、生産振興課（総務・野菜担当）、農技研
会議内容	<p>1 令和6年度農業支援部の普及活動計画（野菜関係）について</p> <p>2 令和6年度農業革新支援担当重点プロジェクト活動計画（野菜関係）について</p> <p>3 試験研究担当からの情報提供</p> <p>4 野菜関係事業等からの情報提供</p>

(2回目)

テーマ	令和6年度の地域・産地の動き及び主要野菜品目等の情報共有
開催期日	令和7年2月20日
開催場所	農業技術研究センター第1会議室並びWeb開催
出席者	各農林振興センター農業支援部技術普及担当（野菜総括担当者）、農業ビジネス支援課（販売対策担当）、農業支援課（普及活動担当）、生産振興課（総務・野菜担当）、農技研
会議内容	<p>1 各地域・産地等の動きについて</p> <p>2 野菜主要品目の生産概要調査について</p> <p>3 施設野菜におけるIPMの取組について</p> <p>4 試験研究担当からの情報提供</p> <p>5 野菜関係事業等からの情報提供</p>

ウ 果樹

(1回目)

テーマ	主要果樹の生育状況、なし花粉の確保対策技術、シャインマスカット未開花症、幸水の発芽不良について
開催期日	令和6年7月4日
開催場所	農業技術研究センター久喜試験場
出席者	各農業支援部果樹担当者、農業支援課、生産振興課、農技研
関係機関	なし
会議内容	<p>1 主要果樹の生育状況について</p> <p>2 各農林振興センター管内の果樹の生育状況について</p> <p>3 なし花粉の確保対策について</p> <p>4 「シャインマスカット」未開花症の発生状況調査について</p> <p>5 幸水の発芽不良の発生調査について</p> <p>6 情報提供</p>

(2回目)

テーマ	主要果樹の生育状況、病虫害発生状況と防除対策、果樹振興事業推進について
開催期日	令和6年12月23日
開催場所	農業技術研究センター久喜試験場
出席者	各農業支援部果樹担当者、農業支援課、生産振興課、農技研
関係機関	全国農業協同組合連合会埼玉県本部
<p>会議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 今年度の主要果樹の生育状況について 2 なし、ぶどうで問題となった病虫害とその対応策について 3 令和7年産のなし、ぶどうの病虫害防除暦について 4 情報提供 	

エ 花植木

(1回目)

テーマ	試験研究機関、関係団体等との連携により、花植木の生産流通、販売動向について情報交換し、今後の花きの生産振興及び普及活動の充実を図る。
開催期日	令和6年6月18日
開催場所	農業技術研究センター本所 第1会議室
出席者	各農林振興センター農業支援部技術普及担当(花植木総括者)、他関係機関
関係機関	農業支援課、生産振興課、花と緑の振興センター、農業大学校、JA全農さいたま花植木事務所、農技研
<p>会議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各農林振興センターから令和6年度活動計画、現地情報について 2 令和6年度農業革新支援担当の重点プロジェクト課題について 3 令和5年度のJA全農さいたま取扱品目における販売状況について 4 関係機関からの関連情報の提供 	

(2回目)

テーマ	試験研究機関、関係団体等との連携により花植木の生産流通、販売動向について情報交換し今後の花きの生産振興及び普及活動の充実を図る。高温対策技術、病虫害の発生・対策等の情報共有により課題解決へのヒントとする。
開催期日	令和7年2月13日(木)
開催場所	農業技術研究センター本所 展示資料館1階会議室
出席者	各農林振興センター農業支援部技術普及担当(花植木総括者)、他関係機関
関係機関	農業支援課、生産振興課、花と緑の振興センター、JA全農さいたま花植木事務所、農技研
<p>会議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各農林振興センターにおける花植木産地の作柄状況や動向及び花植木関連の普及活動計画・調査研究について 2 農業革新支援担当の重点プロジェクト課題について 3 令和6年JA全農さいたま取扱品目における販売状況について 4 関係機関からの情報提供 	

(6) 気象災害等の技術対策

ア 気象災害対策資料

作成配布日	内容
令和6年4月3日	低温・降霜に伴う技術対策について
令和6年7月23日	高温に対する農作物等管理技術対策について
令和6年8月9日	台風第5号に対する農作物等管理技術対策について
令和6年8月14日	台風第7号に対する農作物等管理技術対策について
令和6年8月23日	台風第10号に対する農作物等管理技術対策について
令和7年1月31日	降雪に対する農作物・農業用生産施設の技術対策について
令和7年3月3日	降雪に対する農作物・農業用生産施設の技術対策について

イ 技術対策資料

項目	作成配布日	内容
作物	令和6年5月10日	麦赤かび病情報～赤かび病の多発生が懸念されます～
	令和6年5月14日	令和6年産水稻の高温対策のポイント
	令和6年6月6日	同上
	令和6年6月27日	同上
	令和6年7月16日	同上
	令和6年8月2日	同上
	令和6年8月28日	水稻の刈遅れに注意してください

(7) その他

ア 情報紙等への原稿執筆状況

(作物関係)

情報紙等名	執筆内容	依頼元	執筆者
日本農業新聞	今月の水稻管理 (4～9月)	埼玉県農業協同組合中央会	村田大樹
日本農業新聞	今月の麦管理 (10～3月)	埼玉県農業協同組合中央会	村田大樹
雑草と作物の制御 第20号	埼玉県におけるナガエツルノゲイトウの発生状況と対応について	日本植物調節剤研究協会 関東支部	山本和雄
雑草と作物の制御 第20号	2024年度埼玉県における水田除草剤の使用面積	日本植物調節剤研究協会 関東支部	山本和雄

(果樹関係)

情報紙等名	執筆内容	依頼元	執筆者
農業技術大系 果樹編	ウメ 基礎編 品種生態と栽培 III各品種の栽培特性 30. 越生べに梅 (おごせべにうめ)	農山漁村文化協会	金井小貴子

イ 講演・助言・コーディネート活動状況
(作物関係)

企画・研修等名称	期 日	場 所
埼玉県農業機械化協会理事会	5月29日	職員会館
埼玉県米麦改良協会常任幹事会	5月31日	さいたま教育会館
埼玉県農業機械化協会総会	7月10日	キングアンバサダーホテル熊谷
埼玉県米麦改良協会常任幹事会	7月23日	農林会館
埼玉県農業機械化経営者協議会総会	7月31日	種苗センター
羽生市えみほころ現地検討会	8月19日	羽生市内の水田
東松山農林えみほころ栽培講習会	8月20日	JA埼玉中央
支援課主催スマート農業オンラインセミナー	1月20日	Web (埼玉会館から)
埼玉葛北部主穀作経営者協議会	1月22日	久喜市総合支所
埼玉県農業機械化経営者協議会研修会	2月5日	県民活動総合センター
JAほくさいイネカメムシ研修会	3月11日	JAほくさい本店

(野菜関係)

企画・研修等名称	期 日	場 所
JAほくさい北川辺いちご部 現地検討会	5月13日	加須市北川辺べにたま栽培ハウス (2か所)
第4回次世代型トマト栽培セミナー	6月19日	大寄公民館
JAほくさい北川辺いちご部 親株現地検討会	6月21日	加須市北川辺育苗ハウス (8か所)
埼玉県さといも協議会幹事会	6月21日	農林会館
第1回「べにたま」栽培講習会	6月22日	大里農林振興センター
埼玉県野菜園芸技術研究会役員事務局 合同会議	6月25日	種苗センター
埼玉いちご連合会 出荷反省会	7月8日	種苗センター
研修会「きゅうり栽培の理論」	7月24日	農業技術研究センター (オンライン)
ねぎ白黒マルチ栽培現地検討会	7月29日	深谷市・本庄市ねぎ生産者圃場 (3か所)
産直センターいちご部会育苗現地検討 会	8月2日	産直センターいちご部会育苗ほ25カ所

Ⅶ 農業革新支援担当

J Aほくさい北川辺いちご部挿苗検討会	8月5日	加須市北川辺育苗ハウス（8か所）
J Aちちぶいちご部会講習会	8月8日	秩父農林振興センター
埼玉県野菜園芸技術研究会総会・立毛共進会表彰式	8月21日	種苗センター
埼玉いちご連合会総会	8月29日	種苗センター
養液いちご研究会 栽培講習会	9月2日	熊谷市文化創造館さくらめいと
埼玉県さといも協議会幹事会	9月26日	教育会館
第2回「べにたま」栽培講習会	10月18日	大里農林振興センター
J Aほくさい北川辺いちご部現地検討会	11月5日	北川辺いちご部ハウス（8か所）
養液いちご研究会現地検討会	11月18日	ただかね農園・小松沢レジャー農園
J Aちちぶいちご部会視察研修会	12月11日	農業技術研究センター
第5回次世代型トマト栽培セミナー	12月16日	大寄公民館
きゅうり環境制御交流会「タバココナジラミの生態と対策」	12月16日	農業技術研究センター（オンライン）
埼玉県さといも協議会幹事会	12月20日	県信連浦和分館
埼玉県野菜園芸技術研究会打合せ	12月18日	農業技術研究センター
北川辺いちご部 第2回現地検討会・食味会	1月28日	北川辺いちご部ハウス（8か所） J Aほくさい北川辺営農経済センター
比企地域いちご若手生産者研修会	1月29日	東松山地方庁舎
埼玉県さといも協議会共進会表彰式	1月30日	県信連浦和分館
埼玉県野菜園芸技術研究会打合せ	2月18日	農業技術研究センター久喜試験場
きゅうり環境制御交流会「現地研修会」	2月25日	熊谷市きゅうりハウス1か所
きゅうり環境制御交流会「研修会 きゅうり栽培のかん水」	2月28日	農業技術研究センター（オンライン）
児玉地域いちご食味研修会	3月4日	J A埼玉ひびきの本店
J Aちちぶいちご部会食味検討会	3月10日	秩父農林振興センター
埼玉県野菜園芸技術研究会会員研修会	3月11日	熊谷市トマトハウス1か所
埼玉県野菜園芸技術研究会会員研修会	3月18日	上里町トマトハウス1か所
令和6年度県育成いちご品種栽培技術検討会	8月6日 10月22日 12月10日 3月14日	農技研本所・種苗センター・秩父農林振興センター・現地視察（久喜市・秩父市・深谷市・行田市）

VII 農業革新支援担当

県育成いちご品種に係る現地巡回	9月6日 9月17日 10月16日 2月28日	吉見町、川島町現地圃場
県育成いちご品種に係る現地巡回	7月16日 11月26日	久喜市現地圃場

(果樹関係)

企画・研修等名称	期 日	場 所
埼玉県果実連合会役員会議	5月1日	埼玉県種苗センター
彩の国ぶどう倶楽部講習会	5月9日	深谷市本田
ブドウ新梢管理講習会	5月14日	本庄市今井
埼玉県梨経営研究会研修会	5月22日	久喜試験場
農業大学校講義	5月28日	農業大学校
彩玉栽培技術研修会	5月30日	久喜試験場
埼玉県果実連合会役員会議	6月7日	埼玉県種苗センター
埼玉県果実連合会 第56回通常総会	6月27日	埼玉県種苗センター
彩の国ぶどう倶楽部現地巡回検討会	7月24日	深谷市、長瀬町
埼玉県果実連合会 令和6年産埼玉なし取引協議会	7月25日	浦和ワシントンホテル
J Aふかや寄居町梅生産組合夏期せん 定講習会	7月26日	寄居町寄居
埼玉県果実連合会幸水・彩玉販売対策 会議	7月29日	埼玉県種苗センター
埼玉県果実連合会彩玉委員会	7月29日	埼玉県種苗センター
埼玉県梨経営研究会研修会	7月31日	久喜試験場
久喜市梨組合果実審査会	8月8日	南彩農業協同組合 江面支店
彩玉栽培技術研修会	8月13日	久喜試験場
埼玉県果実連合会豊水販売対策会議	8月20日	埼玉県種苗センター
ちちぶ山ルビー品評会	8月22日	秩父農林振興センター
第10回彩玉なし共進会審査会	8月27日	全農埼玉県本部 高砂ビル
埼玉県梨経営研究会研修会	10月30日	久喜試験場
埼玉県果実連合会彩玉委員会	10月31日	全農埼玉県本部 東部総合センター

Ⅶ 農業革新支援担当

埼玉県果実連合会役員会	10月31日	全農埼玉県本部 東部総合センター
花粉確保対策連絡会議	11月11日	久喜試験場
令和6年度なし出荷反省会、 第10回彩玉なし共進会表彰式	11月21日	群馬県渋川市
J Aいるま野西部果樹部会防除検討会	12月6日	日高市中沢
彩の国ぶどう倶楽部せんだい講習会	12月8日	深谷市本田
川越ブドウ組合せんだい講習会	12月12日	川越市的場
埼玉県梨経営研究会研修会	12月13日	久喜試験場
彩玉栽培技術研修会	12月19日	久喜試験場
くりせんだい講習会	1月22日	熊谷市須賀広
彩の国ぶどう倶楽部講習会	2月20日	久喜試験場
なし花粉確保対策等連絡会議	2月28日	久喜試験場
山椒せんだい講習会	3月1日	ときがわ町大野
ときがわ町果樹研究会接木講習会	3月27日	ときがわ町桃木

(花植木関係)

企画・研修等名称	期 日	場 所
埼玉県洋蘭生産者組合理事会	4月～3月	WEB
埼玉県シクラメン研究会理事会	4月9日	鴻巣花き
埼玉県シクラメン研究会理事会	6月4日	鴻巣花き
埼玉県シクラメン研究会研修会	8月29日	川口市安行原
埼玉県シクラメン研究会理事会	10月17日	鴻巣花き
埼玉ばら栽培研究会研修会	10月28日	県民活動総合センター
埼玉県シクラメン研究会理事会	1月28日	鴻巣花き
埼玉ばら栽培研究会研修会	2月28日	県民活動総合センター
埼玉県シクラメン研究会研修会	3月6日	鴻巣市市民活動センター

(畜産関係)

企画・研修等名称	期 日	場 所
美里飼料イネ事業に関する打合せ	4月24日	美里町役場
美里飼料用イネ水田の現地確認及び飼料イネ会議	9月18日	美里町水田及び美里町役場
美里飼料用イネ全体会議 美里飼料用イネ協議会会議	12月11日	J A埼玉ひびきの美里支店

ウ 委員会等委嘱活動
(作物関係)

委員会名	内容	主催
埼玉県米麦改良協会	常任幹事	埼玉県米麦改良協会
埼玉県農業機械化経営者協議会	幹事	埼玉県農業機械化経営者協議会
埼玉県農業機械化協会	幹事	埼玉県農業機械化協会

(野菜関係)

委員会名	内容	主催
第10回さといも共進会	審査員(長)	埼玉県さといも協議会 (審査: 11/12)
第48回及び49回施設野菜立毛共進会	審査員(長)	埼玉県野菜園芸技術研究会 (審査: 4/9 半促成きゅうり、3/4 促成トマト)
埼玉県育成いちご品種生産振興協議会	推進部会構成員	埼玉県育成いちご品種生産振興協議会 推進部会 (糖度測定目合わせ会 1/21)

(スマート農業関係)

委員会名	内容	主催
埼玉県スマート農業普及推進協議会	委員	埼玉県 (協議会: 6/5、11/18)

(果樹関係)

委員会名	内容	主催
第10彩玉なし共進会	審査委員長	埼玉県果実連合会
第10回彩玉なし共進会	審査員	埼玉県果実連合会
令和6年度果実審査会	審査員	久喜市梨組合

(花植木関係)

委員会名	内容	主催
第58回全国花き品評会シクラメン部門	審査員	一般社団法人 日本花き生産協会
令和6年度埼玉県シクラメン研究会共進会	審査員	埼玉県シクラメン研究会
第73回関東東海花の展覧会	審査員	関東東海花の展覧会
第48回埼玉県植木共進会	審査員	埼玉県植木生産組合連合会

(畜産関係)

委員会名	内容	主催
関東東海北陸地域普及指導員等連絡協議会	構成員	関東東海北陸地域普及指導員等連絡協議会
埼玉県粗飼料利用研究会	幹事	埼玉県粗飼料利用研究会
埼玉酪農収益力支援クラスター協議会	構成員	埼玉酪農業協同組合
全農埼玉県本部クーラーステーションクラスター協議会	構成員	全農埼玉県本部

VIII 病虫害防除所業務

1 病虫害発生予察

- (1) 主要 15 農作物の 160 病虫害発生予察調査の実施
- (2) 病虫害発生予察会議の開催及び発生予報の作成
- (3) 警報、注意報、特殊報等の発表
- (4) ホームページ、SNS 等による情報発信

2 病虫害防除対策

- (1) 検疫病虫害侵入リスク管理対策
- (2) 重要害虫の防除対策
- (3) 新規病虫害のまん延防止対策
- (4) 病虫害診断と防除指導
- (5) ホームページ、SNS 等による情報発信
- (6) 病虫害や農薬に関する相談への対応
- (7) 特別栽培農産物の認証への協力

3 農薬安全使用対策

- (1) 農薬適正使用対策の推進
- (2) 農薬取締法に基づく農薬販売届の受理及び販売店の立入検査、指導
- (3) 農薬取締法に基づく指導

4 肥料・飼料業務

- (1) 肥料の品質の確保等に関する法律に基づく肥料の検査及び指導
- (2) 肥料の品質の確保等に関する法律に基づく肥料の登録及び届出の受理
- (3) 肥料生産量及び流通量の調査
- (4) 飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づく飼料の検査
- (5) 飼料の製造及び流通、飼料添加物の生産・流通量等の調査

- 詳細は、「埼玉県病虫害防除所業務年報（令和 6 年度）」を参照
<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/nenpou/r6nenpou.html>

IX 令和6年度決算（農業研究費＋畜産研究費）

1 歳入

科 目	金額 (円)
使用料及び手数料	0
国庫委託金	1,381,000
財産収入	13,496,898
諸収入	30,122,833
一般財源（県債含）	49,878,676
計	94,879,407

2 歳出

科 目	金額 (円)
報償費	0
旅費	2,526,172
需用費	68,072,701
役務費	5,646,474
委託料	60,000
使用料及び賃借料	48,180
備品購入費	17,921,380
負担金、補助及び交付金	604,500
計	94,879,407